

「2014年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」報告書

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:富塚 優)が運営する、リクルート進学総研では、全国の国・公・私立高校の進路指導主事を対象に、進路指導・キャリア教育の実態についてのアンケート調査を隔年で実施しています。2004年の「キャリア教育元年」からちょうど10年が経過した2014年調査では、進路指導の困難度合いや取り組み状況、キャリア教育の進捗状況、今後の授業改善に対する考えについて調査しました。その分析結果をまとめましたので、ご報告申し上げます。

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研

TOPICS

I-1. 進路指導の困難

■「非常に難しい」と感じている割合は32%

全体の9割以上が難しさを感じている点はこれまでの調査結果と変わらない

・「非常に難しい」は2010年をピークに減少傾向だが「やや難しい」が増加。「難しい」という認識が9割を占める状況が続く。

■難しさの最大要因は、「教員が進路指導を行うための時間の不足」「進路選択・決定能力の不足」

景況感を受けて家計や就職環境に関する要因は減少

・前回トップの「家庭・家族環境の悪化:家計面」は減少、6位に後退した。

I-2. 進路指導の取り組み

■生徒対象の取り組みは学校内完結・学外連携いずれも充実、保護者向け取り組みが増加

・生徒対象の学校内完結取り組みは「進路ガイダンス」「進学面接指導」「小論文指導」、学外連携取り組みは「オープンキャンパスへの参加指導」が上位。保護者向けには「三者面談」がほぼ全校に浸透する他、「保護者通信」が増加した。

■生徒の進学先として重視する点は、「学びたい学部・学科・コースがある」「生徒の興味や可能性を広げられる」

■高大接続・連携の観点から大学・短大に期待することは、「入試の種類の抑制」「わかりやすい学部・学科名称」

II-1. キャリア教育の実施状況

■現在、キャリア教育に取り組んでいる高校は87%

・キャリア教育実施校の73%が「学校全体で取り組んでいる」。「進路指導担当部署が兼任」しての推進が最多だが、前回に比べ「進路指導業務を含んだ担当組織」「進路指導とは別の組織」の設置が増加した。

■実施時間は、「総合学習の時間」「ロングホームルーム」の他、日常の教科・部活動や行事でも幅広く実施

■キャリア教育の推進は、「情報収集」「勉強会」など導入準備の段階から「組織的・体系的な指導計画」「学校全体のキャリア教育の目標」を伴う実践の段階に進んでいる

II-2. キャリア教育の評価

■キャリア教育評価方法を策定・運用しているキャリア教育実施校は12%

・「評価の方法を検討・研究中」(22%)を含めると、キャリア教育実施校の3分の1が評価実施に意欲的である。

■キャリア教育実施校の89%が「自校のキャリア教育は生徒の役に立っている」と回答

■キャリア教育に対し、全体の68%が「生徒にとって有意義」と考えている

・「有意義」「望ましい進路指導が実現できそう」などポジティブな捉え方が増加。否定的・懐疑的な態度は減少傾向が続く。

■キャリア教育推進を難しくしている要因は、「教員の負担の大きさ」が突出

III-1. 授業改善の取り組み アクティブラーニング方授業など一斉講義型ではない授業への取り組み

■全体の47%が授業改善を実施中

・組織・体系的な取り組みはまだ少なく、「教員個人で取り組んでいる」が最多。

III-2. 社会のグローバル化を意識した教育への取り組み

■全体の24%がグローバル社会を意識した教育を実施中

・その他高校の意向は、「今後取り組みたい」「今後も取り組むことはない」に分かれる。

III-3. ICTを使った教育(授業)への取り組み

■全体の68%がICTを使った教育を実施中

・取り組み方の最多は「教員個人が導入している」。学校全体での導入はまだ少ない。

III-4. 反転授業への取り組み

■現在、反転授業に取り組んでいる高校は全体の2%

・43%が「『反転授業』という言葉聞いたことがない」。

目次

調査概要・回答者プロフィール	3
第Ⅰ部進路指導の実態	
1. 進路指導の困難	
1) 進路指導の難易度	4
2) 進路指導の難しさの要因	6
3) 進路指導の難しさの最大要因	8
【フリーコメント①】生徒の問題でどのような困難が生じているか	10
【フリーコメント②】保護者の問題でどのような困難が生じているか	11
【フリーコメント③】学校の問題でどのような困難が生じているか	12
【フリーコメント④】進路環境の問題でどのような困難が生じているか	13
2. 進路指導の取り組み	
1) 進路指導で実施している取り組み事項	14
2) 進路指導で実施している取り組みのうち、今後は廃止を検討している事項	18
3) 進路指導時に生徒の進学先として重視する点	22
4) 高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること	24
5) 高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること	26
【フリーコメント⑤】大学・短大・専門学校との接続・連携についての意見・課題	27
第Ⅱ部キャリア教育の実態	
1. キャリア教育の実施状況	
1) キャリア教育の実施状況	28
2) キャリア教育実施体制	29
3) キャリア教育担当部署の設置状況	30
4) キャリア教育実施時間	31
5) キャリア教育の推進状況	32
2. キャリア教育の評価	
1) キャリア教育の評価実施状況	34
【フリーコメント⑥】キャリア教育評価実施校の指標・方法	35
【フリーコメント⑦】キャリア教育評価の方法を検討・研究中の理由／評価予定はない理由	
2) キャリア教育の役立ち度	36
3) キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度	37
4) キャリア教育に対する考え	39
【フリーコメント⑧】キャリア教育に対する考え:「最も」そう思う理由	41
5) 今後注力していきたい教育	42
6) キャリア教育の推進を難しくしている要因	44
【フリーコメント⑨】キャリア教育の推進を難しくしている最大要因:そう思う理由	46
7) 生徒に将来必要とされる社会人基礎力と生徒が現在持っている社会人基礎力	47
生徒に将来必要とされる社会人基礎力	48
生徒が現在持っている社会人基礎力	49
第Ⅲ部授業改善の取り組み	
1. アクティブラーニング型授業など一斉講義型ではない授業への取り組み	
1) 一斉講義型ではない授業改善の実施状況	50
【フリーコメント⑩】授業改善の具体的取り組み内容	51
2) 授業改善に取り組む理由	52
【フリーコメント⑪】授業改善に取り組む理由:その他	53
2. 社会のグローバル化を意識した教育への取り組み	
1) グローバル社会を意識した教育の実施状況	54
【フリーコメント⑫】グローバル社会を意識した教育の具体的内容	55
2) 社会のグローバル化の高校教育への影響度	56
3. ICTを使った教育（授業）への取り組み	
1) ICTを使った教育（授業）の導入状況	57
2) ICTを使った教育（授業）の取り組み内容	58
3) ICTを使った教育（授業）に期待する効果	59
4) ICTを使った教育（授業）導入の課題	60
4. 反転授業への取り組み	
反転授業の実施状況	61

■調査概要

- 調査対象 全国的全日制高校4,836校の進路指導主事
- 調査期間 2014年10月6日～2014年10月31日 ※2014年11月5日到着分までを集計対象とした
- 調査方法 郵送法
- 有効回答数 1,140件（回収率23.6%）
- 回答者平均年齢 48.71歳

■回答者プロフィール

■高校設置者（全体／単一回答）（％）

	調査数	国公立	私立	無回答
2014年：全体	1140	73.3	25.9	0.8
2012年：全体	1179	74.6	24.9	0.5
2010年：全体	1208	74.5	24.8	0.7
2008年：全体	910	74.2	25.5	0.3
2006年：全体	813	76.9	23.1	—
2004年：全体	1122	77.5	22.5	—

P0001

■高校タイプ（全体／単一回答）（％）

	調査数	普通科・計		総合学科・計		専門高校・計				その他	無回答	普通科・計	総合学科・計	専門高校・計
		普通科単独校	普通科中心で学科併設校	含む総合学科単独校（移行中）	総合学科併設校	工業を中心とする高校	商業を中心とする高校	家政を中心とする高校	農業を中心とする高校					
2014年：全体	1140	54.6	20.1	5.2	1.1	5.9	3.2	0.4	2.4	5.4	1.8	74.7	6.3	11.8
2012年：全体	1179	54.3	19.1	5.8	1.3	5.8	3.4	0.4	2.0	4.7	3.2	73.4	7.0	11.6
2010年：全体	1208	53.0	20.4	6.5	1.0	5.5	4.5	0.2	3.5	4.2	1.3	73.3	7.5	13.7
2008年：全体	910	53.5	19.8	4.4	1.3	7.4	4.1	0.4	3.5	4.5	1.1	73.3	5.7	15.4
2006年：全体	813	52.3	19.2	6.2	1.2	8.4	5.7	0.5	3.2	3.4	—	71.5	7.4	17.8
2004年：全体	1122	52.9	18.8	3.9	0.7	8.1	5.8	0.6	3.7	4.5	1.1	71.7	4.6	18.2

P0005

■高校所在地（全体／単一回答）（％）

		北海道	東北	北関東・甲信越	北関東	甲信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	中国	四国	九州・沖縄	無回答	関東・甲信越	東海・北陸
2014年：全体	1140	7.1	11.4	11.8	6.4	5.4	16.8	13.5	2.7	12.0	11.3	7.1	4.2	12.5	0.8	28.6	16.2
2012年：全体	1179	7.5	10.3	11.5	6.2	5.3	17.3	12.7	2.4	13.2	11.6	8.1	3.5	12.9	0.5	28.8	15.1
2010年：全体	1208	7.9	10.1	11.9	7.2	4.7	17.5	11.6	3.0	12.7	12.4	8.9	3.5	12.2	0.7	29.4	14.6
2008年：全体	910	9.0	9.7	11.6	6.3	5.4	18.9	11.4	3.2	12.1	12.3	8.1	4.2	11.4	0.3	30.6	14.6
2006年：全体	813	7.4	10.6	*	*	*	*	*	*	11.8	10.7	*	*	11.7	－	29.9	18.0
2004年：全体	1122	7.7	7.8	*	*	*	*	*	*	15.8	10.9	*	*	12.4	－	31.2	14.3

※2004年・2006年：「北関東」「甲信越」「東海」「北陸」の区分が異なる

DB4.01

■校務分掌（全体／単一回答）（％）

	調査数	進路指導主事	進路指導担当	学年担当	学年主任	校長	教頭（副校長）	その他	無回答
2014年：全体	1140	85.0	12.5	7.0	1.9	—	0.5	2.3	1.8
2012年：全体	1179	84.4	11.9	5.9	1.2	—	0.3	2.4	2.8
2010年：全体	1208	84.1	14.5	7.0	1.5	—	0.2	2.4	1.3
2008年：全体	910	84.5	12.4	7.8	2.9	—	0.3	2.7	1.6
2006年：全体	813	81.8	15.0	4.6	2.5	—	0.2	3.2	2.6
2004年：全体	1122	82.4	14.6	0.3	0.7	—	—	0.9	1.2

P0004

■中高一貫・中学校併設状況（全体／単一回答）（％）

	調査数	有	無
2014年：全体	1140	17.9	82.1
2012年：全体	1179	18.1	81.9
2010年：全体	1208	18.2	81.8
2008年：全体	910	15.6	84.4

P0006

■大学短大進学率（全体／単一回答）（％）

	調査数	70%以上	40～70%未満	40%未満	無回答
2014年：全体	1140	46.5	18.6	34.1	0.8
2012年：全体	1179	45.7	19.8	32.9	0.5
2010年：全体	1208	41.5	21.1	36.7	0.7
2008年：全体	910	37.8	23.1	38.8	0.3
2006年：全体	813	30.8	22.8	46.5	—
2004年：全体	1122	31.7	23.4	44.9	—

P0002

※「*」は該当項目データなし

第Ⅰ部 進路指導の実態

1.進路指導の困難

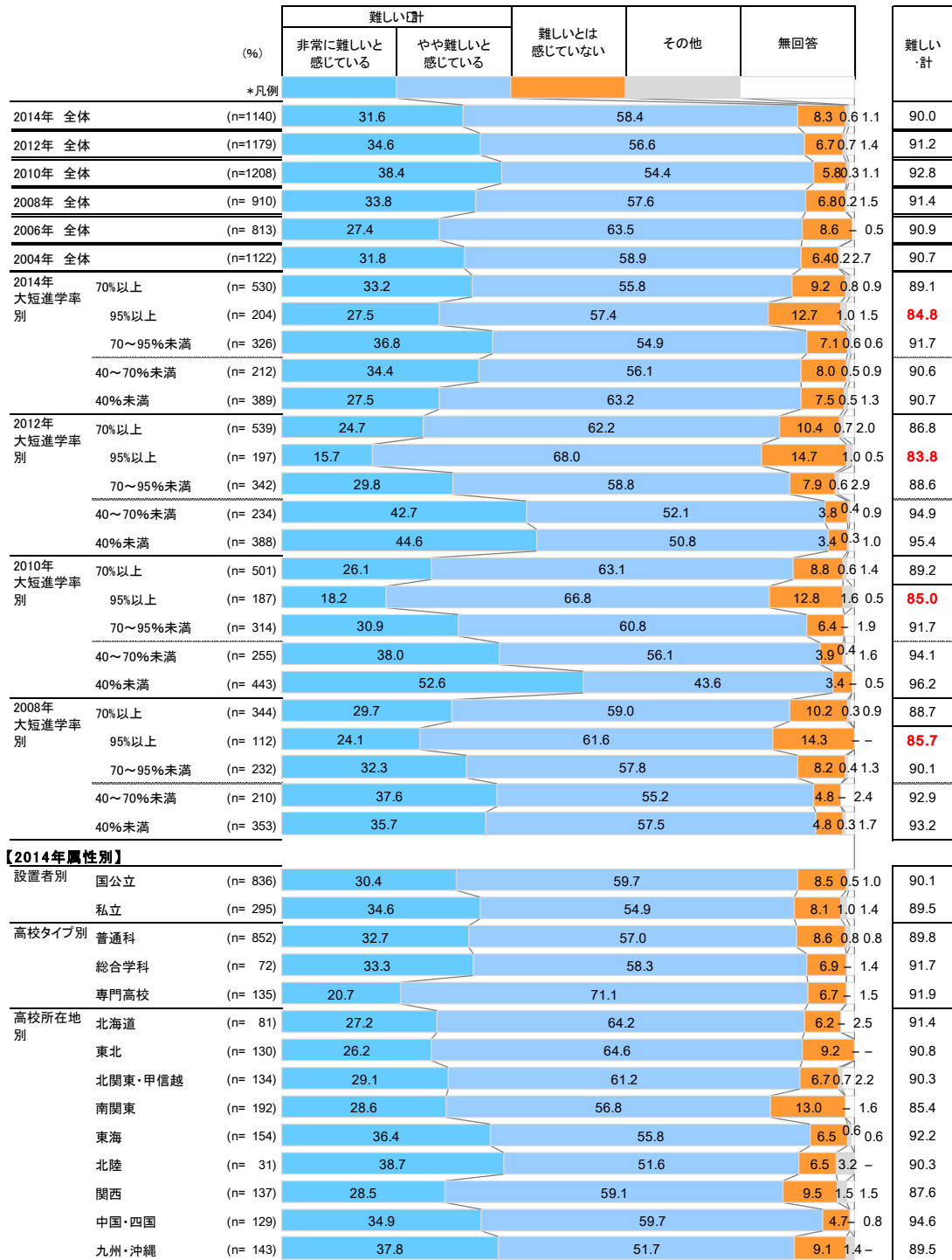
1) 進路指導の難易度

■「非常に難しい」と感じている割合は32%。

■全体の9割以上が難しさを感じている状況は、これまでの調査結果と変わらない。

- 現在、進路指導の難しさについてどのように感じているか。調査対象である進路指導主事を中心とした教員の32%が「非常に難しい」と回答。「やや難しい」の58%と合わせると、全体の9割が進路指導を難しいと感じている状況は過去調査と変わらないが、「非常に難しい」は10年(38%)をピークに減少傾向である。
- 大短進学率別にみると、08～12年は進学率が低い高校ほど「非常に難しい」割合が高かったが、14年は70%以上校、40～70%未満校が相対的に高くなっている(70～95%未満校が最多)。大短進学率40%未満校における「非常に難しい」割合は10年(53%)以降減少している。
- 設置者別にみると、「非常に難しい」の割合は、国公立(30%)、私立(35%)とも3割以上。
- 高校タイプ別にみると、「非常に難しい」の割合は普通科・総合学科とも33%。専門高校(21%)は相対的に低い。
- 高校所在地別にみると、「非常に難しい」の割合が相対的に高いは、北陸(39%)、九州・沖縄(38%)、東海(36%)、中国・四国(35%)である。

■進路指導の難易度（全体／単一回答）



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

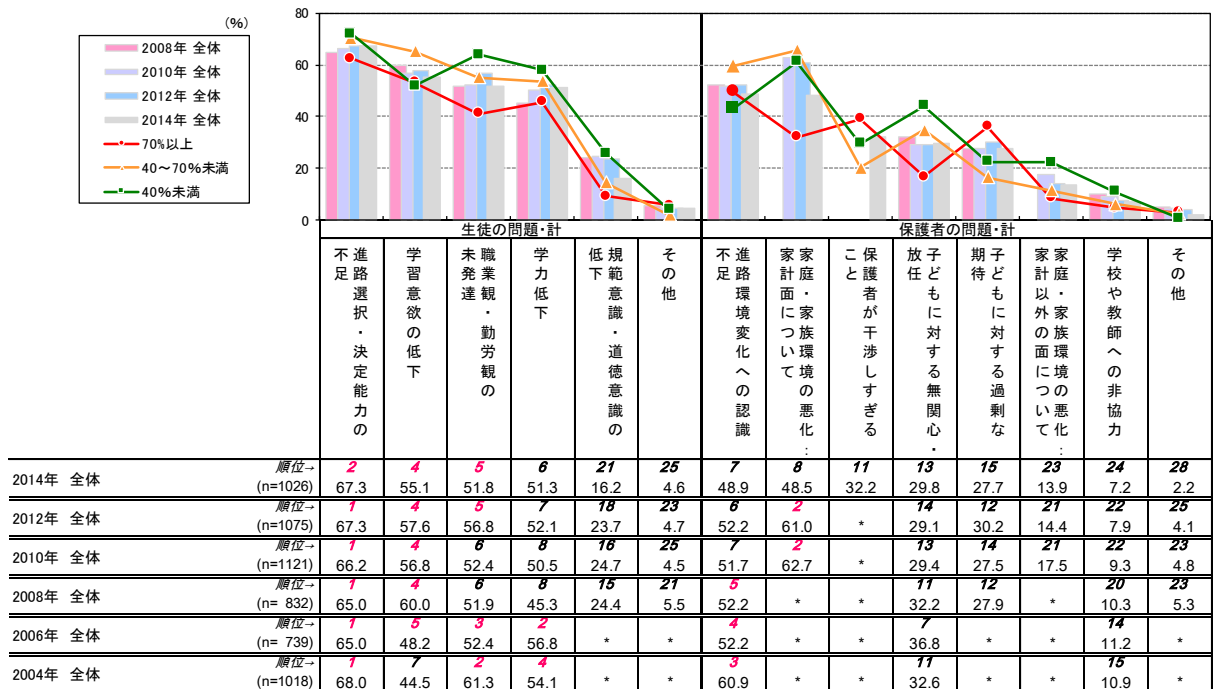
Q1.01

2) 進路指導の難しさの要因

■【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」、【生徒】「進路選択・決定能力の不足」が上位。

- 進路指導について「非常に難しい」「やや難しい」と回答した人にその要因をすべて選んでもらった。
トップは【学校】の「教員が進路指導を行うための時間の不足」(68%)、2位は僅差で【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」(67%)、3位は【進路環境】の「入試の多様化」(60%)である。以下、【生徒】の「学習意欲の低下」(55%)、「職業観・勤労観の未発達」(52%)、「学力低下」(51%)が続く。【生徒】が要因上位に挙がる傾向は変わらない。
- 前回調査と比べ、【学校】の「教員が進路指導を行うための時間の不足」、【進路環境】の「入試の多様化」が約10ポイント増加。反対に【保護者】の「家庭・家族環境の悪化:家計面」、【進路環境】の「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」は10ポイント以上減少。景況感を受けて家庭の家計や就職環境に改善したという認識がある一方で、多様化する入試方法や生徒の状態に対応するため時間不足を感じている教員の多忙さもうかがえる。
- 大短進学率別にみると、進学率により難しさの要因は異なる。
70%以上校は、【生徒】は相対的に低く、「教員が進路指導を行うための時間の不足」「入試の多様化」が要因の上位。
・ 95%以上校は上記2項目の他【保護者】の「保護者が干渉しすぎる」と「子どもに対する過剰な期待」が他層に比べ高い。
・ 70%～95%未満校では、【進路環境】「入試の多様化」が他層に比べ高く、要因のトップ。

■進路指導の困難の要因:すべて（進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者/複数回答）



【2014年属性別】

大短進学率	70%以上	(n= 472)	62.5	53.2	41.1	45.6	9.3	5.9	49.6	32.0	39.0	16.9	36.2	8.5	4.9	3.0
別	95%以上	(n= 173)	54.3	47.4	39.3	39.3	9.2	6.4	38.7	16.8	51.4	11.0	50.3	8.1	2.9	2.3
	70～95%未満	(n= 299)	67.2	56.5	42.1	49.2	9.4	5.7	55.9	40.8	31.8	20.4	28.1	8.7	6.0	3.3
	40～70%未満	(n= 192)	70.3	65.1	55.2	53.6	14.6	2.1	59.4	65.6	20.3	34.9	16.7	11.5	6.3	2.6
	40%未満	(n= 353)	72.0	51.8	64.0	57.8	25.8	4.2	43.1	61.2	29.5	44.2	22.7	22.4	11.0	0.8
設置者別	国公立	(n= 753)	69.1	54.4	53.8	52.5	15.8	4.6	50.5	50.2	30.0	30.3	25.2	14.1	8.4	2.1
	私立	(n= 264)	62.1	56.4	45.8	48.1	16.7	4.5	45.5	43.6	38.3	28.4	35.2	13.3	4.2	2.3
高校タイプ別	普通科	(n= 765)	67.7	56.5	50.2	49.9	15.4	4.4	49.5	47.2	32.8	28.0	28.5	12.0	6.5	2.5
	総合学科	(n= 66)	57.6	62.1	53.0	57.6	18.2	4.5	53.0	63.6	28.8	33.3	15.2	22.7	9.1	—
	専門高校	(n= 124)	71.8	47.6	55.6	53.2	20.2	3.2	46.0	50.0	32.3	36.3	31.5	17.7	12.1	—
高校所在地別	北海道	(n= 74)	67.6	44.6	52.7	45.9	17.6	4.1	45.9	58.1	31.1	37.8	27.0	13.5	2.7	1.4
	東北	(n= 118)	63.6	44.9	61.9	55.9	13.6	6.8	41.5	49.2	39.0	40.7	28.0	14.4	13.6	—
	北関東・甲信越	(n= 121)	70.2	59.5	44.6	60.3	14.0	3.3	57.0	50.4	30.6	33.1	27.3	19.0	9.9	—
	南関東	(n= 164)	61.6	48.2	44.5	42.7	12.8	6.1	46.3	39.6	35.4	23.2	31.7	7.9	3.7	1.8
	東海	(n= 142)	72.5	55.6	50.7	52.1	14.8	4.9	49.3	46.5	35.9	24.6	26.1	14.8	2.8	7.7
	北陸	(n= 28)	82.1	71.4	39.3	71.4	14.3	—	60.7	53.6	32.1	50.0	14.3	17.9	14.3	—
	関西	(n= 120)	64.2	57.5	53.3	40.8	18.3	1.7	45.0	46.7	30.8	24.2	27.5	13.3	7.5	2.5
	中国・四国	(n= 122)	70.5	70.5	51.6	59.0	17.2	6.6	55.7	47.5	23.8	30.3	25.4	12.3	9.8	0.8
	九州・沖縄	(n= 128)	65.6	53.1	60.2	50.0	21.9	3.9	49.2	55.5	28.9	26.6	31.3	16.4	7.0	2.3

※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※カテゴリーごと「2014年全体」降順ソート

Q2.01_1

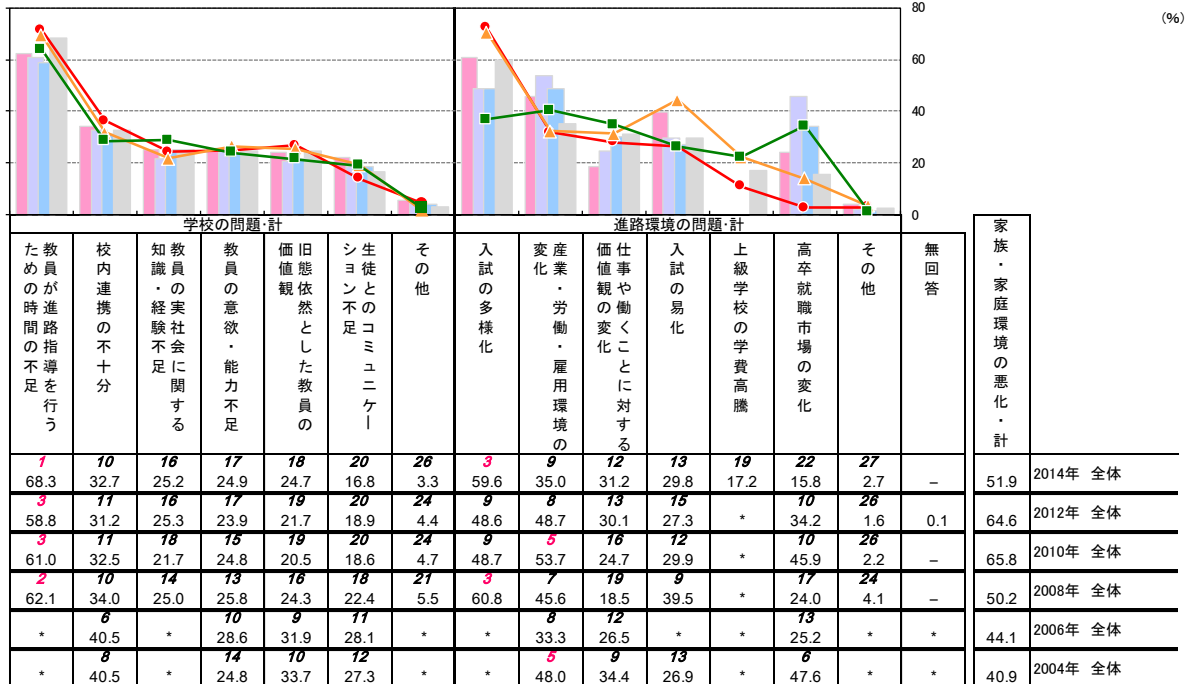
40～70%未満校は、【生徒】の「学習意欲の低下」、【進路環境】の「入試の易化」が他層に比べ高く、学力向上に結びつかない生徒の態度や入試制度が要因。

40%未満校は、【生徒】の「職業観・勤労観の未発達」や【進路環境】の「高卒就職市場の変化」など就職指導が他層に比べ高い。また、【保護者】の「子どもに対する無関心・放任」も高く、進路検討に対する保護者の態度も課題。

- 設置者別にみると、国公立のトップは「進路選択・決定能力の不足」(69%)、私立のトップは「入試の多様化」(68%)。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「教員が進路指導を行うための時間の不足」(70%)、総合学科は「家庭・家族環境の悪化:家計面」(64%)、専門高校は「進路選択・決定能力の不足」(72%)がそれぞれトップ。
- 高校所在地別にみると、いずれも「進路選択・決定能力の不足」が上位に挙がる。

※北陸はn=30未満のため、参考値

- ・北海道 ①進路選択・決定能力の不足 ②家庭・家族環境の悪化:家計面 ③進路指導を行うための時間の不足
- ・東北 ①進路選択・決定能力の不足 ①進路指導を行うための時間の不足 ③職業観・勤労観の未発達
- ・北関東・甲信越 ①進路選択・決定能力の不足 ②進路指導を行うための時間の不足 ③学力低下
- ・南関東 ①進路指導を行うための時間の不足 ②入試の多様化 ③進路選択・決定能力の不足
- ・東海 ①進路選択・決定能力の不足 ②進路指導を行うための時間の不足 ③入試の多様化
- ・北陸 ①進路選択・決定能力の不足 ②学習意欲の低下 ②学力低下 ②入試の多様化
- ・関西 ①進路指導を行うための時間の不足 ②入試の多様化 ③進路選択・決定能力の不足
- ・中国・四国 ①進路指導を行うための時間の不足 ②進路選択・決定能力の不足 ②学習意欲の低下
- ・九州・沖縄 ①進路指導を行うための時間の不足 ②進路選択・決定能力の不足 ③職業観・勤労観の未発達



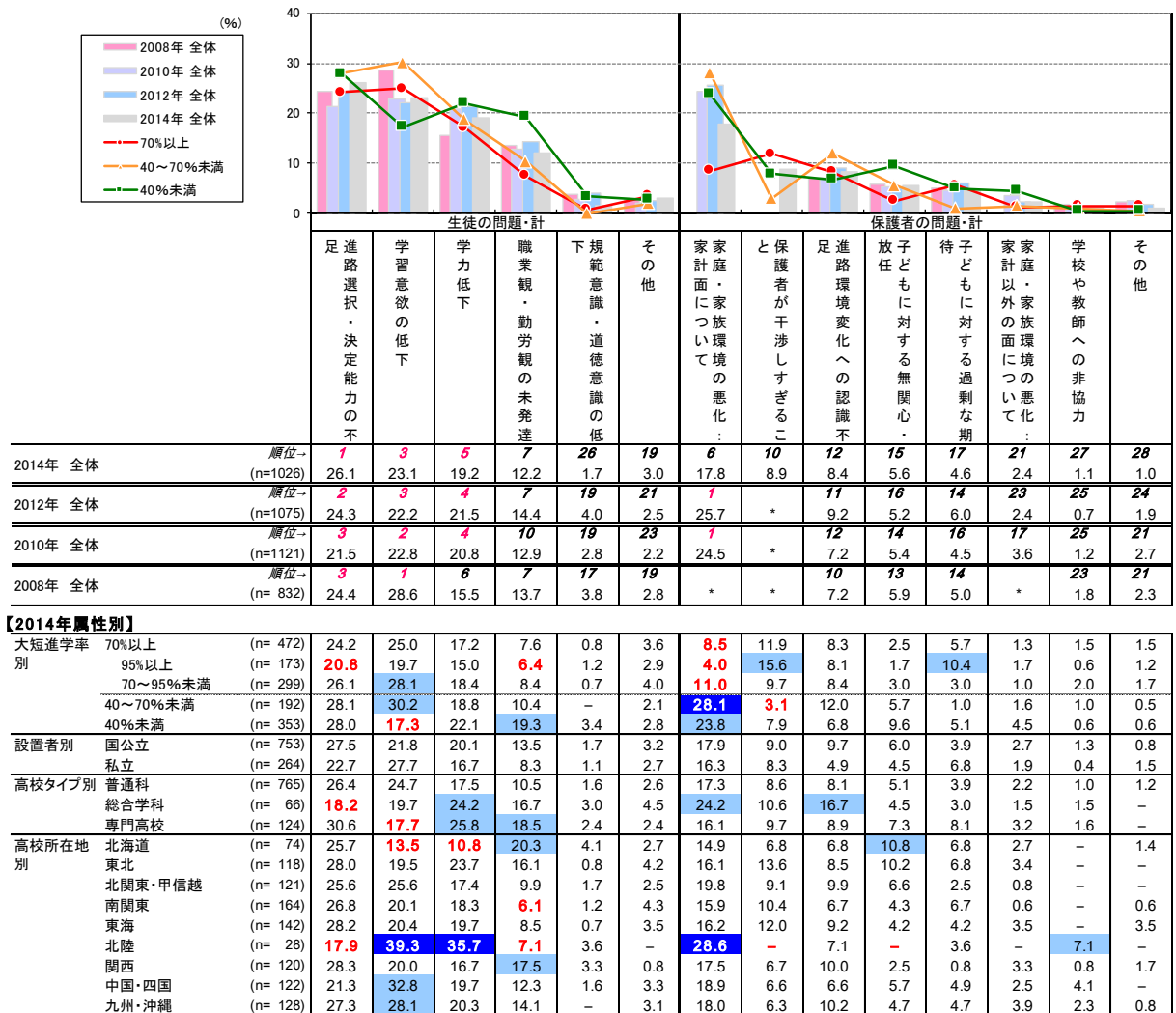
【2014年 性別別】																
71.4	36.4	24.4	24.8	26.9	14.0	4.4	72.2	31.8	28.2	26.7	11.2	2.8	3.2	-		
71.1	31.2	20.2	21.4	27.7	13.3	4.0	68.2	27.2	26.6	20.2	8.7	0.6	2.9	-	35.0	70%以上
71.6	39.5	26.8	26.8	26.4	14.4	4.7	74.6	34.4	29.1	30.4	12.7	4.0	3.3	-	21.4	95%以上
69.3	31.8	21.9	26.6	25.5	19.3	1.6	70.3	32.3	31.3	44.3	22.4	14.1	3.6	-	42.8	70～95%未満
64.0	28.6	28.9	24.1	21.5	19.0	2.5	36.8	40.5	34.8	26.3	22.4	34.3	1.4	-	69.3	40～70%未満
68.9	29.5	23.6	23.9	23.1	17.0	3.7	56.6	37.1	32.3	28.3	18.3	17.4	2.7	-	65.2	40%未満
67.0	42.4	30.7	27.7	29.5	15.9	1.9	68.2	28.8	27.7	34.5	14.0	11.4	2.7	-	53.7	国公立
70.1	34.2	25.0	24.6	25.1	15.3	3.0	66.1	32.9	31.1	31.4	16.6	10.2	2.9	-	47.0	私立
53.0	31.8	24.2	30.3	25.8	19.7	3.0	45.5	47.0	30.3	27.3	22.7	21.2	4.5	-	49.9	普通科
68.5	25.0	23.4	14.5	19.4	21.8	2.4	35.5	43.5	30.6	18.5	16.1	41.9	2.4	-	72.7	総合学科
58.1	35.1	31.1	32.4	27.0	21.6	2.7	47.3	33.8	36.5	32.4	25.7	18.9	5.4	-	55.6	専門高校
63.6	29.7	31.4	24.6	28.0	19.5	4.2	46.6	38.1	39.0	21.2	16.1	15.3	2.5	-	59.5	北海道
61.2	37.2	19.8	29.8	24.8	16.5	1.7	57.9	34.7	33.1	34.7	19.8	19.0	0.8	-	53.4	東北
76.2	36.6	26.2	26.8	31.7	17.7	3.0	68.9	36.6	22.6	30.5	16.5	9.8	2.4	-	54.5	北関東・甲信越
67.6	31.7	24.6	19.0	21.8	16.2	4.2	64.1	38.0	27.5	31.7	15.5	21.8	4.2	-	42.7	南関東
60.7	32.1	25.0	14.3	25.0	21.4	-	71.4	14.3	42.9	32.1	17.9	7.1	-	-	50.0	東海
72.5	29.2	27.5	20.8	20.8	9.2	0.8	67.5	33.3	29.2	26.7	16.7	15.8	0.8	-	60.7	北陸
72.1	35.2	23.0	21.3	19.7	14.8	3.3	55.7	34.4	31.1	32.0	17.2	12.3	-	-	50.8	関西
71.1	28.1	22.7	29.7	23.4	18.8	6.3	57.0	33.6	32.8	29.7	14.1	18.0	6.3	-	50.8	中国・四国
															57.8	九州・沖縄

3) 進路指導の難しさの最大要因

■最大要因としても、【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」、【学校】の「教員が進路指導を行うための時間の不足」が上位。

- 進路指導を困難にしているすべての要因のうち、最も大きな要因とを感じるものを3つまで選んでもらった。前項と同様、【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」、【学校】の「教員が進路指導を行うための時間の不足」(いずれも26%)が上位に挙げた。以下【生徒】の「学習意欲の低下」(23%)、【進路環境】の「入試の多様化」(20%)が続く。
- 前回に比べ【学校】の「教員が進路指導を行うための時間の不足」は8ポイント増加、順位は前回5位→2位に上昇。この他【進路環境】の「入試の多様化」が微増している。一方、前回トップの【保護者】の「家庭・家族環境の悪化:家計面」は8ポイント減少、順位は1位→6位に下降した。
- 大短進学率別にみると、いずれも「教員が進路指導を行うための時間の不足」が上位。70%未満校では「家庭・家族環境の悪化:家計面」が依然上位に挙げられる。70%以上校は「教員が進路指導を行うための時間の不足」がトップ、次いで「入試の多様化」「学習意欲の低下」。95%以上校は「教員が進路指導を行うための時間の不足」、70～95%未満校は「学習意欲の低下」がそれぞれトップ。40～70%未満校は「学習意欲の低下」がトップ、「教員が進路指導を行うための時間の不足」「進路選択・決定能力の不足」「家庭・家族環境の悪化:家計面」が続く。40%未満校は「進路選択・決定能力の不足」「家庭・家族環境の悪化:家計面」「教員が進路指導を行うための時間の不足」が上位。

■進路指導の困難の要因:上位3つ (進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者/3つまで回答)



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

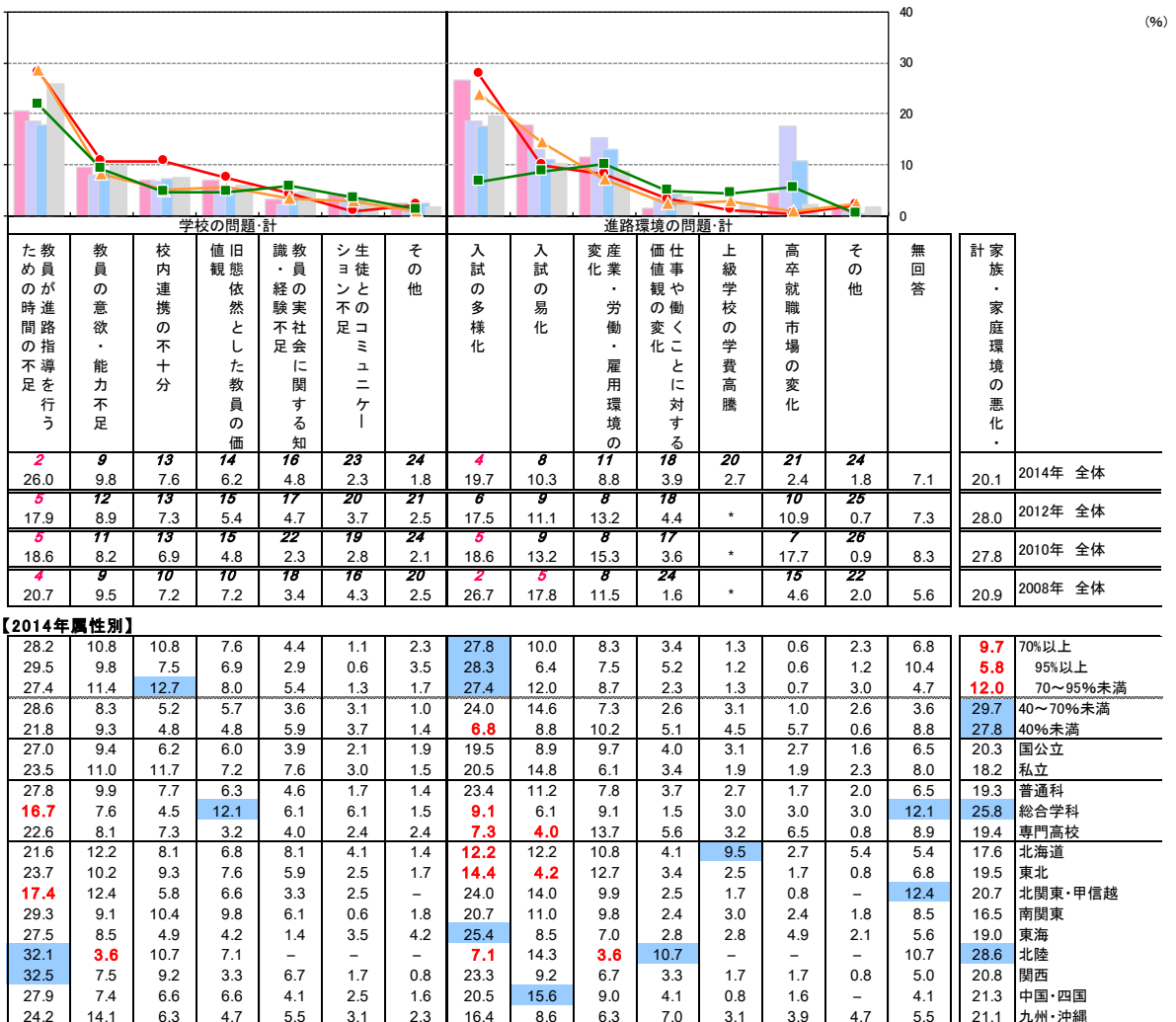
※カテゴリごと「2014年全体」降順ソート

Q2_SQ1_01_1

- 設置者別にみると、国公立は「進路選択・決定能力の不足」(28%)、私立は「学習意欲の低下」(28%)がトップ。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「教員が進路指導を行うための時間の不足」(28%)、総合学科は「学力低下」「家庭・家族環境の悪化:家計面」(いずれも24%)、専門高校は「進路選択・決定能力の不足」(31%)がそれぞれトップ。
- 高校所在地別にみると、いずれも「進路選択・決定能力の不足」が上位に挙がる。「進路指導を行うための時間の不足」は北関東・甲信越を除く全エリアで上位。「学習意欲の低下」は北関東・甲信越、中国・四国、九州・沖縄、「入試の多様化」は北関東・甲信越、南関東、東海、関西でそれぞれ上位に挙がる。

※北陸はn=30未満のため、参考値

- ・北海道 ①進路選択・決定能力の不足 ②進路指導を行うための時間の不足 ③職業観・勤労観の未発達
- ・東北 ①進路選択・決定能力の不足 ②学力低下 ②進路指導を行うための時間の不足
- ・北関東・甲信越 ①進路選択・決定能力の不足 ①学習意欲の低下 ③入試の多様化
- ・南関東 ①進路指導を行うための時間の不足 ②進路選択・決定能力の不足 ③入試の多様化
- ・東海 ①進路選択・決定能力の不足 ②進路指導を行うための時間の不足 ③入試の多様化
- ・北陸 ①学習意欲の低下 ②学力低下 ③進路指導を行うための時間の不足
- ・関西 ①進路指導を行うための時間の不足 ②進路選択・決定能力の不足 ③入試の多様化
- ・中国・四国 ①学習意欲の低下 ②進路指導を行うための時間の不足 ③進路選択・決定能力の不足
- ・九州・沖縄 ①学習意欲の低下 ②進路選択・決定能力の不足 ③進路指導を行うための時間の不足



【フリーコメント①】生徒の問題でどのような困難が生じているか

■進路選択・決定能力の不足

【大短進学率70%以上】

- 最後まで自分自身が進学する大学・学部を決められない状況で、最後は教員や保護者に頼る生徒がいる。
[北海道/私立/普通]
- 何に興味・関心があるのかが分からず、結果的に文理選択においてミスマッチが生じている可能性がある。
[茨城県/県立/普通]
- 一旦決定した指定校推薦であるのに辞退する生徒が複数名出た。自分で決定できないもろさを感じる。
[大阪府/府立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 1年次から進路意識を持たせ知識を拡げるガイダンス等を実施しているがほとんど効果なく3年生になっても進路希望が決めきれずズルズル卒業まで行ってしまう生徒がいる。
[東京都/都立/普通]
- 生徒が自分でしっかりとした進路選択ができないため、一度決めた進路が何度も振り出しに戻ってしまい、受験校がなかなか確定しない。
[静岡県/県立/普通]
- 自分が何がしたいのか、何に向いているのか分からない。真剣に探そうとしない。
[兵庫県/県立/普通]

【大短進学率40%未満】

- ひとつの情報だけで判断する傾向があり、選択肢を増やそうとする意欲に欠ける。
[北海道/道立/普通]
- 自分の夢や希望が希薄で、なりたい職業が見当たらず、進路選択ができない生徒がいる。
[秋田県/県立/専門]
- 生徒自身が社会的事情が分からない状況で進路決定。経験不足による誤った職業観。
[福島県/県立/総合]

■学習意欲の低下

【大短進学率70%以上】

- 授業への取り組み: 予習・復習が習慣化できない生徒が多い。(部活動との両立ができない)
[神奈川県/県立/普通]
- 勉強しなくても入れる所を探そうとする。先輩が簡単に合格していったと思っている。教育課程変更により、学習内容が急増した。
[岐阜県/県立/普通]
- 指定校推薦入試制度を活用するなど、合格の可能性が高いところを志望し早く受験を終えようとする傾向がある。
[広島県/市立/総合]

【大短進学率40～70%未満】

- 現状の学力でも進学可能な選択肢があるので目標を決めてチャレンジする姿勢に欠けている。
[岩手県/私立/普通]
- 教科を通して社会や生き方を学ぶことにつながらない。従って、進路に対する意欲を持っていない。
[神奈川県/私立/普通]
- 学力向上→将来の幸せという図式が成り立たなくなっているため、生徒の意欲も「無理しなくていい」となる。
[埼玉県/県立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 中学校での学習が理解できていない生徒が多いため、高校での授業にドロップアウトしていく。
[三重県/県立/普通]
- 自ら学ぼうとする意欲がなく、与えられたものをこなそうとするだけ。
[青森県/県立/総合]

■学力低下

【大短進学率70%以上】

- 中学基礎が不十分のまま入学し、そのまま授業についていけなくなる。
[長野県/県立/普通]
- 基礎学力や一般常識の欠如が、教科学習へ深刻な悪影響を及ぼしている。字が読めない、書けない、語彙力が不足しているから、教科書を理解できない。
[茨城県/私立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 推薦入試により安易な方向へ流れる生徒が多く、学力低下を招いており、そのことがまた、推薦入試方式へ流れるという悪循環。
[千葉県/県立/普通]
- 一般入試で4年制大学へ向かう層が薄くなっている。楽に、簡単に、早く進路決定をしたがる。
[石川県/県立/普通]
- 5教科まんべんなく学力をつけて入学してくる生徒が減っている。
[愛知県/県立/総合]

【大短進学率40%未満】

- 家庭環境が悪化している生徒は学力が低く、そのような生徒が多い。学力が低ければ、進路指導には困難が生じて当然。
[岩手県/県立/普通]
- 家庭学習経験がなく、学力向上心も薄い為、実力がつかない。よって希望まで届きにくい。
[滋賀県/県立/普通]
- 基礎力が低下しているため、専門科目の内容の理解ができないので、進路選択の幅が狭まった。
[愛媛県/県立/専門]

■職業観・勤労観の未発達

【大短進学率70%以上】

- 何も考えることなく家の近くの小、中、高と進学したため選択をする経験がなく、自分の将来を考えることができない。
[栃木県/県立/普通]
- 自分の単純な「好き嫌い」だけで、仕事を考える生徒もいる。社会への関心、問題意識が持てない生徒が多い。
[兵庫県/県立/普通]
- 「10年後の自分」といった理想像を描けず、近視的進路選択に陥り易い。
[福井県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 学校教育の中だけでは、勤労観を育てるまでの余裕がなく、家庭・地域の力を借りる必要がある。
[山形県/県立/普通]
- フリーターで構わないと考える生徒・保護者が増加する傾向にあること。
[兵庫県/県立/普通]
- 特に高校からの就職の場合、定年齢60歳までのライフプランを重視せず、数年先のことしか見えていない。特に女子にはその傾向が強い。
[大阪府/私立/普通]

【大短進学率40%未満】

- HPなどから、自分に都合の良い情報ばかりを仕入れてくる(求人票を見ていない)。下書きを軽く見て、いきなり提出用紙に書き、失敗の連続。
[北海道/道立/専門]
- アルバイトをしている生徒が多いが、就職をアルバイトの延長と捉えている生徒が多い。
[栃木県/県立/普通]
- 総合学科の生徒は結局は進路決定を中3でせず先にのばした生徒が集まっている。なかなか職業観や進学意識が高まらない。
[香川県/県立/総合]

【フリーコメント②】保護者の問題でどのような困難が生じているか

■家庭・家族環境の悪化：家計面について

【大短進学率70%以上】

- 国公立志向が強く、家庭でも「とにかく国公立」と言われていることが多いので、生徒の志望校選択に幅が出ない。
[神奈川県/私立/普通]
- 奨学金利用者の増大。家計悪化に伴う受験機会の絞り込み、それが指定校推薦(1回で済む)に流れる。
[大阪府/府立/普通]
- 県外や私学を、そもそも候補先に入れられない家庭の増加。
[広島県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 経済状況によっては進学できる学校がかなり限定されてしまっている。家から通える国公立大学でなければ就職または専門学校等。
[福岡県/県立/普通]
- AO入試、指定校推薦等、専願入試合格後、入学金が納められないなどの問題が数件あります。
[大阪府/私立/普通]
- 進路選択肢が限られてしまう。奨学金希望者が増加→生徒にわたる負担がのしかかる。(しかも現時点で無自覚が多い)
[埼玉県/県立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 専門学校・大学への進学を考えていても、経済的な問題で3年生になって諦める生徒もいる。
[愛知県/私立/普通]
- 進学希望の生徒が、10月、11月など求人がほぼ終わりがけた頃に就職希望となっても、選択肢が少ない。
[福井県/県立/専門]
- 家計の経済状態が困窮しているため進学の試験だけでなく就職試験に行くための旅費もない。
[長崎県/県立/専門]

■保護者が干渉しすぎること

【大短進学率70%以上】

- インターネットを用いてとにかく様々な情報を集めまくる。推薦などに対して権利意識を持ってそれを望む。ご自身の価値観を大きく子どもに押しつける。
[静岡県/県立/普通]
- 所謂、有名大学への固執、失敗を恐れて子どもに干渉し、先回りしてしまう。子どもに対する過度の期待。(または軽視)
[東京都/私立/普通]
- 「親のお陰で教育が受けられる」とする青年も増え、保護者の軽い希望や意見が干渉に置き換わってしまう。自分の夢や能力を言う前に、保護者の「方針」が前面に出てしまうので。
[岐阜県/県立/普通]
- 干渉し過ぎるというより、生徒が真面目で、親の言うことを素直に聞き過ぎる。
[埼玉県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 全体への連絡・指導に対して、保護者が個別に問い合わせしてくるにより、多忙化している。
[愛知県/県立/総合]

【大短進学率40%未満】

- 就職希望の生徒とよく話し合っただけで決めた受験先を、問答無用で却下される。
[宮城県/県立/専門]
- 進学については親子の会話がよくなされているが、就職に関しては噂や思い込みで反対されるケースが多い。
[鹿児島県/県立/専門]

■進路環境変化への認識不足

【大短進学率70%以上】

- 大学の難易度が変化しているのに親は分かっていない。昔の感覚で話をする。
[岡山県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 保護者が自分の時のイメージで進路選択について生にアドバイスすることが多く、実態に合わない場合が多い。
[静岡県/県立/普通]
- 就職も1/3いる本校では保護者が自分が高校生の頃の就職で行けた会社をイメージしているが今は違うので、そのイメージを変えてもらうのに時間がかかる。
[広島県/県立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 進路の環境変化というより、大学進学に必要な学力と生徒の学力の間に、大きな隔たりがあることを認識できない保護者がいる。
[奈良県/県立/専門]

■子どもに対する無関心・放任

【大短進学率70%以上】

- 全体にわかってもらおうとして講話などを実施するが参加者が少なく、また面談時などに同じ話をせざるをえないケースが増加している。
[北海道/道立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 「子どもに任せている」「好きにさせている」という言い方の放任。学費関係についての話し合いがなされていない。
[長崎県/県立/普通]

【大短進学率40%未満】

- PTA総会等の出席率の低下→親の考えが掴みにくい。
[山口県/県立/専門]
- ①子女に対し、ただ単に「金がないから就職」と言い続ける。②第8分野(声優、俳優、音楽、動物飼育)希望を止めようとしない。③学校から呼ばなければ面談しない。(保護者側からの申し出はない)
[群馬県/県立/総合]

■子どもに対する過剰な期待

【大短進学率70%以上】

- 保護者が生徒の力を過信し、受験計画の段階、担任との相談でせっかく入れた安全校を、保護者の一存で外してしまうことがよくある。
[東京都/私立/普通]
- 資格、実学系の学科(医・薬など)への過剰な期待に生徒本人の適性でのズレが大きい。
[福島県/県立/普通]
- 保護者の方の多くがバブルの時代に高校、大学であったためか理想のみ高い状況です。
[鳥取県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 本人の能力以上に期待し、進路が決められない。特に推薦か一般受験かに迷いがあり、機会を逃す。
[群馬県/私立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 親が期待しすぎて本人の能力以上の企業を希望する生徒がいる。
[愛媛県/県立/専門]
- 本人の特性や性格、学力などを、十分に把握していないケースが多い。
[大分県/県立/その他]

【フリーコメント③】学校の問題でどのような困難が生じているか

■教員が進路指導を行うための時間の不足

【大短進学率70%以上】

- 特に、高2秋に学校行事が立て込み、生徒も教員も落ち着いて学習、進路面談等を行う事が困難である。
[神奈川県/私立/普通]
- 授業時間の確保を最優先としているため、進路についてじっくり指導する時間が取れていないのが現状である。授業準備に追われていて、進路指導に対する資料、データの入手、検討の時間が十分に取れていないのが現状である。
[滋賀県/私立/普通]
- 現在は忙し過ぎる。補習、部活、模試の監督。担任は調査書や推薦書の書類作成に時間を取られて、余裕がない。
[兵庫県/市立/普通]
- 大学入試の多様化で、その一つ一つに対する対応方法を考え、他の教員に伝達することが現実的に困難である。
[和歌山県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 部活動はじめ、他のことで時間が取られる。調査文章など、事務処理が多過ぎる。上から一方的な教育計画を進めなければならない。
[福井県/県立/普通]
- 公立高校離れが進む中、広報活動に費やす時間の確保や学校不適応の生徒への対応、部活動の指導など、一人何役もしなければならない。時間が欲しい。
[福岡県/県立/普通]
- 選考内容の多様化により、専門教科ではない内容を指導する時間が必要となるが、なかなか時間が取れない。
[三重県/県立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 求人企業が増え応対が大変。来校も増え応対が大変。進路指導主事は教員ではない様な感じ。
[茨城県/県立/専門]
- じっくりと生徒とかかわる時間がなく、そのため個々に応じた進路指導がとれない。
[香川県/県立/専門]

■教員の意欲・能力不足

【大短進学率70%以上】

- 進路先さえ決まればどうでもいいという本来の進路指導を行う意欲がない。面倒を嫌う。サラリーマン的な教員が多い。
[栃木県/県立/普通]
- 若い教員自身が指定校推薦や一般推薦やAO等で大学に行っているケースがあり、最後まで学習をさせて自力で合格させる意識・意欲・スキルがない。
[愛媛県/県立/不明]

【大短進学率40～70%未満】

- 生徒と意識が連動している。現状のままでOKと言う感じ。何かしようとする、マイナス思考の意見が飛び交う。
[鳥取県/私立/普通]
- AO入試や推薦入試で簡単に合格が決まるため生徒の進路意識が低い。また教員側も「生徒はやる気がないしどうせ何もしなくても合格するから」という気持ちがあることは否定できない。
[福岡県/県立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 若い年齢層は経験が不足しており、それを補うだけの努力をしない。(教員のゆとり世代?)
[長野県/私立/普通]
- 学習意欲のない生徒に合わせた指導、諦めた指導になっているため、生徒のやる気を引き出せない。
[新潟県/県立/普通]

■校内連携の不十分

【大短進学率70%以上】

- 学年毎に分かれているため、学年団として意識が年によって異なる。教員の異動が多く、継続的な進路指導が難しくなっている。
[神奈川県/県立/普通]
- 科としては普通科だが、コースで細分化しているため、進路指導に格差が出て難しい。
[沖縄県/私立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 進路指導体制が確立されておらず、学年会によっても指導方針が異なるため、年度によらず一貫した指導という事ができない。
[長野県/私立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 先生方がまとまりにくく、力が分散し、1人1人が負担感が強い割に実績が上がりにくい。
[岩手県/県立/普通]
- 3年担任に過剰な負担。副担任や進路指導部が担任を支援するしくみが不十分。
[福島県/県立/専門]

■旧態依然とした教員の価値観

【大短進学率70%以上】

- 教職員自らが高校時代に受けた教育方法論で、今も変わらず指導されている先生方が多い。時代とともに教育環境が変化し、それに沿って指導の仕方も変えるべきではないか。
[高知県/私立/普通]
- 進路指導は家庭や予備校任せという風潮は、相変わらずある。
[神奈川県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 国公立大学に入学させることが目標になっている教員がいる。
[兵庫県/県立/普通]
- 総合学科のしくみを理解せず学年制の考えで指導されるため。負担感ばかりを感じてしまいキャリア教育に協力的されない。
[兵庫県/市立/総合]

【大短進学率40%未満】

- 教員が進路環境の変化に適応しようとしないうえ、進路指導の改革がスムーズに進まない。
[埼玉県/県立/総合]

■教員の実社会に関する知識・経験不足

【大短進学率70%以上】

- 教員しか経験がない人には、社会人基礎力を実感できないものです。大学受験の先を生々しく語れず、また負い目も生じてしまう。よって進路指導はできない。
[神奈川県/私立/普通]
- 塾・予備校経験者、または事務・営業職と教員経験のみの者との格差が大きい。社会人としてのOJTが教員には備わっておらず、甚だ見苦しい。
[大阪府/私立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 生徒に信頼されない教員がいる。管理職の現場を見る力が不足しているため、教員の質が上らず、適切な指導ができない。
[栃木県/私立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 生徒に実社会を伝えられない、見せられない教員が多い。そのため現在(今年)は企業訪問結果等情報提供を密にしている段階。
[北海道/道立/普通]
- 教員間の認識力に差があり過ぎる。40年の世代の開きは、単なるジェネレーションギャップでは説明できない。
[広島県/県立/普通]

【フリーコメント④】進路環境の問題でどのような困難が生じているか

■入試の多様化

【大短進学率70%以上】

- どの学校も生徒確保の為、毎年、入試制度を変えている。現場はそれに振り回され、進路指導者でもシステムがよく分からなかったりする場合がある。[大阪府/市立/普通]
- 生徒とのコミュニケーション不足もあるが、あまりにも入試が多様化し過ぎて、生徒に合った入試方法の選択やその準備・指導が難しい。[茨城県/私立/普通]
- AO、推薦を含め、早期決着を望む生徒の増加で、3月まで意識を継続させることが難しい。[京都府/私立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- AO入試等で早期に進路決定した生徒が多く、一般入試まで頑張る生徒のやる気を邪魔している雰囲気がある。[和歌山県/県立/普通]
- 100%進学の学校なら対応可能かと思われるが、進路多様校では、進路別、大学別の受験科目の設定には対応しきれない。[滋賀県/県立/普通]
- 教師側でも理解しきれない。システムのには大都会、大規模校向けであり、田舎の小さい学校では生徒の希望を叶えられる条件を作ることができない。[長野県/県立/普通]
- 小論文や面接などの指導が増加し教科指導の時間がとられてしまう。[大阪府/私立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 指導の統一性の難しさ。AO、一般、センターなど、多様な生徒を一律に指導することの難しさ、など。[愛媛県/県立/普通]
- 入試形態が多過ぎて、自分に合ったものを選択できない。[和歌山県/市立/専門]

■入試の易化

【大短進学率70%以上】

- 形だけのAO入試などがあるため、学習する必要性を感じにくくなっている。又、一般受験を目指している生徒のモチベーションを低下させる。[神奈川県/私立/普通]
- 指定校・AO・一般推薦の比重が高まり、本来の学力をつける取り組みが疎かになっている。[愛媛県/私立/普通]
- 全入時代によって安易に入学する生徒の中退増加！[栃木県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- AO、推薦ともに易しくなり過ぎて、学力がなくても合格してしまう。[愛媛県/県立/普通]
- 選ばなければ簡単に大学に入学できてしまうということで、まず根本的に学習する時間が不足している。大学入学後、授業についていけないケースも耳にすることがあり、悪循環だと感じている。[福島県/私立/普通]
- AO入試は不要。学力向上につながらない。専門学校も学科試験を課すルールを作る。[鳥取県/私立/普通]

【大短進学率40%未満】

- 大学入試が学習へのモチベーションアップにつながらない。[滋賀県/私立/普通]
- 学びの質を確保するための入試が行われているのかどうか、怪しい大学も少なくない。[徳島県/県立/その他]
- 日頃の学習活動は不十分でありながら安易な進学が目立つ。その状況でも行ける学校は山ほどある。[鹿児島県/県立/]

■産業・労働・雇用環境の変化

【大短進学率70%以上】

- 大学卒業後の姿について医師、教員などの専門職を除いて明確なビジョンを描きにくい。[新潟県/県立/普通]
- 子どもたちが目標とする大人のモデルがないので、自分の将来像をイメージできない。[岡山県/県立/普通]
- 資格志向及び実学志向が強く職業に直結する学部、学科や専門学校へ進学してしまう。[広島県/市立/普通]
- 労働環境が大きく変化し、非正規雇用が拡大したため、若者が仕事に就きづらい。その親も非正規化され、十分な教育を子どもに受けさせるのが困難になってきている。[長野県/県立/普通]
- 産業界が高校での学問を重視しない、もしくは重要であると表明しない。[広島県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 年功制、終身制の価値観が通用しない教員の世界観と異なっているため実感として指導が難しい。[岐阜県/県立/普通]
- 大学入試で求められる力と大学から就職するときに求められる力とがかけはなれている。[石川県/県立/総合]

【大短進学率40%未満】

- 実際の雇用は非正規が多いのに、正規雇用に向けた指導がメインになっている。[福島県/県立/専門]
- 産業が高度に専門化されてきたため、高校で学んだ専門的な知識や技術を生かせる場が減ってきた。[愛媛県/県立/専門]

■仕事や働くことに対する価値観の変化

【大短進学率70%以上】

- ほどほどに生きたい生徒が多く、スイッチがなかなか入りません。[富山県/県立/普通]
- 人生に対する価値観の変化は大いに感じる。親が子どもを守り過ぎている影響もあるのでは…[福岡県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

- 中学の時に体験した職場体験が、そのまま自分の進路希望になってしまっている場合がある。世の中の為に活躍したい、ではなく仲の良い友といればOKのような感じがある。[岐阜県/私立/普通]
- 夢のある将来が期待できない社会構造では、何のために頑張っていけばいいのか、大きなモチベーションが持てなくなる。[愛知県/県立/普通]

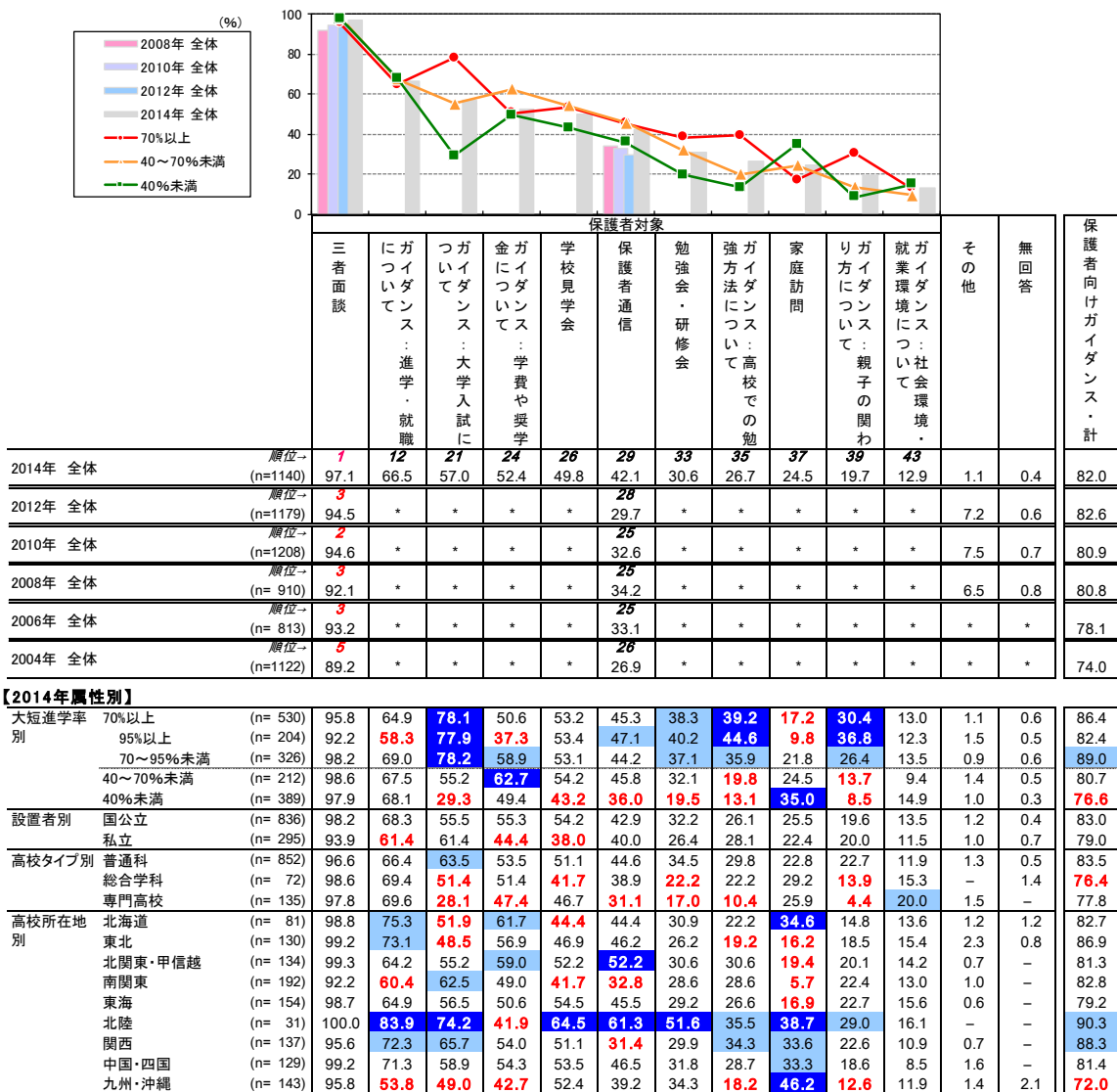
【大短進学率40%未満】

- 終身雇用が終わっているような社会で、労働者の使い捨ての企業も多い。転職が必ずしも悪い訳ではない中、働くことに対する価値観が多様化し過ぎ、指導が難しい。[岩手県/県立/普通]
- アルバイト等をして、自分なりの働き方を希望する生徒の増加。[富山県/私立/普通]
- 仕事に対する価値観がかわり一度働いたらなるべく続けるというところ(いかに)→すぐやめる。[京都府/私立/普通]
- 進路選択、決定能力の不足と同様に自分の適性を考えずに希望職種を選んでしまい失敗する。[香川県/県立/専門]
- 働きたくない生徒がいる。[長野県/県立/専門]

■保護者対象の取り組みが増加。

- 【保護者】対象の取り組みとして、「三者面談」(97%)はほぼ全校に浸透。前回に比べ、「保護者通信」(42%)が増加。この他、「ガイダンス」が「進学・就職について」(67%)、「大学入試について」(57%)、「学費や奨学金について」(52%)など多種実施されており、保護者ともコミュニケーションをとりながら進路指導に取り組む姿勢がうかがえる。
- 大短進学率別にみると、いずれも「三者面談」「ガイダンス:進学・就職について」の実施率は同程度。進学率が高い高校ほど「ガイダンス:大学入試について」の実施率が高い。
 - ・進学率70%以上校では、「ガイダンス:高校での勉強方法について」「ガイダンス:親子の関わり方について」も高い。特に95%以上校において実施率が高い。
- 設置者別にみると、国公立での実施率が私立に比べ高いものが多い。
 - ・実施率の差が大きい取り組みは、「ガイダンス:学費や奨学金について」「学校見学会」など。
 - ・私立の実施率が国公立を上回るものは、「ガイダンス:大学入試について」など。
- 高校タイプ別にみると、普通科で特に実施率が高いものが多い。
- 高校所在地別にみると、「三者面談」はいずれも地域も100%近くが実施。「保護者通信」の実施率は北陸(61%)と北関東・甲信越(52%)で高く、反対に関西(32%)と南関東(33%)では低い。

■進路指導で実施している取り組み事項:すべて（全体/複数回答）※つづき



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※カテゴリごと「2014年全体」降順ソート

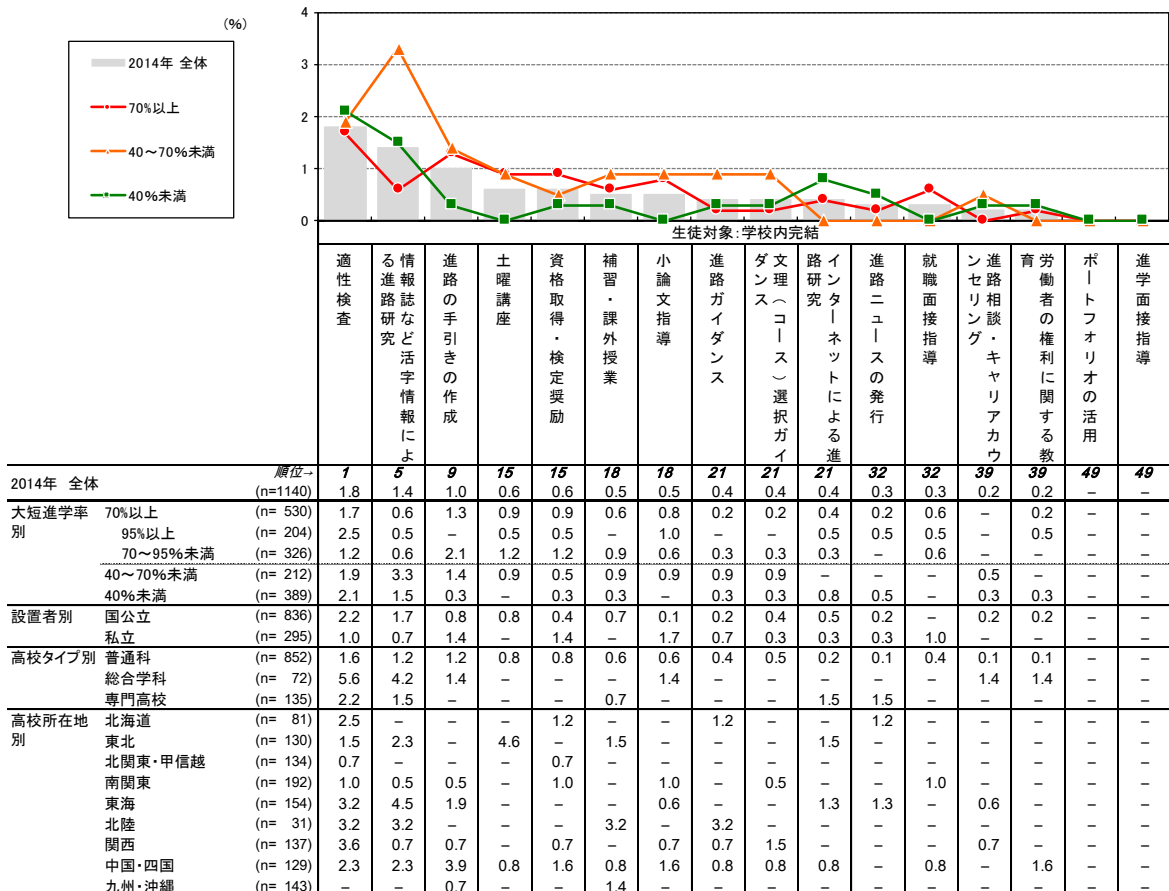
Q3_04

2) 進路指導で実施している取り組みの中で今後は廃止したい事項

■現在実施している取り組みについて、廃止検討予定はない。導入した取り組みは継続の意向。

- 現在自校で実施している進路指導の取り組みのうち、今後は廃止を検討している・廃止を検討したいものを5つまで選んでもらった。【生徒対象】【保護者対象】全項目が1～2%と、現在実施中の取り組みについて廃止意向はわずか。
- 【生徒対象】の取り組みのうち学校内で完結できるものでは、「適性検査」(1.8%)、「情報誌など活字情報による進路研究」(1.4%)、「進路の手引きの作成」(1.0%)が上位。
大短進学率別にみると、「情報誌など活字情報による進路研究」は40～70%未満校で最も高い。70%以上校の廃止意向は相対的に低い。
- 学校外との連携が必要な【生徒対象】取り組みでは、「進路行事としての学校見学会」(1.8%)、「高大連携:大学教授による出張授業」(1.6%)、「外部の進路イベントへの参加」(1.5%)が上位。
大短進学率別にみると、70%以上校は「高大連携:大学教授による出張授業」、40～70%未満校は「外部の進路イベントへの参加」、40%未満校は「進路行事としての学校見学会」がそれぞれトップ。40～70%未満校は「中高連携:職場体験学習の発展など」「高専連携:専門学校講師による出張授業」「就業体験(インターンシップ)」も他校に比べ高く、精査が必要と考える取り組みは相対的に多い。

■進路指導で実施している取り組みの中で今後は廃止したい事項:5つまで (全体/5つまで回答)



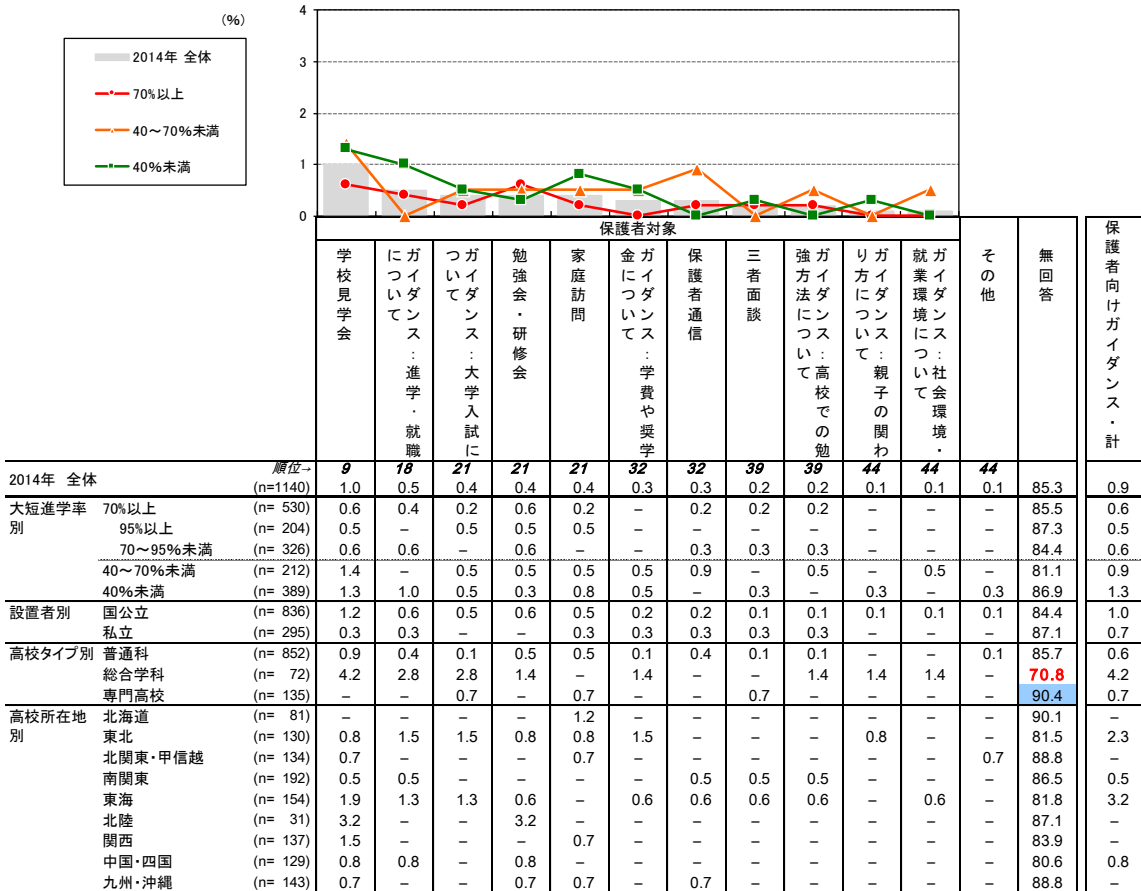
※「2014年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q3_SQ2_01_1

※「2014年全体」降順ソート

- 【保護者】対象の取り組みの廃止意向は、「学校見学会」(1.0%)がトップ。
- 大短進学率別・設置者別にみると、廃止意向に際立った差異はみられない。
 - ・属性間のスコア差は、1ポイント未満である。
- 高校タイプ別にみると、総合学科で廃止意向が相対的に高いものが多い。
 - ・「学校見学会」の廃止意向は総合学科で最も高い。
- 高校所在地別にみると、「学校見学会」の廃止意向が相対的に高いのは、北陸(3.2%)。

■進路指導で実施している取り組みの中で今後は廃止したい事項：5つまで（全体／5つまで回答）※つづき



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

3) 進路指導時に生徒の進学先として重視する点

■「学びたい学部・学科・コースがあること」がトップ、次いで「生徒の興味や可能性が広げられること」。

■大短進学率上位校は、「伝統や実績」や「教育内容」「教授や講師陣」「学生」のレベルをより重視。

- 進路指導時に教師は大学のどのような点を重視するのか、あてはまる項目をすべて選んでもらった。

トップは【教育内容・制度】の「学びたい学部・学科・コースがあること」(73%)、2位は「生徒の興味や可能性が広げられること」(55%)、3位は【構成要員】の「学生の面倒見が良いこと」(53%)。以下、【卒業後】の「就職に有利であること」(46%)、【教育内容・制度】の「教育方針・カリキュラムが魅力的であること」と【卒業後】「卒業後に社会で活躍できること」(いずれも43%)が続く。

・最も重視する点としても、「学びたい学部・学科・コースがあること」(30%)が突出。

- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「学びたい学部・学科・コースがあること」である。

以下、進学率により上位項目はやや異なる。

進学率70%以上校は「生徒の興味や可能性が広げられること」「学生の面倒見が良いこと」「教育内容のレベルが高いこと」「伝統や実績があること」が続き、教育内容・伝統や実績を重視。

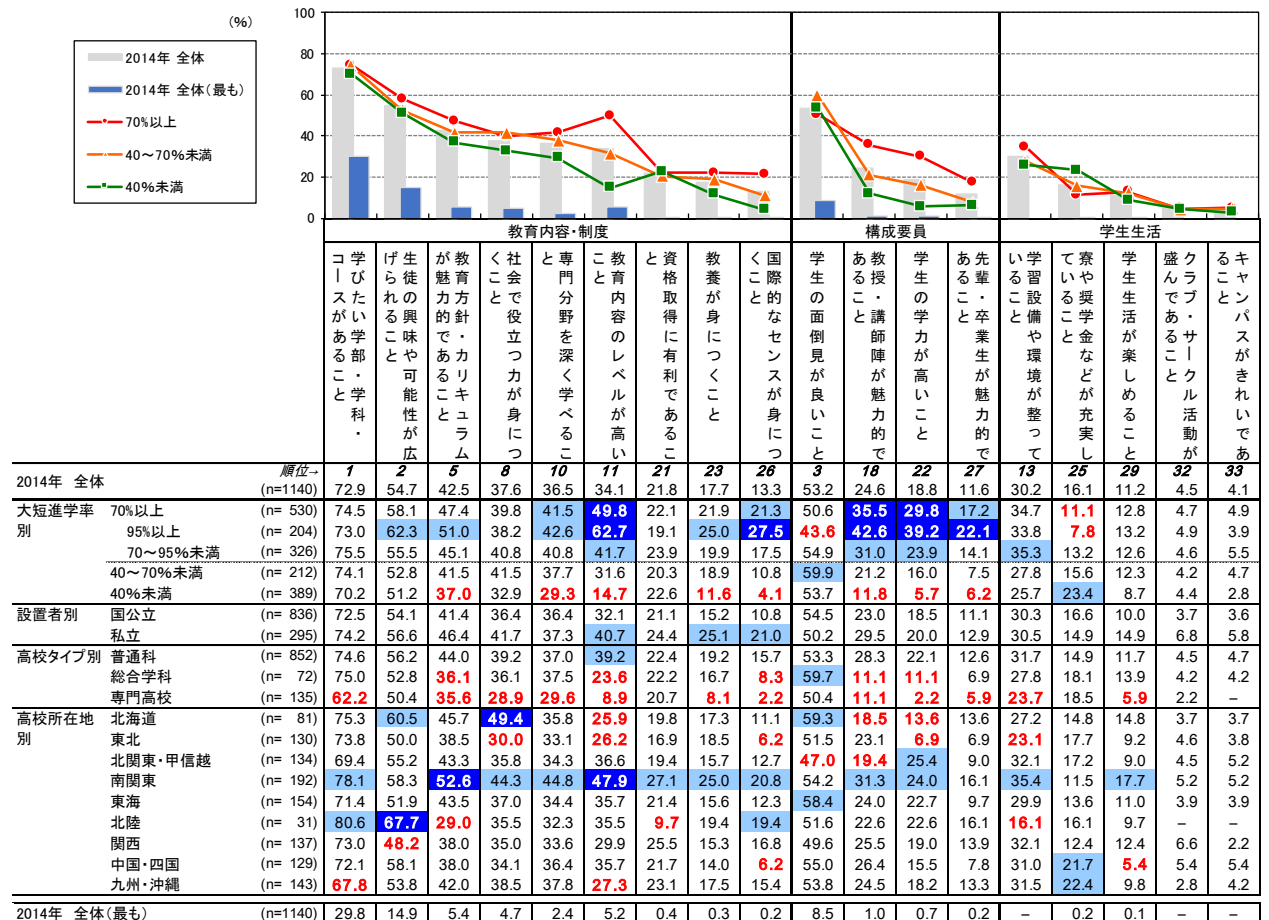
40～70%未満校は「学生の面倒見が良いこと」「生徒の興味や可能性が広げられること」「就職に有利であること」、

40%未満校は「学生の面倒見が良いこと」「生徒の興味や可能性が広げられること」「就職に有利であること」「教育方針・カリキュラムが魅力的であること」が続き、進学率70%未満校では卒業後の就職も重視している。

・進学率が高いほどスコアが高くなる傾向が顕著な項目は、【教育内容・制度】の「教育内容のレベルが高いこと」、【構成要員】の「教授・講師陣が魅力的であること」「学生の学力が高いこと」「先輩・卒業生が魅力的であること」、【ブランド性】の「伝統や実績があること」など。

・上記項目は、進学率70%以上校の中でも95%以上校で重視度が最も高くなっている。

■進路指導時に生徒の進学先として重視する点（全体／複数回答）

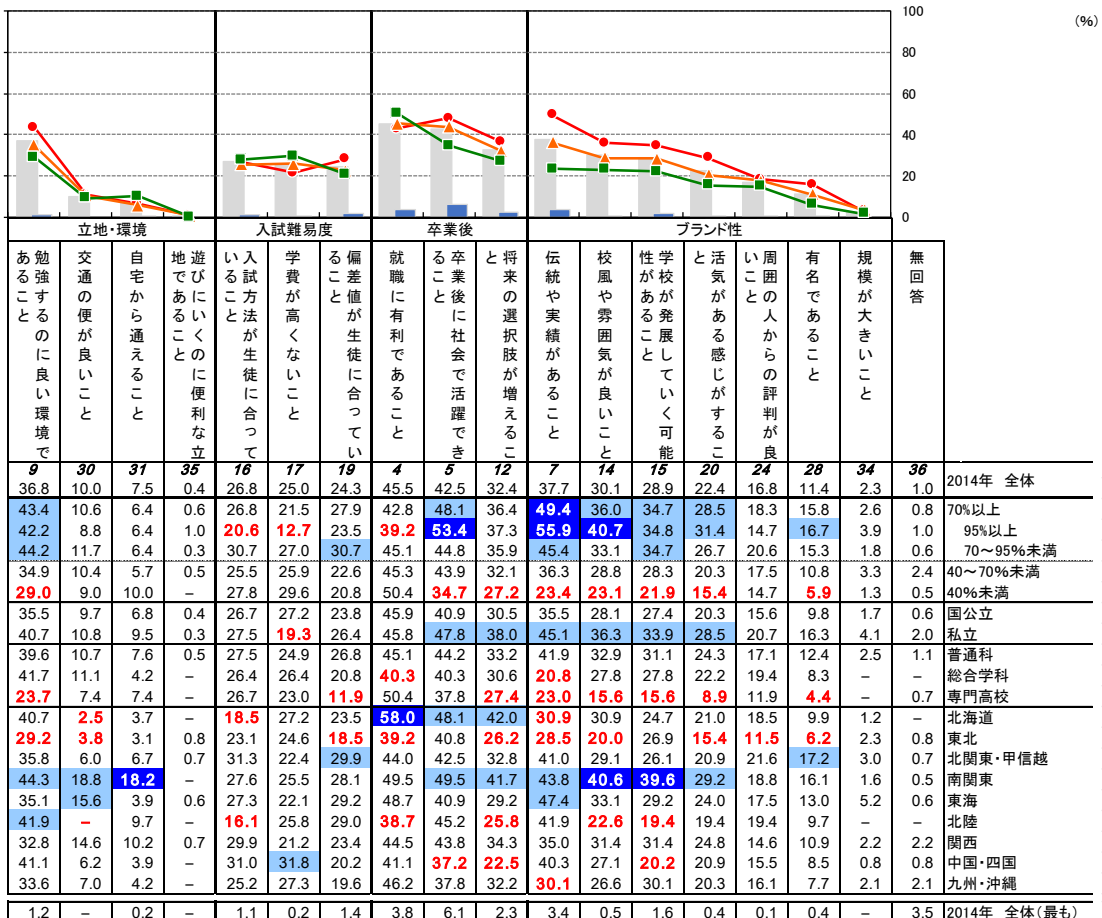


※「2014年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※カテゴリごと「2014年全体」降順ソート

Q4.02.1

- 設置者別にみると、【教育内容・制度】【卒業後】【ブランド性】を中心に私立の重視度が国公立に比べ高いものが多い。
・ 国公立の重視度が私立を上回るものは、「学費が高くないこと」など。
- 高校タイプ別にみると、【教育内容・制度】【構成要員】【ブランド性】は普通科で重視度が高いものが多い。
- 高校所在地別にみると、南関東は重視度が他地域に比べ高い項目が多く、重視内容が幅広い。
地域ごと特徴的に高い(全体値を5ポイント以上)項目は以下の通り。
 - ・ 北海道 【教育内容・制度】生徒の興味や可能性が広げられること、社会で役立つ力が身につくこと、
【構成要員】学生の面倒見が良いこと、【卒業後】就職に有利であること、卒業後に社会で活躍できること、
将来の選択肢が増えること
 - ・ 東北 なし
 - ・ 北関東・甲信越 【構成要員】学生の学力が高いこと、【入試難易度】偏差値が生徒に合っていること、
【ブランド性】有名であること
 - ・ 南関東 【教育内容・制度】学びたい学部・学科・コースがあること、教育方針・カリキュラムが魅力的であること、
社会で役立つ力が身につくこと、専門分野を深く学べること、教育内容のレベルが高いこと、
資格取得に有利であること、教養が身につくこと、国際的なセンスが身につくこと、
【構成要員】教授・講師陣が魅力的であること、学生の学力が高いこと、
【学生生活】学習設備や環境が整っていること、学生生活が楽しめること、
【立地・環境】勉強するのに良い環境であること、交通の便が良いこと、自宅から通えること、
【卒業後】卒業後に社会で活躍できること、将来の選択肢が増えること、【ブランド性】伝統や実績があること、
校風や雰囲気が良いこと、学校が発展していく可能性があること、活気がある感じがすること
 - ・ 東海 【構成要員】学生の面倒見が良いこと、【立地・環境】交通の便が良いこと、【ブランド性】伝統や実績があること
 - ・ 北陸 【教育内容・制度】学びたい学部・学科・コースがあること、生徒の興味や可能性が広げられること、
国際的なセンスが身につくこと、【立地・環境】勉強するのに良い環境であること、
 - ・ 関西 なし
 - ・ 中国・四国 【学生生活】寮や奨学金などが充実していること、【入試難易度】学費が高くないこと
 - ・ 九州・沖縄 【学生生活】寮や奨学金などが充実していること



4) 高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること

■最も期待するのは「入試の種類の抑制」、次いで「わかりやすい学部・学科名称」。

- 高大接続・連携の観点から大学・短大および文部科学省に期待することをたずねた。

トップは「入試の種類の抑制」40%、2位は「わかりやすい学部・学科名称」(39%)、3位は「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」(30%)。以下、「就職実績の公開」(28%)、「中退者(率)情報の公開」(23%)が続く。

・「入試の種類の抑制」は10年以降漸増、前回から横ばい推移の「わかりやすい学部・学科」と順位が入れ替わる。

- 大短進学率別にみると、進学率により期待する内容はやや異なる。

70%以上校・40～70%未満校では「入試の種類の抑制」、40%未満校では「わかりやすい学部・学科名称」がトップ。70%以上校はこの他「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」が他層に比べ高く、教育内容の開示を期待。

・95%以上では、さらに「思考力・判断力等を測定する入試の開発」も高い。

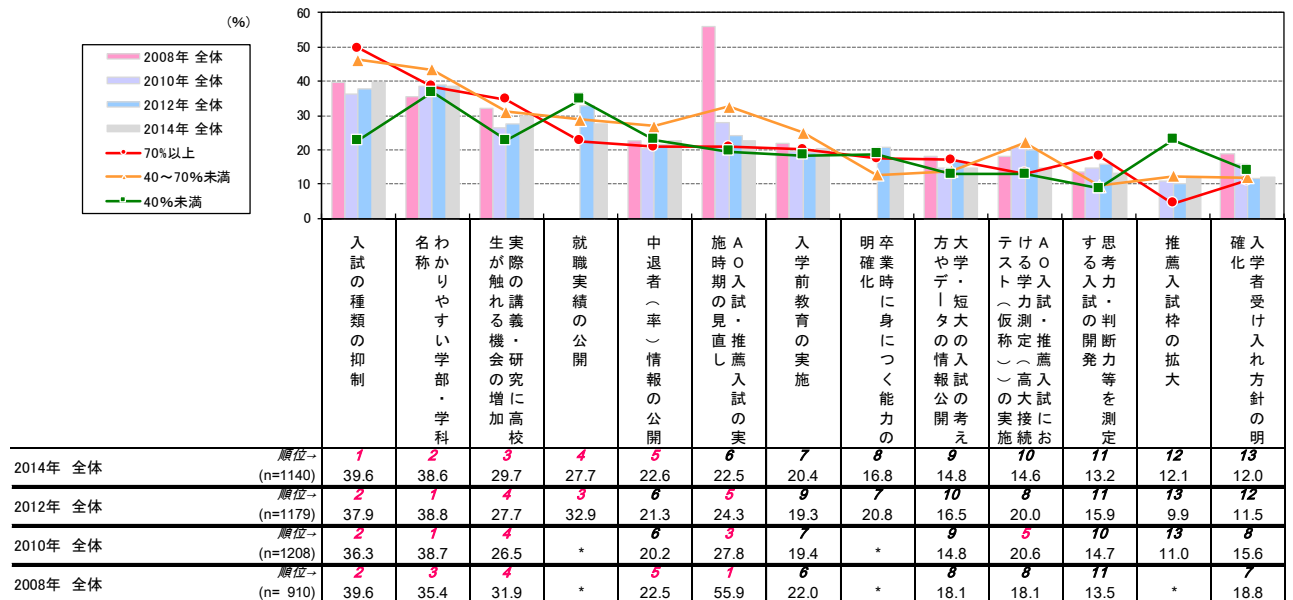
40～70%未満校は、「AO入試・推薦入試の実施時期の見直し」「AO入試・推薦入試における学力測定の実施」が他層に比べ高く、AO入試・推薦入試制度の改善を期待。

40%未満校は、「就職実績の公開」「推薦入試枠の拡大」が他層に比べ高く、就職情報や推薦枠の拡充を期待。

- 設置者別にみると、国公立・私立ともトップは「入試の種類の抑制」。

- 高校タイプ別により期待トップが異なる。普通科は「入試の種類の抑制」、総合学科は「わかりやすい学部・学科名称」、専門高校は「就職実績の公開」がそれぞれトップ。

■ 高大接続・連携について大学・短期大学・文部科学省に期待すること（全体／複数回答）

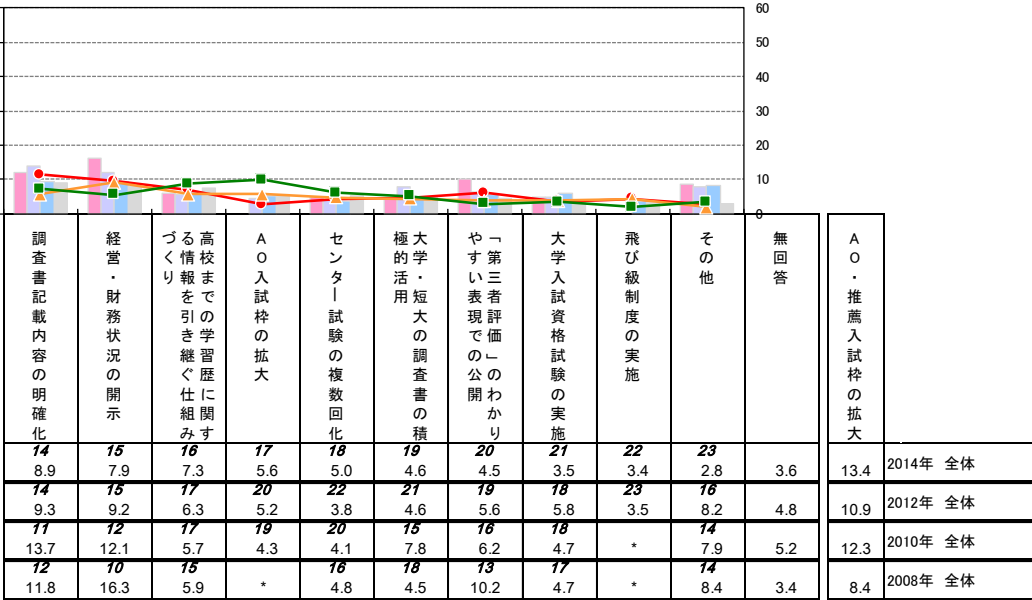


【2014年属性別】

大短進学率別	70%以上 (n= 530)	49.6	38.5	34.7	22.5	20.8	20.8	20.0	17.4	17.0	13.0	18.1	4.3	10.9
	95%以上 (n= 204)	49.5	38.7	35.8	16.7	15.2	12.3	16.2	16.7	18.1	9.8	21.6	2.9	12.7
	70～95%未満 (n= 326)	49.7	38.3	34.0	26.1	24.2	26.1	22.4	17.8	16.3	15.0	16.0	5.2	9.8
	40～70%未満 (n= 212)	46.2	43.4	31.1	28.8	26.9	32.5	25.0	12.7	13.7	22.2	9.4	12.3	11.8
	40%未満 (n= 389)	22.6	36.8	22.6	34.7	22.9	19.5	18.3	18.8	12.9	12.9	8.7	22.9	13.9
設置者別	国公立 (n= 836)	39.6	38.6	28.9	30.4	23.0	21.7	17.7	17.3	15.4	14.5	12.1	12.7	11.7
	私立 (n= 295)	40.0	39.3	32.5	20.7	21.7	25.1	27.8	15.9	13.6	15.3	16.6	10.8	13.2
高校タイプ別	普通科 (n= 852)	45.3	39.0	31.0	25.7	22.3	23.2	21.4	17.1	16.1	15.5	14.1	7.7	11.2
	総合学科 (n= 72)	33.3	36.1	34.7	27.8	27.8	27.8	15.3	19.4	15.3	15.3	8.3	15.3	16.7
	専門高校 (n= 135)	17.8	37.8	20.7	43.0	24.4	16.3	18.5	14.8	6.7	11.9	8.1	34.8	13.3
高校所在地別	北海道 (n= 81)	25.9	34.6	22.2	23.5	13.6	22.2	14.8	14.8	11.1	14.8	9.9	11.1	6.2
	東北 (n= 130)	29.2	36.2	33.1	31.5	18.5	11.5	21.5	23.1	18.5	13.1	10.8	16.2	11.5
	北関東・甲信越 (n= 134)	40.3	38.1	32.8	21.6	24.6	16.4	24.6	14.9	14.9	14.9	20.1	11.9	12.7
	南関東 (n= 192)	42.2	45.3	32.3	33.9	35.4	18.2	25.5	21.4	18.8	15.1	15.1	8.9	14.1
	東海 (n= 154)	46.8	37.7	27.3	31.8	24.7	35.1	19.5	13.6	18.2	16.2	12.3	13.6	13.0
	北陸 (n= 31)	48.4	48.4	35.5	19.4	19.4	29.0	16.1	19.4	12.9	22.6	19.4	16.1	9.7
	関西 (n= 137)	39.4	43.1	29.2	24.8	16.8	29.9	13.9	16.8	8.8	10.2	13.1	5.8	9.5
	中国・四国 (n= 129)	43.4	34.9	32.6	23.3	15.5	29.5	19.4	14.7	12.4	18.6	12.4	20.9	14.7
	九州・沖縄 (n= 143)	40.6	34.3	25.2	29.4	23.1	16.1	20.3	14.0	14.0	12.6	9.1	9.8	12.6

※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート



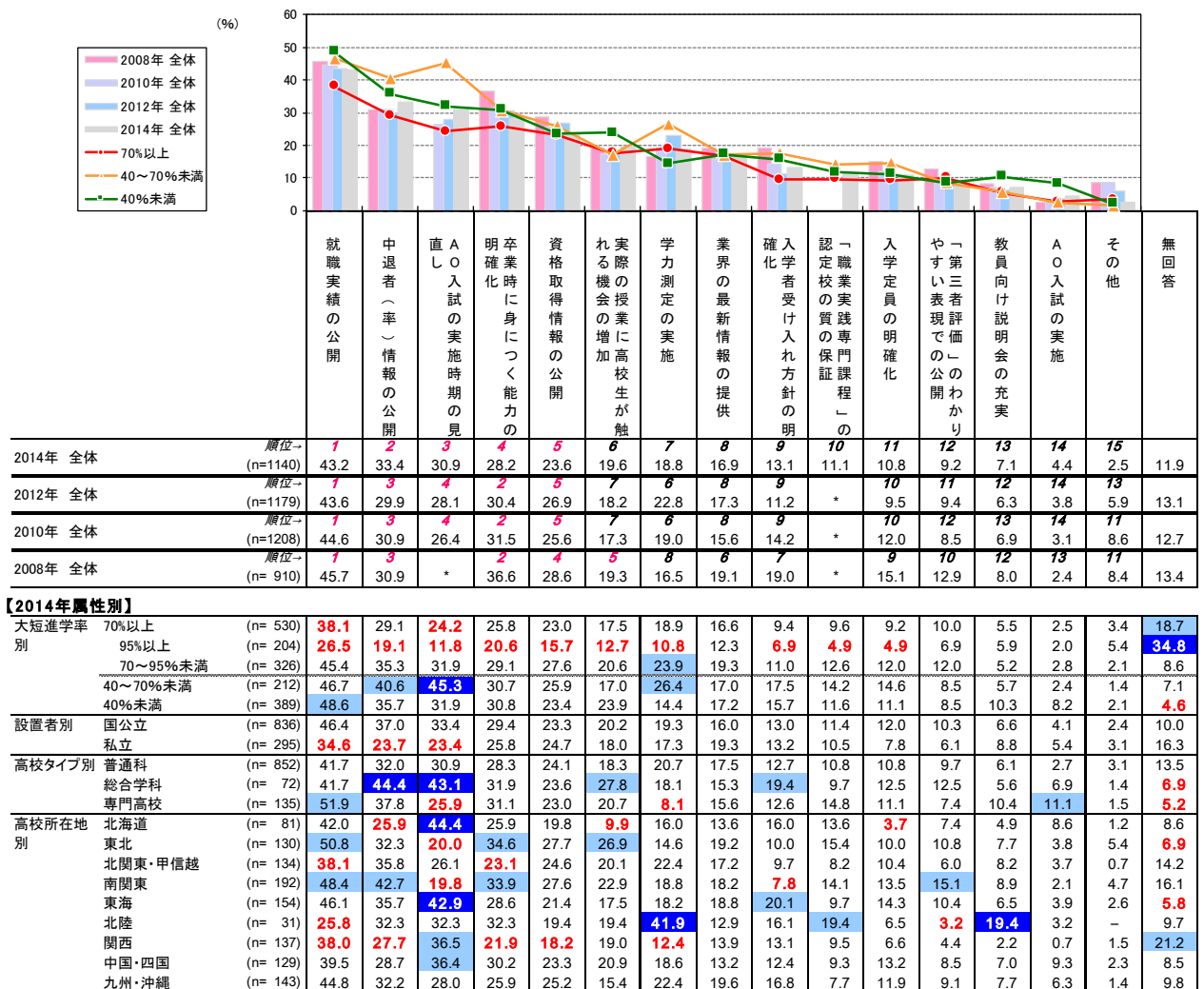
【2014年属性別】												
11.3	9.4	7.0	2.6	4.3	4.5	6.0	3.6	4.3	2.6	4.2	4.9	70%以上
12.7	7.8	5.4	2.0	3.4	3.9	4.4	2.9	3.4	2.5	7.4	2.9	95%以上
10.4	10.4	8.0	3.1	4.9	4.9	7.1	4.0	4.9	2.8	2.1	6.1	70～95%未満
5.7	9.0	5.7	5.7	4.7	4.2	3.8	3.8	4.2	1.9	1.4	13.7	40～70%未満
7.2	5.4	8.7	9.8	5.9	5.1	2.8	3.3	1.8	3.3	3.1	25.2	40%未満
8.0	8.5	7.2	5.7	4.3	3.7	4.7	3.2	2.6	3.0	3.2	13.9	国公立
11.2	6.4	7.8	5.4	6.8	7.5	4.1	4.4	5.8	2.0	3.4	12.5	私立
9.4	8.6	7.7	3.3	4.8	5.2	4.8	3.5	3.9	2.8	3.6	8.5	普通科
6.9	9.7	4.2	6.9	9.7	5.6	8.3	5.6	1.4	—	6.9	16.7	総合学科
6.7	3.7	7.4	17.0	3.7	2.2	2.2	3.0	3.7	3.7	1.5	40.7	専門学校
8.6	7.4	7.4	7.4	4.9	7.4	1.2	2.5	3.7	—	7.4	12.3	北海道
9.2	12.3	6.2	8.5	4.6	6.2	6.2	3.1	3.1	3.1	3.1	18.5	東北
8.2	4.5	7.5	2.2	5.2	3.0	2.2	6.0	3.0	6.0	3.0	11.9	北関東・甲信越
13.0	12.0	9.9	5.2	3.6	4.2	8.9	3.1	4.2	3.1	3.6	9.9	南関東
8.4	8.4	5.8	5.2	1.3	3.2	3.9	1.9	1.9	1.3	1.9	14.3	東海
6.5	6.5	16.1	3.2	—	6.5	3.2	9.7	6.5	—	—	16.1	北陸
7.3	5.1	10.9	2.2	7.3	4.4	5.1	2.2	5.1	2.9	4.4	7.3	関西
5.4	5.4	3.1	12.4	7.8	4.7	3.1	3.9	2.3	2.3	1.6	24.0	中国・四国
9.1	7.0	4.9	4.2	7.0	5.6	2.8	4.2	3.5	2.8	3.5	11.2	九州・沖縄

5) 高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること

■最も期待するのは「就職実績の公開」、次いで「中退者(率)情報の公開」。

- 高専接続・連携の観点から専門学校および行政に期待することをたずねた。
トップは「就職実績の公開」43%、2位は「中退者(率)情報の公開」(33%)、3位は「AO入試の実施時期の見直し」(31%)。以下、「卒業時に身につく能力の明確化」(28%)、「資格取得情報の公開」(24%)が続く。
・「中退者(率)情報の公開」「AO入試の実施時期の見直し」は前回より微増。
- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「就職実績の公開」。
70%以上校はほとんどの項目が他層に比べ低い。
40～70%未満校は、「中退者(率)情報の公開」「AO入試の実施時期の見直し」「学力測定の実施」が他層に比べ高い。
40%未満校は、トップの「就職実績の公開」が他層に比べ高い。
- 設置者別にみると、国公立・私立ともトップは「就職実績の公開」。
- 高校タイプ別にみると、普通科・専門高校では「就職実績の公開」、総合学科では「中退者(率)情報の公開」がそれぞれトップ。総合学科は「AO入試の実施時期の見直し」「実際の授業に高校生が触れる機会の増加」「入学者受け入れ方針の明確化」など、他学科に比べ高い項目が多い。

■高専接続・連携について専門学校・行政に期待すること（全体／複数回答）



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

Q26_01

【フリーコメント⑤】大学・短大・専門学校との接続・連携についての意見・課題

【大短進学率70%以上】

■生徒の学力を評価する入試の実施、AO入試・推薦入試の廃止

- 推薦、AO入試等で学力をきちんと評価しないものについては原則として廃止してほしい。大学入学者を総人口の20～25％程度に抑えられれば大学教育、高校教育は劇的に変化すると思われる。[群馬県/県立/その他]
- AO入試や推薦入試の趣旨は理解するが、単なる生徒確保の青田買いのようなものは縮小して欲しい。[長野県/県立/普通]
- 年内に合格を出すのをやめ、センター試験以降に統一して欲しい。大学の附属校の内部推薦についても同様。高校生が、2月まで必死に勉強を続けなくてはならない環境にして欲しい。[神奈川県/私立/普通]
- 体験授業と称して2年から囲っていく専門学校やAO入試で5～6月に合格を出してくる専門学校がある。高校の学修に悪影響を与えるので入試等の時期についてきちんとルールを作って守るよう行政は指導していただきたい。[大分県/県立/総合]

■大学での学問研究の重視

- 各大学が、どのような社会的課題に対して課題意識を持って、学部学科を構成し、それに対し、どのような研究を行っているのかをしっかりと伝えて欲しい。抽象的過ぎて分かりにくく、他大学との差別化できにくい。[北海道/道立/普通]
- 極端な就職予備校化しないでください。学問の府としての魅力を伝えて欲しい。[静岡県/県立/普通]
- 取得できる資格のこと、就職率のことを中心にアピールしている大学が多くなった。これでは専門学校と同じである。大学とはそういう場だったのだろうか。古い考え方なのだろうか学んでみたいことに費やす四年間をいただき就職は個の力でなんとかするのが大学生だと思いたい。[奈良県/県立/普通]

【大短進学率40～70%未満】

■生徒の学力向上に結びつかないAO入試・推薦入試の縮小

- 大学入試の在り方が高校生の学習への取り組み方に直接影響を及ぼしているので、AOや推薦の枠を減らすか、AO・推薦受験希望者にも学力測定を実施すべきである。[福島県/私立/普通]
- 思考力・判断力等を測定する入試の開発は、学力テスト(ペーパー)以外はない。AOや、それに類した入試は極力なくして欲しい。[長野県/県立/普通]
- 早期進路先決定。決定後の指導が難しい。これから受験の生徒と既に決定している生徒の両方がクラス内にいる状態で、両方に有意義な生活を送らせることは困難。12月以降くらいにできないのか。[静岡県/県立/普通]
- 6月頃から「エントリー制」をやめて欲しい。(動きが早過ぎて、足並みが揃わない。8月、9月頃から遊んでいます)[秋田県/県立/普通]

■資格取得の訴求は、“合格率”よりも“取得後の職業”を重視

- 資格を取得しても、職に結び付いていない学校の多さに驚く。卒業生の内、役に立てている割合を示して欲しい。1度就職しても3年経たずに辞めてしまう職種は、その事も明らかにすべきでは。[滋賀県/県立/普通]
- 発表されている就職率、資格取得率等様々な形で実態を表してない場合が多いので実態を表した形での公表をしてほしい。[東京都/都立/普通]
- 技術や資格取得の透明性。就職率の明示。就職先の明示の義務化。[島根県/私立/普通]

【大短進学率40%未満】

■就職・資格だけではなく、学びの場としての大学の訴求

- 実績等も大切ですが、「学び」を見つめ直し、魅力的な学びの場をPRして欲しい。就職・資格だけでなく、大学は高度な研究機関であって欲しい。[北海道/道立/普通]

■AO入試・推薦入試の早期化・併願対応による教育現場の混乱

- AO入試も併願可能な学校も複数校ある。入試回数の多さは、定員の数が不明確につながる。AOのエントリーも時期を統一して欲しい。定員確保に走る学校の方が時期が早い。[福島県/県立/総合]
- AO入試の実施時期が早いため調査書作成の時間的な余裕がない。受験料が高いためAO、推薦入試の受験をすすめるを得ない。[千葉県/県立/普通]

■資格取得・就職の実績について公正かつ正確な情報開示、第三者機関による評価の必要性

- 情報公開が遅れている。就職の実績、退学などの情報を公開すべき(しっかりと)。[東京都/都立/普通]
- 実績の高い専門学校を選択させる傾向です。就職100%の明示ではなく本来求める企業等への就職実績、資格も在籍数、受験者数そして合格者(率)を出して欲しい。[静岡県/県立/専門]
- 公的機関による各専門学校の統一基準による一覧がほしい。正確に生徒に薦められる専門学校とそうでない専門学校を見分けるための資料がほしい。[青森県/県立/専門]

第Ⅱ部 キャリア教育の実態

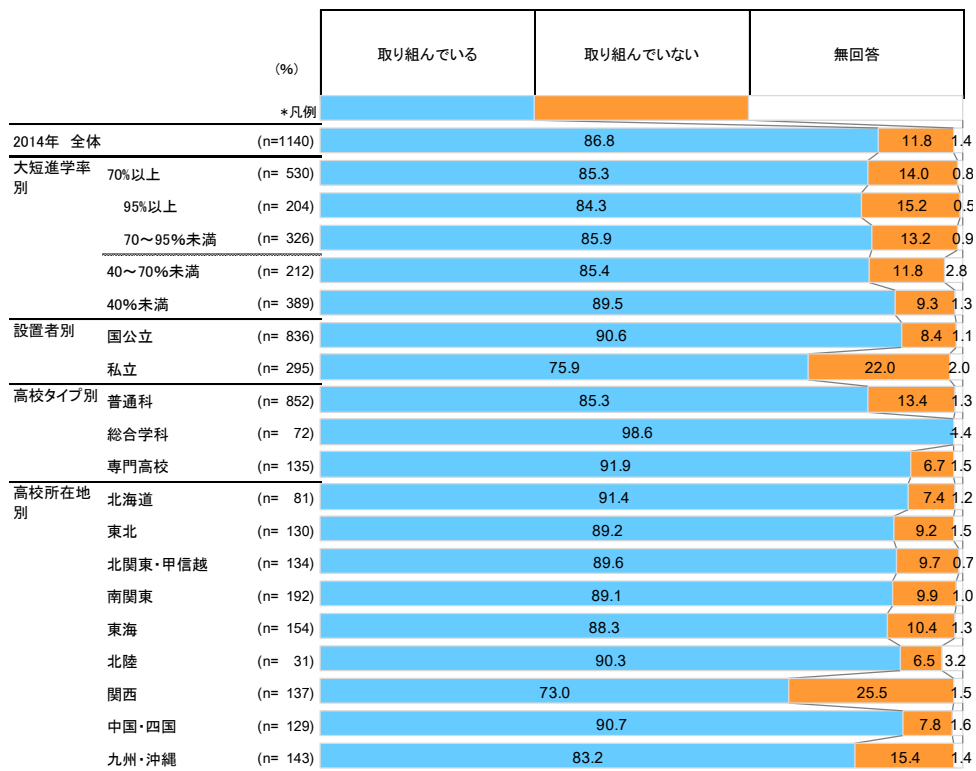
1. キャリア教育の実施状況

1) キャリア教育の実施状況

■現在、キャリア教育に「取り組んでいる」割合は87%。

- 現在、キャリア教育に取り組んでいるかたずねた。調査対象校の87%が「取り組んでいる」と回答。
- 大短進学率別にみると、40%未満校における実施率が最も高く、90%。
70%以上校・40～70%未満校はいずれも85%。
- 設置者別にみると、実施率は国公立(91%)が私立(76%)を上回る。
- 高校タイプ別にみると、総合学科(99%)はほぼ全校でキャリア教育を実施。次いで専門高校(92%)、普通科(85%)。
- 高校所在地別にみると、いずれの地域も過半数がキャリア教育を実施。
関西(73%)、九州・沖縄(83%)の実施率が他地域に比べ相対的に低い。

■キャリア教育の実施（全体／単一回答）



Q5.01

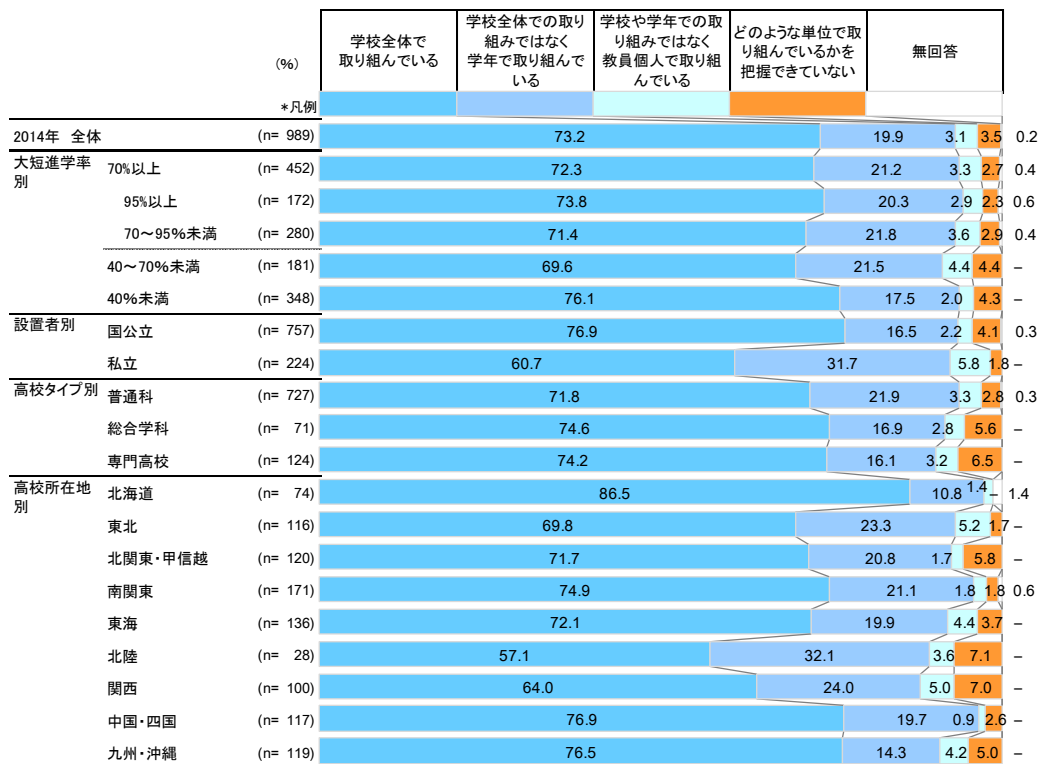
2) キャリア教育実施体制

■キャリア教育実施校の73%が「学校全体で取り組んでいる」。

- キャリア教育実施校に取り組み単位をたずねたところ、最も多いのは「学校全体で取り組んでいる」(73%)。次いで「学校全体での取り組みではなく、学年で取り組んでいる」(20%)。学校全体・学年といった組織的な取り組みが多い。
 - ・ 「学校や学年での取り組みではなく教員個人で取り組んでいる」は3%とわずか。
- 大短進学率別にみると、いずれも「学校全体で取り組んでいる」が最多で、約7割。
 - ・ 40%未満校で最も高く、76%。
- 設置者別にみると、「学校全体で取り組んでいる」割合は、国公立(77%)が私立(61%)を上回る。
 - ・ 私立は「学年で取り組んでいる」(32%) が相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、いずれも7割強が「学校全体で取り組んでいる」。
- 高校所在地別にみると、いずれの地域も過半数が「学校全体で取り組んでいる」。
「学校全体」の割合は、北海道(87%)で最多。次いで中国・四国、九州(いずれも77%)。
 - ・ 北陸は「学年で取り組んでいる」(32%)が他地域に比べ高い。

※北陸はn=30未満のため、参考値

■キャリア教育の実施体制（キャリア教育実施／単一回答）



Q6.01

3) キャリア教育担当部署の設置状況

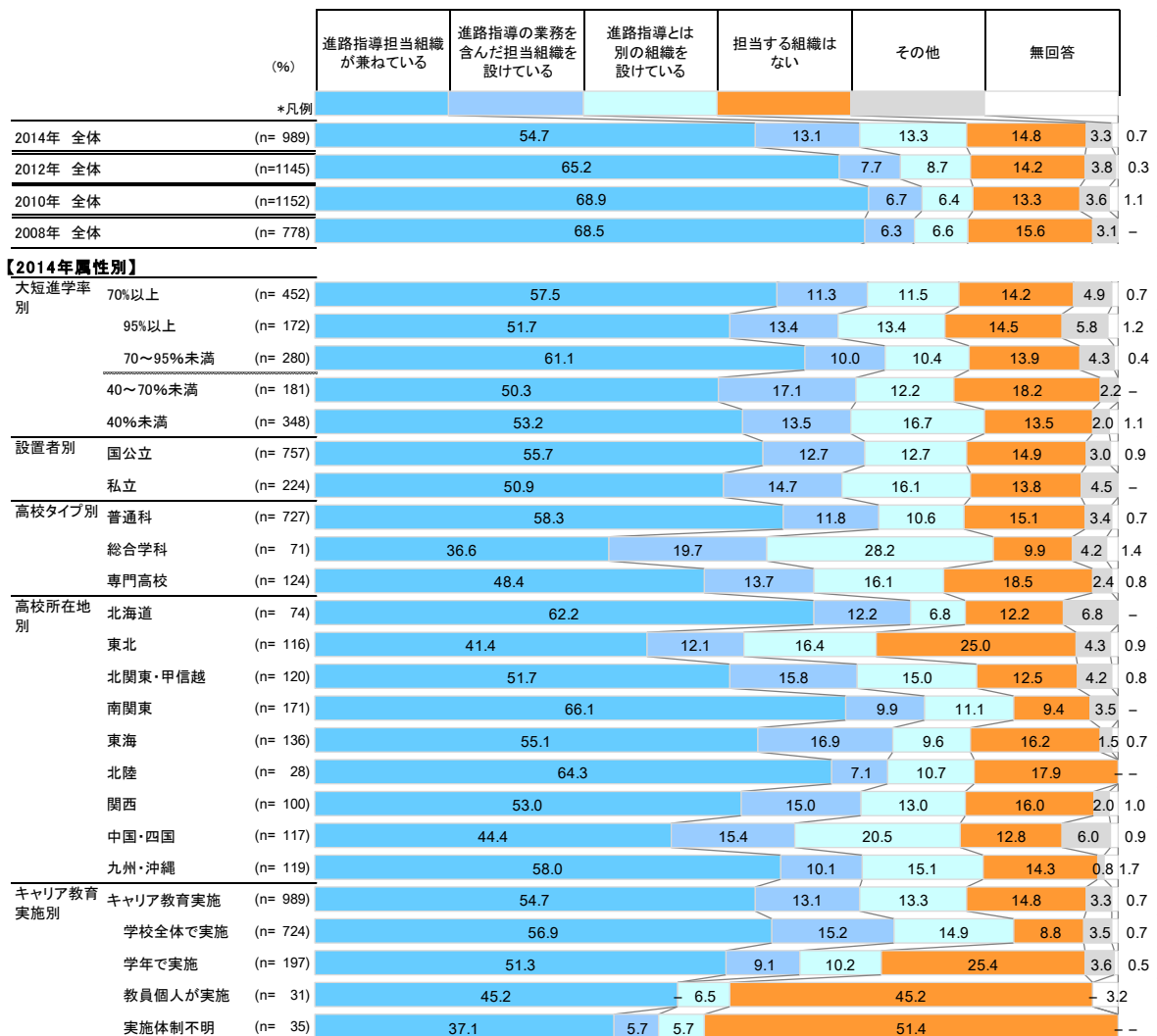
■最も多いのは「進路指導担当部署が兼ねている」。

■担当組織:「進路指導業務を含んだ担当組織」「進路指導とは別の組織」の設置が前回より増加。

- キャリア教育担当部署の設置状況をたずねたところ、最多は「進路指導担当部署が兼ねている」(55%)。「進路指導担当部署が兼ねている」は、前回調査よりも11ポイント減少。代わりに「進路指導の業務を含んだ担当部署を設けている」「進路指導とは別の組織を設けている」(いずれも13%)がそれぞれ5ポイント増加している。
- 大短進学率別にみると、いずれも「進路指導担当部署が兼ねている」が最多。「進路指導担当部署が兼ねている」は、40～70%未満校(17%)で最多。「進路指導とは別の組織を設けている」は、40%未満校(17%)で最多。
- 設置者別にみると、国公立・私立とも「進路指導担当部署が兼ねている」が最多。
- 高校タイプ別にみると、いずれも「進路指導担当部署が兼ねている」が最多だが、総合学科は「進路指導の業務を含んだ担当組織を設けている」(20%)、「進路指導とは別の組織を設けている」(28%)の割合が他校に比べ高い。
- 高校所在地別にみると、スコアにばらつきはあるが、最多は「進路指導担当部署が兼ねている」。
東北は「担当する部署はない」が他地域に比べ高い(25%)。

※北陸はn=30未満のため、参考値

■キャリア教育担当部署の設置状況 (キャリア教育実施／単一回答)



Q7.01

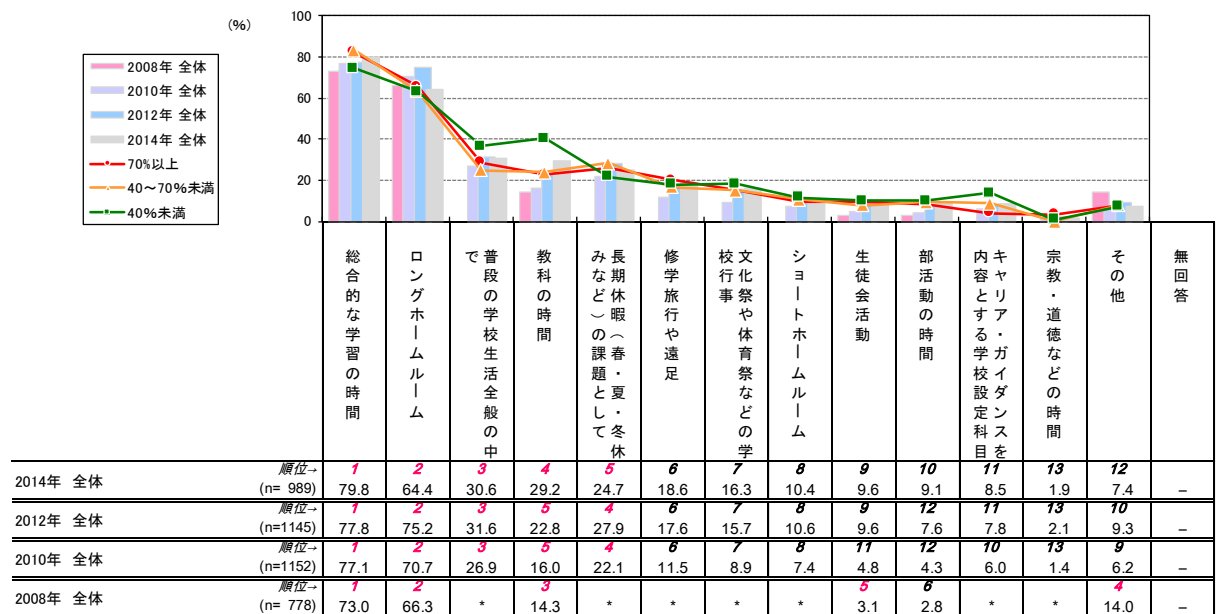
3) キャリア教育実施時間

■キャリア教育の実施時間は、「総合的な学習の時間」「ロングホームルーム」が上位。

■その他、日常の教科・部活動や行事などでも幅広い時間に実施されている。

- キャリア教育実施時間のトップは前回まで調査結果と同様、「総合的な学習の時間」(80%)。2位も前回と同じく「ロングホームルーム」(64%)だが、11ポイント減少している。3位の「普通の学校生活全般の中で」(31%)は前回より横ばい推移。一方、4位の「教科の時間」(29%)は前回より6ポイント増加。この他「修学旅行や遠足」(19%)、「部活動の時間」(9%)は漸増傾向であり、キャリア教育実施機会が広がっていることがうかがえる。
- 大短進学率別にみると、いずれも「総合的な学習の時間」「ロングホームルーム」が上位。40%未満校では「教科の時間」「普通の学校生活全般の中で」「キャリア・ガイダンスを内容とする学校設定科目」の実施率が他層に比べ高い。
- 設置者別にみると、国公立は「総合的な学習の時間」(82%)が突出。私立は「総合的な学習の時間」と「ロングホームルーム」(いずれも74%)が並ぶ。
- 高校タイプ別にみると、普通科・総合学科は「総合的な学習の時間」、専門高校は「ロングホームルーム」がそれぞれトップ。普通科はこの他に特徴的な実施時間はみられない。総合学科は「長期休暇の課題として」「キャリア・ガイダンスを内容とする学校設定科目」、専門高校は「普通の学校生活全般の中で」「教科の時間」がそれぞれ他校に比べ高い。

■キャリア教育実施時間（キャリア教育実施／複数回答）



【2014年属性別】

大短進学率	70%以上 (n= 452)	82.5	65.5	28.5	22.6	25.7	20.1	15.5	9.7	9.7	8.2	4.0	3.3	7.5	-
別	95%以上 (n= 172)	80.2	68.0	30.8	22.7	29.7	20.3	16.3	8.7	8.1	9.3	2.3	3.5	9.3	-
	70~95%未満 (n= 280)	83.9	63.9	27.1	22.5	23.2	20.0	15.0	10.4	10.7	7.5	5.0	3.2	6.4	-
	40~70%未満 (n= 181)	83.4	63.5	24.9	23.8	28.2	16.6	14.9	10.5	7.7	9.4	8.8	-	7.7	-
	40%未満 (n= 348)	74.4	63.2	36.5	40.5	21.8	17.8	18.1	11.5	10.1	10.1	13.8	0.9	7.2	-
設置者別	国公立 (n= 757)	81.5	61.4	33.6	32.8	25.1	19.8	17.3	10.4	11.0	9.8	9.0	0.8	7.3	-
	私立 (n= 224)	74.1	74.1	21.0	17.0	23.7	14.7	12.9	10.7	4.5	6.7	6.3	5.4	8.0	-
高校タイプ別	普通科 (n= 727)	85.0	64.8	27.8	25.0	25.0	19.4	16.4	10.6	10.6	9.6	5.6	2.5	6.6	-
	総合学科 (n= 71)	93.0	59.2	23.9	31.0	32.4	15.5	11.3	7.0	4.2	7.0	33.8	-	16.9	-
	専門高校 (n= 124)	46.0	66.9	49.2	45.2	19.4	18.5	19.4	13.7	10.5	8.1	11.3	-	5.6	-
高校所在地別	北海道 (n= 74)	90.5	59.5	28.4	35.1	17.6	18.9	13.5	14.9	10.8	9.5	5.4	1.4	2.7	-
	東北 (n= 116)	87.1	59.5	37.1	34.5	20.7	16.4	18.1	11.2	12.9	9.5	6.9	0.9	6.9	-
	北関東・甲信越 (n= 120)	77.5	74.2	29.2	28.3	30.0	19.2	17.5	14.2	9.2	5.8	10.8	2.5	10.8	-
	南関東 (n= 171)	74.3	67.8	28.1	25.7	32.2	15.2	14.6	9.9	6.4	11.1	7.6	1.8	8.8	-
	東海 (n= 136)	74.3	63.2	36.0	25.0	36.0	20.6	18.4	8.1	12.5	11.0	8.1	0.7	10.3	-
	北陸 (n= 28)	82.1	60.7	25.0	32.1	28.6	17.9	7.1	7.1	10.7	7.1	7.1	3.6	10.7	-
	関西 (n= 100)	73.0	71.0	22.0	26.0	20.0	11.0	12.0	7.0	6.0	6.0	12.0	4.0	9.0	-
	中国・四国 (n= 117)	87.2	60.7	30.8	29.1	14.5	23.1	12.8	8.5	8.5	10.3	10.3	2.6	3.4	-
	九州・沖縄 (n= 119)	80.7	57.1	33.6	32.8	17.6	25.2	24.4	12.6	10.1	8.4	5.9	0.8	4.2	-
キャリア教育実施別	キャリア教育実施 (n= 989)	79.8	64.4	30.6	29.2	24.7	18.6	16.3	10.4	9.6	9.1	8.5	1.9	7.4	-
	学校全体で実施 (n= 724)	82.3	65.5	34.7	32.6	26.7	21.5	18.6	12.2	12.0	10.2	9.4	2.1	7.2	-
	学年で実施 (n= 197)	77.2	63.5	13.7	15.7	19.8	11.7	8.6	5.6	2.5	6.1	6.6	1.5	9.1	-
	教員個人が実施 (n= 31)	51.6	54.8	32.3	29.0	16.1	3.2	9.7	3.2	-	3.2	3.2	-	6.5	-
	実施体制不明 (n= 35)	68.6	57.1	42.9	37.1	20.0	11.4	17.1	8.6	8.6	8.6	5.7	2.9	2.9	-

※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

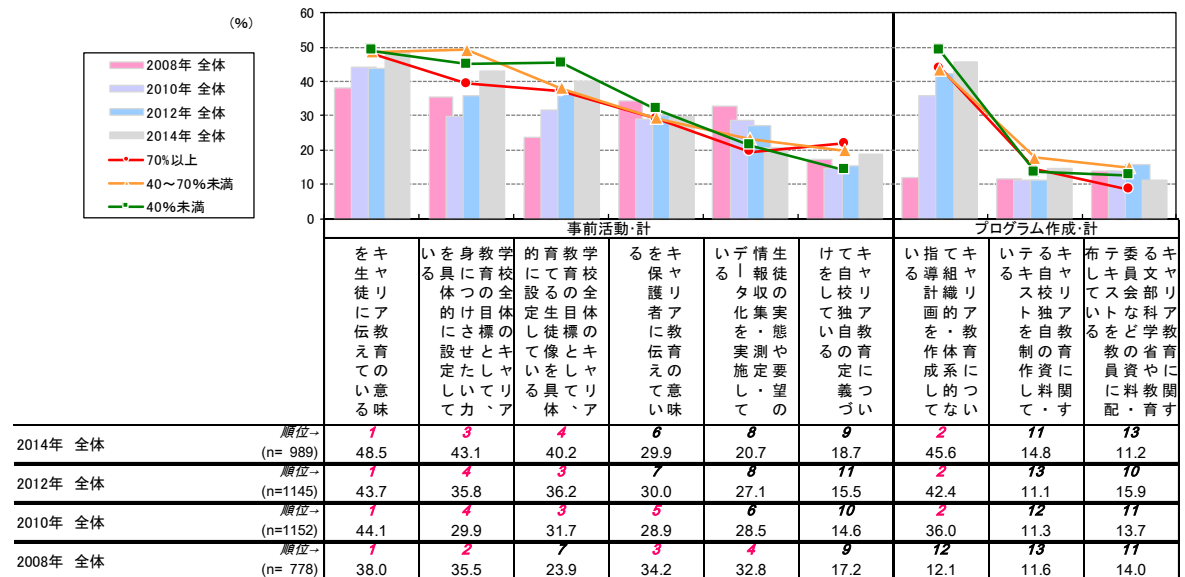
Q8.01

4) キャリア教育の推進状況

■導入準備の段階から、「組織的・体系的な指導計画」「学校全体のキャリア教育の目標」を伴う実践の段階へ進んでいる。

- キャリア教育の具体的な推進状況をたずねたところ、トップは【事前活動】の「キャリア教育の意味を生徒に伝えている」(49%)、次いで【プログラム作成】「キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している」(46%)、【事前活動】「学校全体のキャリア教育の目標として、身につけさせたい力を具体的に設定している」(43%)、「学校全体のキャリア教育の目標として、育てる生徒像を具体的に設定している」(40%)。
- 前回までの調査結果と比べると、【事前活動】「生徒の実態や要望の情報収集・測定・データ化を実施している」、【研修・勉強会】「キャリア教育の概要や推進方法に関する研修や勉強会を実施している」【体制】「キャリア教育推進のための組織変更を行っている」など、キャリア教育の導入準備に関する項目はいずれも08年調査開始時より減少している。一方、【事前活動】「キャリア教育の意味を生徒に伝えている」「学校全体のキャリア教育の目標として、身につけさせたい力を具体的に設定している」「学校全体のキャリア教育の目標として、育てる生徒像を具体的に設定している」、【プログラム作成】「キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している」、【連携】「キャリア教育推進のため、学校と地域や民間企業との連携を強めている」などは08年よりも増加。学校全体での指導計画・目標の設定、学外連携を含む具体的なキャリア教育の実践が教育現場に浸透している状況がうかがえる。

■キャリア教育の進捗状況（キャリア教育実施／複数回答）



【2014年属性別】

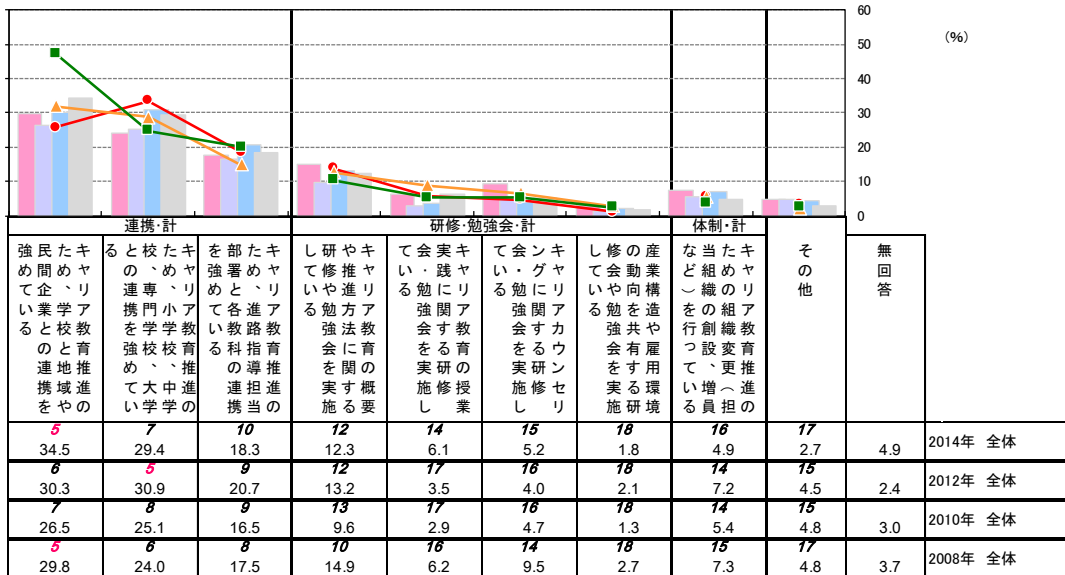
大短進学率	70%以上	(n= 452)	48.2	39.4	37.2	29.2	19.5	21.9	44.0	14.4	8.4
別	95%以上	(n= 172)	47.7	40.1	40.7	31.4	22.1	22.7	43.6	14.5	7.6
	70~95%未満	(n= 280)	48.6	38.9	35.0	27.9	17.9	21.4	44.3	14.3	8.9
	40~70%未満	(n= 181)	48.6	49.2	38.1	29.3	23.2	19.9	43.6	17.7	14.9
	40%未満	(n= 348)	49.1	45.1	45.4	31.9	21.3	14.1	49.1	13.5	12.6
設置者別	国公立	(n= 757)	48.1	45.7	43.3	30.9	21.0	18.1	51.1	14.7	12.9
	私立	(n= 224)	50.4	34.8	29.9	27.7	20.1	21.0	27.7	14.7	4.9
高校タイプ別	普通科	(n= 727)	47.7	42.5	39.5	29.0	20.4	19.8	44.2	13.9	10.0
	総合学科	(n= 71)	59.2	47.9	43.7	38.0	18.3	14.1	62.0	28.2	18.3
	専門高校	(n= 124)	50.0	41.9	42.7	28.2	25.8	18.5	42.7	12.9	13.7
高校所在地別	北海道	(n= 74)	44.6	43.2	39.2	29.7	27.0	12.2	48.6	23.0	12.2
	東北	(n= 116)	45.7	48.3	47.4	30.2	19.8	19.8	54.3	8.6	14.7
	北関東・甲信越	(n= 120)	50.0	44.2	42.5	35.8	17.5	27.5	47.5	15.0	12.5
	南関東	(n= 171)	52.6	38.0	39.8	32.7	22.2	24.0	39.8	19.3	9.9
	東海	(n= 136)	48.5	47.1	37.5	25.7	21.3	16.9	47.8	16.2	11.8
	北陸	(n= 28)	67.9	28.6	21.4	32.1	17.9	14.3	32.1	14.3	7.1
	関西	(n= 100)	46.0	44.0	34.0	29.0	26.0	18.0	36.0	10.0	11.0
	中国・四国	(n= 117)	52.1	46.2	49.6	31.6	18.8	18.8	54.7	12.0	12.8
	九州・沖縄	(n= 119)	41.2	40.3	36.1	25.2	16.8	9.2	42.9	13.4	5.9
キャリア教育実施別	キャリア教育実施	(n= 989)	48.5	43.1	40.2	29.9	20.7	18.7	45.6	14.8	11.2
	学校全体で実施	(n= 724)	52.2	51.0	47.8	36.6	24.0	22.1	54.3	17.1	13.1
	学年で実施	(n= 197)	45.2	23.9	20.8	11.7	13.2	10.7	23.9	9.6	5.6
	教員個人が実施	(n= 31)	12.9	12.9	9.7	12.9	9.7	9.7	12.9	3.2	3.2
	実施体制不明	(n= 35)	25.7	17.1	20.0	11.4	5.7	2.9	17.1	5.7	11.4
生徒の意欲	増した	(n= 474)	57.2	48.7	45.4	39.0	27.2	22.8	52.7	17.9	13.9
変容度別	変わらない	(n= 303)	41.6	41.6	38.9	22.4	16.5	16.8	41.9	13.5	10.9
	減った	(n= 8)	50.0	62.5	50.0	25.0	37.5	25.0	25.0	-	-
	わからない	(n= 170)	38.2	30.0	29.4	19.4	12.9	11.2	34.1	10.6	5.9

※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※カテゴリごと「2014年全体」降順ソート

Q9_01.1

- 大短進学率別みると、キャリア教育実施率が最も高い40%未満校は、【事前活動】「学校全体のキャリア教育の目標として、育てる生徒像を具体的に設定している」、【プログラム作成】「キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している」、【連携】「キャリア教育推進のため、学校と地域や民間企業との連携を強めている」が他層に比べ高い。
・反対に、進学率が高くなるほど高い項目は、【連携】「キャリア教育推進のため、小学校、中学校、専門学校、大学との連携を強めている」
- 設置者別にみると、国公立での実施率が私立に比べ高いものが多い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科で実施率が高いものが多く、推進内容が幅広い。
- キャリア教育実施別にみると、学校全体で実施校は【事前活動】【プログラム作成】【連携】の実施率が他校に比べ高い。
- キャリア教育による「生徒の意欲」変容度(→結果は37ページに掲載)で“増した”高校は、【事前活動】「キャリア教育の意味を生徒に伝えている」「キャリア教育の意味を保護者に伝えている」、【プログラム作成】「キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している」、【連携】「キャリア教育推進のため、学校と地域や民間企業との連携を強めている」「キャリア教育推進のため、進路指導担当部署と各教科の連携を強めている」の実施率が高く、生徒と保護者への伝達、学外・学内との連携が進んでいることがうかがえる。



【2014年属性別】

25.7	33.6	18.6	13.7	5.8	4.6	1.1	5.5	3.1	5.5	70%以上
26.7	31.4	18.0	9.3	5.2	5.8	1.2	5.2	4.7	4.7	95%以上
25.0	35.0	18.9	16.4	6.1	3.9	1.1	5.7	2.1	6.1	70～95%未満
32.0	28.7	14.9	12.7	8.8	6.6	2.8	5.5	2.2	7.2	40～70%未満
47.4	24.7	20.1	10.3	5.2	5.2	2.3	3.7	2.6	2.6	40%未満
38.7	30.6	18.4	12.0	6.1	5.8	1.7	4.1	2.8	4.5	国公立
20.5	25.9	18.8	13.4	6.3	3.1	2.2	7.6	2.7	5.8	私立
31.5	32.5	17.2	12.9	6.6	5.1	1.5	3.7	2.9	5.1	普通科
40.8	22.5	18.3	16.9	8.5	7.0	1.4	14.1	4.2	1.4	総合学科
46.0	21.8	22.6	7.3	4.0	5.6	4.0	1.6	2.4	4.8	専門高校
39.2	27.0	13.5	8.1	-	4.1	5.4	2.7	2.7	4.1	北海道
32.8	25.9	20.7	12.1	6.0	6.9	1.7	2.6	0.9	4.3	東北
36.7	34.2	14.2	7.5	4.2	4.2	-	4.2	5.8	5.8	北関東・甲信越
30.4	32.2	20.5	15.8	6.4	5.3	0.6	5.8	2.3	4.1	南関東
38.2	30.1	20.6	9.6	7.4	5.1	2.2	4.4	2.9	4.4	東海
32.1	21.4	10.7	3.6	3.6	-	-	10.7	10.7	-	北陸
26.0	31.0	17.0	20.0	8.0	8.0	5.0	7.0	1.0	7.0	関西
44.4	28.2	20.5	13.7	8.5	6.0	-	5.1	-	2.6	中国・四国
31.1	27.7	19.3	12.6	6.7	3.4	2.5	5.0	4.2	7.6	九州・沖縄
34.5	29.4	18.3	12.3	6.1	5.2	1.8	4.9	2.7	4.9	キャリア教育実施
39.8	33.8	20.7	15.2	6.9	6.1	2.3	6.4	1.9	2.3	学校全体で実施
20.3	19.8	12.2	4.1	5.1	2.5	-	-	4.6	6.1	学年で実施
22.6	9.7	9.7	12.9	-	3.2	-	3.2	9.7	25.8	教員個人が実施
17.1	11.4	11.4	-	-	2.9	2.9	2.9	2.9	31.4	実施体制不明
42.0	38.0	24.1	16.2	7.0	5.9	2.7	6.5	1.5	3.2	増した
27.7	22.8	14.2	9.2	5.3	4.6	1.0	2.6	2.3	2.6	変わらない
25.0	37.5	12.5	-	12.5	12.5	-	-	-	12.5	減った
26.5	19.4	12.4	8.8	5.3	3.5	1.2	4.1	6.5	10.0	わからない

2. キャリア教育の評価

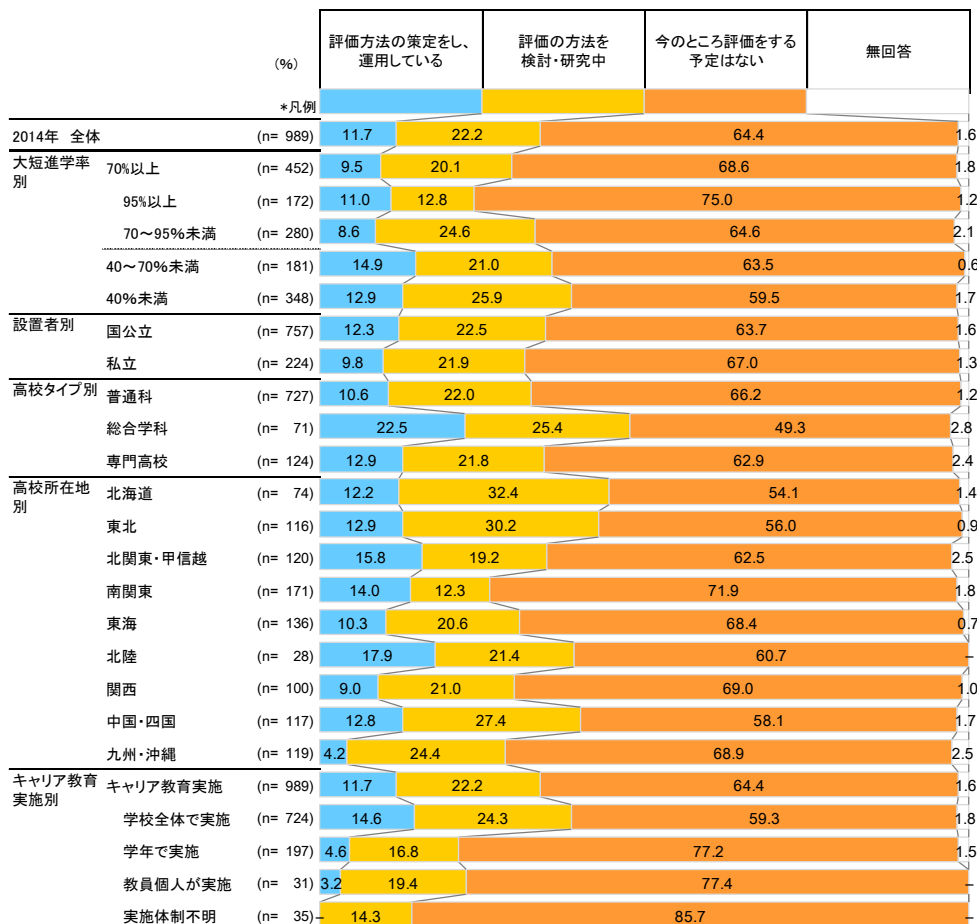
1) キャリア教育の評価実施状況

■現在、キャリア教育評価方法を策定・運用しているキャリア教育実施校は12%。

■キャリア教育実施校の1/3が評価実施に意欲的。

- 自校のキャリア教育評価について実施状況をたずねた。
キャリア教育実施校の12%が「評価方法の策定をし、運用している」と回答。「評価の方法を検討・研究中」は22%。
- 大短進学率別にみると、「運用している」は40～70%未満校で最も高く、15%。
次いで40%未満校(13%)、70%以上校(10%)。
- 設置者別にみると、「運用している」は国公立(12%)・私立(10%)とも同程度。
- 高校タイプ別にみると、「運用している」は総合学科で最も高く、23%。「検討・研究中」を合わせると半数近くがキャリア教育評価実施に意欲的。
・ 普通科(11%)・専門高校(13%)における「運用している」は約1割。
- 高校所在地別にみると、「運用している」と「検討・研究中」との割合は、北海道、東北、中国・四国で4割以上。
※北陸はn=30未満のため、参考値
- キャリア教育実施別にみると、学校全体で実施校は「運用している」「検討・研究中」いずれも最も高い。

■キャリア教育の評価状況（キャリア教育実施／単一回答）



Q10.01

【フリーコメント⑥】キャリア教育評価の指標・方法

■生徒の評価

- 年間を通しての自己評価と、インターンシップ等における受入先の評価など。[山形県/県立/普通]
- 自己評価と、レポートやポスター作成といった成果物での評価を行っている。一部はコンテストに応募する形で外部評価もある。[岡山県/県立/普通]
- 生徒へのアンケート。[茨城県/県立/普通]
- キャンドゥーリストを作成し、アンケートを学生に行って達成度をはかって測っている。[秋田県/県立/普通]
- 担任が取り組みの姿勢、プレゼンテーション、提出物(報告書、ノート等)で評価しています。[群馬県/県立/普通]
- 1年は授業ごとにワークシートを提出させ、5段階で評価。2年、3年は点数化し、文章表現による評価。[大阪府/府立/総合]
- ひとつの行事毎に、生徒の相互評価と教員による評価を行い、それらをもとに通年で評価を行っている。[愛知県/県立/総合]
- 本校では、デュアル実習ということで、希望者ではあるが、3・3年次に週1日、企業での実習を行い、生徒の評価もお願いしている。[福島県/県立/普通]

■キャリア教育プログラムの評価

- プロジェクトチームに各学年主任・教務部・生徒指導部・進路部の各部長が入っており、半期で中間評価、年度末に各項目や目標を5段階で評価し、次年度の課題やシラバスの修正などを行っている。現在は、生徒からの評価について検討中である。[福島県/私立/普通]
- 生徒、保護者に対してのアンケートを実施。学校評議員会を経て次年度の計画策定にフィードバックしている。[神奈川県/県立/普通]
- 文科省のアンケートに協力し、その結果をもとにして次年度の方針を検討したり、毎年度末に教員アンケートを実施して、教員のアイデア等も吸収している。[山口県/県立/普通]
- 生徒にはチェックシートを記入させ、活動前と後で変化があるかをキャリア担当の教諭がデータ化し、校内研修会や文部科学省で発表していた。(昨年までキャリア教育推進校に指定されていた)[青森県/県立/専門]
- 学校の自己目標を設定し年度末に評価。主として担当者が自らの取り組みを自己評価。[山口県/県立/総合]

【フリーコメント⑦】キャリア教育評価を検討・研究中の理由／評価予定はない理由

キャリア教育の評価を検討・研究中の理由

■生徒の評価

- 生徒の成長度と取り組みとしてのチェックについて何らかの評価をしたいと考えている(ルーブリック、PDCAなど)。[東京都/私立/普通]
- 現在は認定だけなので個別に評価をし、その中で意欲や目標を持たせられるようにしたい。[大阪府/私立/専門]
- 客観的な評価の仕方が分からない。分析の仕方が難しい。数値ではかることは、本来あまり意味がないのではないかと思う。[岩手県/県立/普通]
- 生徒の到達度を測るためには、具体的な基準が必要であると感じているから。[長崎県/県立/普通]

■キャリア教育プログラムの評価

- 評価がなければ目的もぼやけてしまい、キャリア教員の意義が教員にも理解が進まない。[愛知県/県立/普通]
- 実施したものに対して、評価をしなければ改善されない。また、評価基準が分かっていると、実践の計画もしやすいので。[神奈川県/私立/普通]
- キャリア教育への取り組みの必要性は十分に認識されており、各部署においてキャリア教育の視点からの生徒への指導を行っているのだが、全体としての取り組みは、きちんとまとまったものではない。今後、有機的連携を形成していく段階である。[山口県/私立/普通]

キャリア教育の評価予定はない理由

■生徒の評価

- 「キャリア教育」として評価するつもりはない。授業や日々の家庭学習で、心を鍛え、基礎学力や受験に対する学力をつけることが大事なこと、大学や将来の仕事に役立つ。そのことの評価は難しいが、「キャリア教育」として評価すべきとは思えない。[富山県/県立/普通]
- 生徒を評価するよりそれぞれの取り組みを評価する方が有効。生徒については好例を進路ニュース等で紹介することで評価にかえている。[大阪府/府立/普通]
- 評価する必要があるのか分からない。結果は生徒の進路や姿に現れるから。[奈良県/県立/普通]
- 運営について改善はすべきであるが数値による評価で生徒の生きる力は判断できない。[青森県/私立/普通]
- キャリア教育について生徒の取り組みは良好で、評価をして区別する必要を感じないことと、評価すること自体が馴染まない分野と考えるから。[北海道/道立/総合]

■キャリア教育プログラムの評価

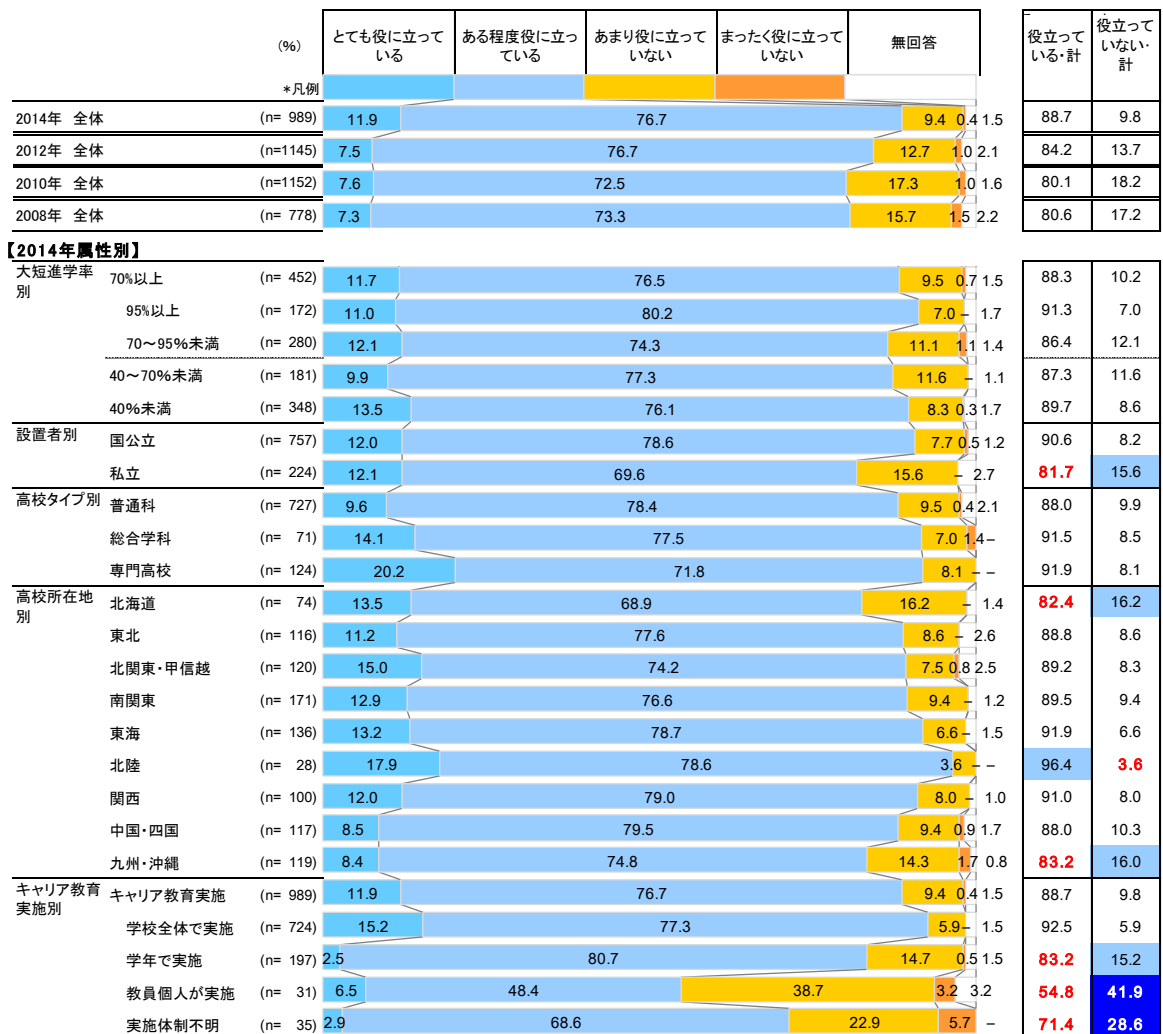
- 数値化することも大切だと考えますが評価はすべきではないと思います。キャリア教育の必要性を感じない先生方に示す資料として数字は説得力が出てきますが…評価対象となるとそれ通りの考え方、教員側の方向性に偏り、本来の生徒もつ自己形成につながらなくなるのでは？[埼玉県/私立/普通]
- まずはどのようなキャリア教育を行うのか、学校としての到達目標の設定をするのが先。[京都府/私立/普通]
- キャリア教育は、より良い進路指導の一環として行われているから。また、客観的な評価基準を策定しにくいから。[福岡県/県立/普通]
- 全ての教育活動がキャリア教育という観点であるためキャリア教育のみの評価は考えていない。[岩手県/県立/専門]

2) キャリア教育の役立ち度

■キャリア教育実施校の89%がキャリア教育は生徒にとって「役に立っている」と感じている。

- 自校のキャリア教育は生徒にとってどの程度役に立っていると思うか、その効果をたずねたところ、「とても役に立っている」はキャリア教育実施校の12%。「ある程度役に立っている」を合わせた「役立っている・計」は89%。
前回より「とても役に立っている」割合が4ポイント増加、肯定的な評価が増えている。
- 大短進学率別にみると、「役立っている・計」はいずれも約9割。
・ 40%未満校は「とても役に立っている」(14%)が他層に比べ相対的に高い。
- 設置者別にみると、「役立っている・計」は国公立(91%)が私立(82%)に比べ高い。
- 高校タイプ別にみると、「役立っている・計」はいずれも約9割。
・ 「とても役に立っている」評価は専門高校(20%)で最も高い。
- 高校所在地別にみると、「役立っている・計」が9割を超えるのは、東海、北陸、関西。
※北陸はn=30未満のため、参考値
- キャリア教育実施別にみると、「役立っている・計」が最も高いのは、学校全体で実施校(93%)。

■キャリア教育の役立ち度（キャリア教育実施／単一回答）



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

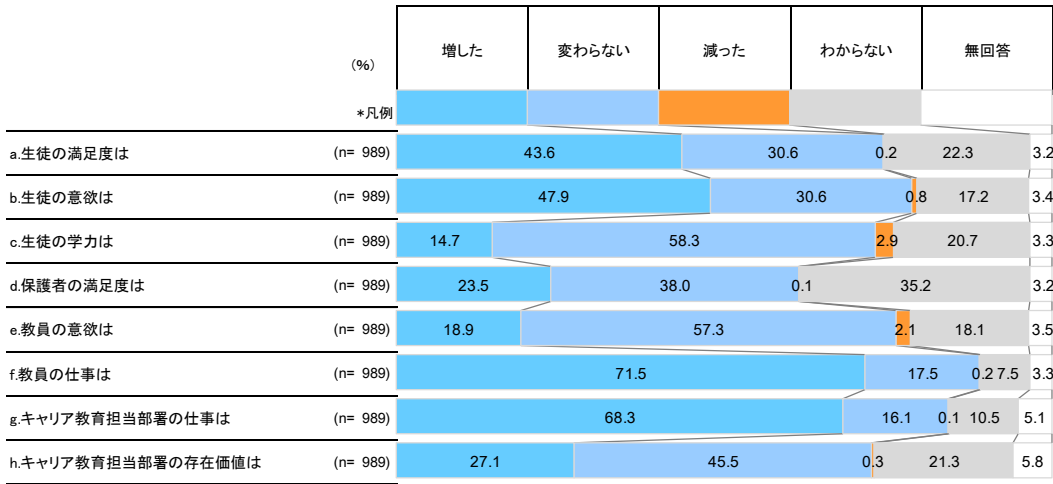
Q11.01

3) キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度

■最も「増した」のは、「教員の仕事」。次いで「キャリア教育担当部署の仕事」。

- キャリア教育実施校に、生徒・保護者・学校における意欲や満足度などの変化をたずねた。
「増した」の割合が最も多いのは「教員の仕事」(72%)。次いで「キャリア教育担当部署の仕事」(68%)。
以下、「生徒の意欲」(48%)、「生徒の満足度」(44%)。生徒の意欲・満足度が高まっているという手ごたえはあるが、
キャリア教育を推進する教員・担当部署の仕事量の増大の実感が上回っていることがうかがえる。
 - ・その他、「生徒の学力」「保護者の満足度」「教員の意欲」「キャリア教育担当部署の存在価値」は、いずれも「変わらない」の割合が最も高い。

■キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度：マトリクス（キャリア教育実施／各単一回答）

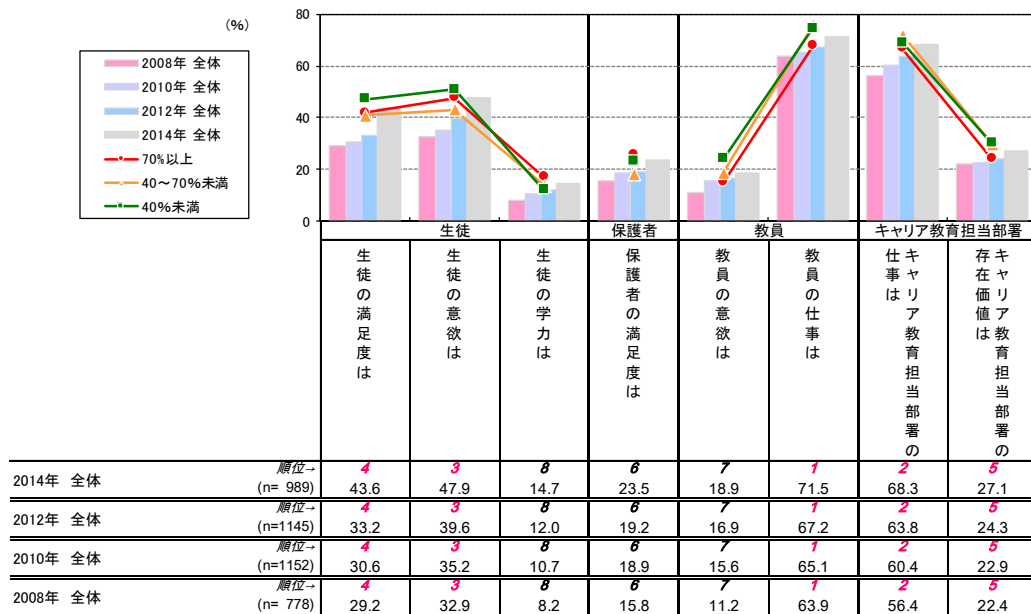


Q12.01

■学校や生徒の変容度は、いずれも「増した」が増加。

- 生徒・保護者・学校における意欲や満足度について「増した」割合を前回まで調査結果と比較すると、全項目で増加傾向が続いている。
前回からの増加が顕著なのは、「生徒の満足度」(10ポイント増)、「生徒の意欲」(8ポイント増)。
- 大短進学率別で顕著な差異はみられない。
・「生徒の満足度」「生徒の意欲」は40%未満校で相対的に「増した」割合が高い。
- 設置者別にみると、【生徒】【保護者】各項目について「増した」割合は私立が国公立よりも相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、専門高校で「生徒の満足度」「生徒の意欲」「教員の意欲」の「増した」割合が他校に比べ高い。
- 高校所在地別にみると、「教員の仕事」「キャリア教育担当部署の仕事」が「増した」割合は南関東で最も高い。
- キャリア教育実施別にみると、学校全体で実施校は全項目で「増した」割合が最も高い。

■キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度：「増した」一覧（キャリア教育実施／各単一回答）



【2014年属性別】

大短進学率別	70%以上	(n= 452)	41.8	47.6	17.0	25.7	15.0	67.7	66.6	24.1
	95%以上	(n= 172)	48.8	51.2	20.3	31.4	12.2	66.9	68.0	25.6
	70～95%未満	(n= 280)	37.5	45.4	15.0	22.1	16.8	68.2	65.7	23.2
	40～70%未満	(n= 181)	40.9	43.1	13.8	18.2	18.8	75.7	71.8	29.8
	40%未満	(n= 348)	47.1	50.9	12.1	23.0	24.1	74.4	69.0	30.2
設置者別	国公立	(n= 757)	43.1	46.6	13.9	22.3	18.8	72.5	68.0	26.9
	私立	(n= 224)	45.1	52.2	17.4	26.8	19.6	68.3	69.6	28.6
高校タイプ別	普通科	(n= 727)	42.1	46.8	14.4	23.0	17.5	70.3	67.3	25.0
	総合学科	(n= 71)	45.1	45.1	12.7	15.5	16.9	74.6	73.2	33.8
	専門高校	(n= 124)	49.2	50.8	12.1	25.8	25.8	74.2	65.3	32.3
高校所在地別	北海道	(n= 74)	45.9	44.6	16.2	23.0	27.0	64.9	62.2	36.5
	東北	(n= 116)	51.7	54.3	8.6	19.8	19.8	69.0	66.4	19.8
	北関東・甲信越	(n= 120)	45.0	46.7	19.2	25.0	17.5	71.7	72.5	25.8
	南関東	(n= 171)	44.4	51.5	20.5	32.7	15.8	78.4	75.4	27.5
	東海	(n= 136)	47.1	49.3	12.5	18.4	12.5	76.5	71.3	25.7
	北陸	(n= 28)	50.0	50.0	14.3	25.0	32.1	64.3	67.9	39.3
	関西	(n= 100)	38.0	46.0	15.0	23.0	27.0	70.0	69.0	33.0
	中国・四国	(n= 117)	34.2	37.6	9.4	20.5	16.2	69.2	63.2	22.2
	九州・沖縄	(n= 119)	39.5	49.6	14.3	20.2	19.3	68.1	61.3	29.4
キャリア教育実施別	キャリア教育実施	(n= 989)	43.6	47.9	14.7	23.5	18.9	71.5	68.3	27.1
	学校全体で実施	(n= 724)	48.5	51.9	17.3	28.0	20.9	75.4	72.8	31.5
	学年で実施	(n= 197)	33.0	41.1	8.1	12.2	13.7	65.0	60.4	14.7
	教員個人が実施	(n= 31)	32.3	38.7	9.7	6.5	19.4	54.8	48.4	16.1
	実施体制不明	(n= 35)	14.3	14.3	2.9	8.6	8.6	42.9	37.1	17.1

※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以下低い

Q12.02

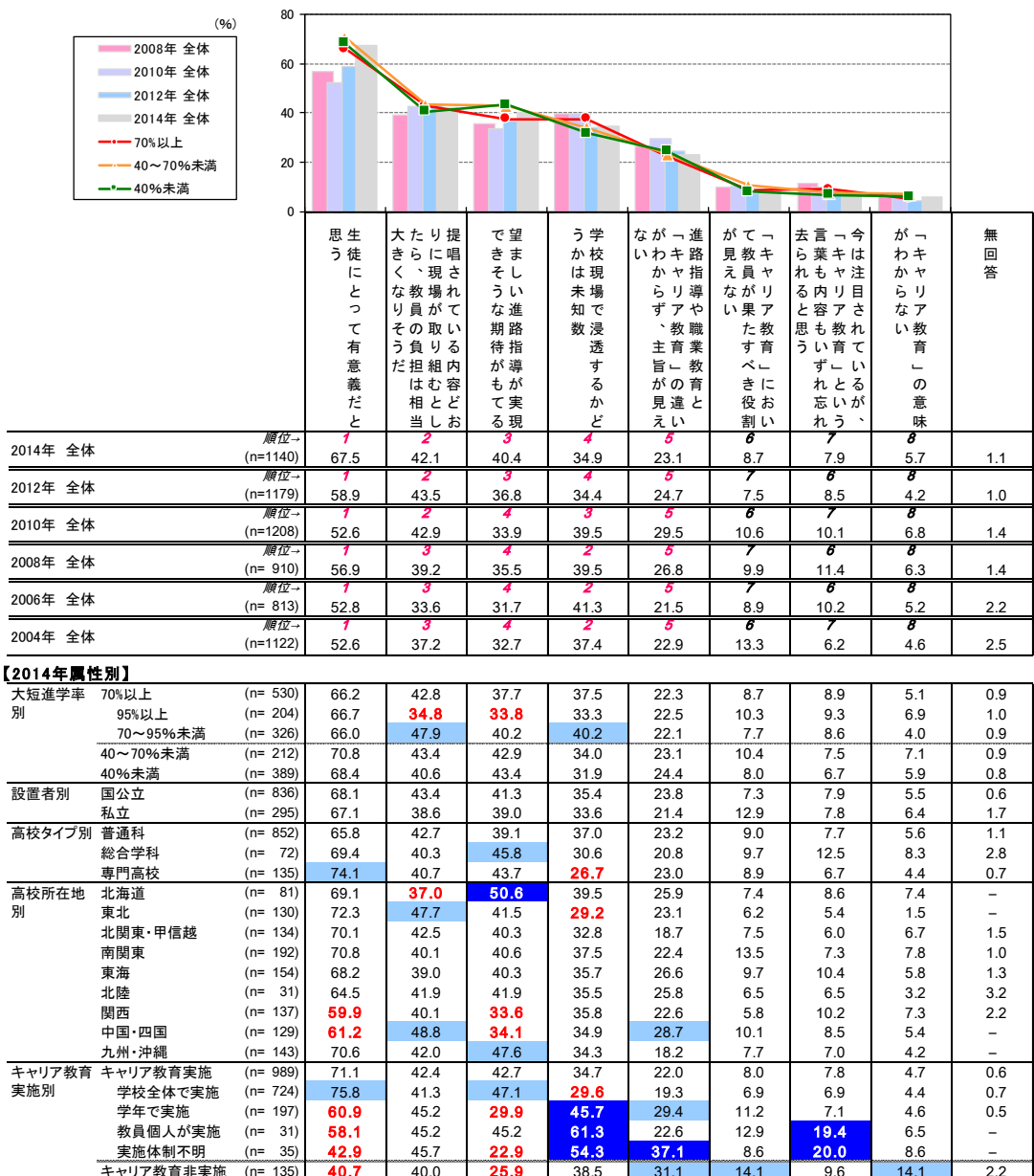
4) キャリア教育に対する考え

■全体の68%がキャリア教育は「生徒にとって有意義だと思う」。

■キャリア教育の効果を期待するポジティブな捉え方が増加、否定的・懐疑的な態度は減少。

- 調査対象全員に、キャリア教育に対する考え方について自分の考えに近いものを8つの選択肢からすべて選んでもらった。トップは「生徒にとって有意義だと思う」(68%)が突出、10年以降増加傾向が続いている。3位の「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」(40%)も前回から微増しており、キャリア教育に対し肯定的な考え方が増えている。一方、2位の「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」(42%)は前回より微減。「学校現場で浸透するかどうかは未知数」(35%)、「進路指導や職業教育と『キャリア教育』の違いがわからず、主旨が見えない」(23%)は前回から変化がなく、キャリア教育に対する否定的・懐疑的な考え方は減少傾向といえる。
- キャリア教育実施別にみると、「生徒にとって有意義だと思う」「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」は学校全体で実施校において最も高い。学年で実施校・教員個人が実施校では、「学校現場で浸透するかどうかは未知数」が相対的に高い。

■キャリア教育の有効性評価: すべて (全体/複数回答)



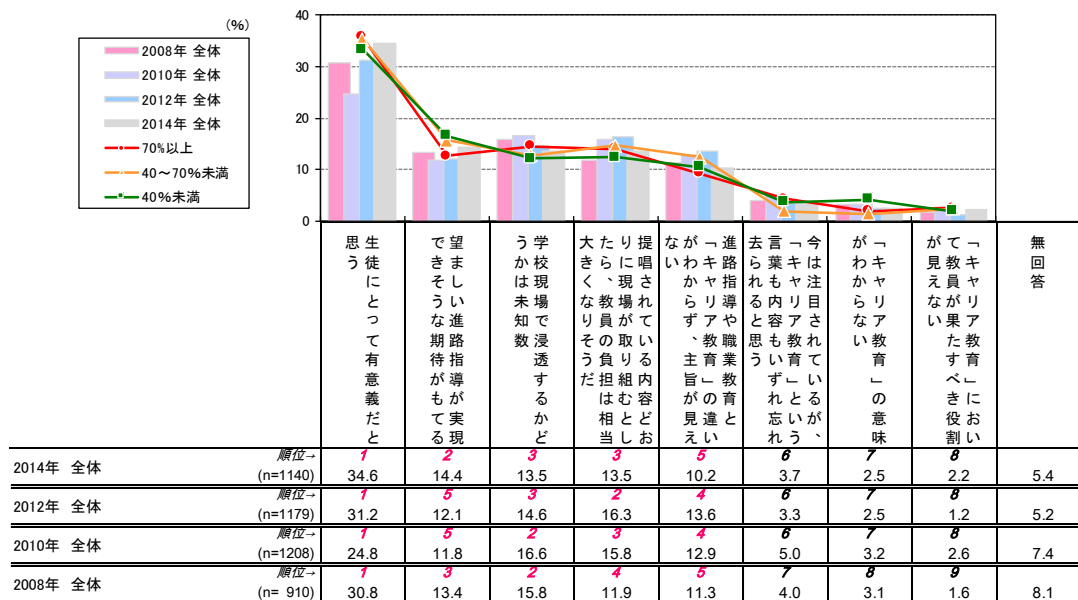
※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

Q13.01

- 前頁の考え方の中から「最もあてはまる」ものをひとつ選んでもらった。
 最多は「生徒にとって有意義だと思う」(35%)が突出、10年以降増加傾向が続いている。
 以下、「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」、僅差で「学校現場で浸透するかどうかは未知数」「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」(いずれも14%)が続く。

■キャリア教育の有効性評価:最も（全体／単一回答）



【2014年属性別】

大短進学率別	70%以上 (n= 530)	35.7	12.6	14.5	14.0	9.2	4.3	1.9	2.5	5.3
	95%以上 (n= 204)	37.7	10.3	11.8	12.7	10.8	5.9	2.5	3.4	4.9
	70~95%未満 (n= 326)	34.4	14.1	16.3	14.7	8.3	3.4	1.5	1.8	5.5
	40~70%未満 (n= 212)	35.4	15.6	12.7	14.6	12.3	1.9	1.4	2.4	3.8
	40%未満 (n= 389)	33.4	16.5	12.1	12.3	10.5	3.6	4.1	1.8	5.7
設置者別	国公立 (n= 836)	35.2	14.8	12.7	14.8	10.4	3.3	2.5	1.6	4.7
	私立 (n= 295)	33.9	13.6	15.3	9.8	9.8	4.4	2.7	4.1	6.4
高校タイプ別	普通科 (n= 852)	34.0	13.8	14.8	14.0	10.6	3.4	2.5	2.3	4.6
	総合学科 (n= 72)	27.8	18.1	9.7	16.7	8.3	6.9	4.2	1.4	6.9
	専門高校 (n= 135)	40.0	14.1	11.1	8.9	8.9	3.7	3.0	2.2	8.1
高校所在地別	北海道 (n= 81)	35.8	14.8	14.8	8.6	8.6	4.9	3.7	1.2	7.4
	東北 (n= 130)	41.5	12.3	14.6	12.3	13.1	2.3	0.8	1.5	1.5
	北関東・甲信越 (n= 134)	35.1	15.7	11.9	15.7	6.7	1.5	4.5	2.2	6.7
	南関東 (n= 192)	39.6	10.9	11.5	14.1	9.4	3.6	2.1	3.1	5.7
	東海 (n= 154)	34.4	18.2	14.9	9.7	12.3	3.9	3.2	1.3	1.9
	北陸 (n= 31)	32.3	19.4	3.2	22.6	3.2	—	—	6.5	9.7
	関西 (n= 137)	27.7	13.1	16.1	16.8	10.2	5.1	0.7	2.2	8.0
	中国・四国 (n= 129)	28.7	10.9	14.0	14.7	13.2	4.7	5.4	3.1	5.4
	九州・沖縄 (n= 143)	35.0	19.6	12.6	12.6	9.8	3.5	1.4	1.4	4.2
	キャリア教育実施 (n= 989)	36.7	15.3	13.1	13.1	9.4	3.4	2.2	1.8	4.9
実施別	学校全体で実施 (n= 724)	42.3	17.0	10.4	11.7	7.3	3.2	2.3	1.4	4.4
	学年で実施 (n= 197)	22.8	10.7	21.3	14.7	15.2	4.1	1.5	2.5	7.1
	教員個人が実施 (n= 31)	16.1	19.4	22.6	25.8	9.7	—	—	6.5	—
	実施体制不明 (n= 35)	17.1	2.9	17.1	20.0	20.0	8.6	5.7	2.9	5.7
	キャリア教育非実施 (n= 135)	20.0	8.1	17.0	15.6	16.3	5.9	5.2	5.2	6.7

※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

Q13_SQ1_01

【フリーコメント⑧】キャリア教育に対する考え:「最も」そう思う理由

■生徒にとって有意義だと思う

【キャリア教育実施校】

- 何のために学習するのか、大学に進学するのかの意義と社会に出て活躍するために必要な資質、能力をキャリア教育を通して生徒に教えられることで将来の目標、またそれに向け頑張ろうというモチベーションが上がり結果、学習意欲の向上に貢献できるため。[栃木県/県立/普通]
- 生活体験が以前より少なくなっている生徒達が、将来どのように生きていくかを考える必要性・重要性は、年々増していると思うから。[宮城県/県立/専門]

【キャリア教育非実施校】

- 生徒は、「自分のことを自分が一番分かっている訳ではない」ということに気づき、将来の可能性を広く知り、その中から選択していくべきだと考えるから。[山形県/県立/普通]
- 将来の自分の姿をイメージしていく機会があることは、大変重要だと思います。[京都府/私立/普通]

■望ましい進路指導が実現できそうな期待が持てる

【キャリア教育実施校】

- 従来の「いずれは役に立つから」とか、「入試に必要なだから」で片付けられていた基礎教育と、社会を結び付けた意義は大きいと感じている。[岩手県/県立/普通]
- みずからのキャリアプランを考えることで、目標が具体的にになる。[千葉県/私立/普通]
- 今までの進路指導は出口指導が中心であったが、キャリア教育の立場に立ち、生徒一人一人の人生をいかに豊かにするかを考えることで、進路選択の幅が広がり、より良い進路指導ができる。[岐阜県/県立/専門]

【キャリア教育非実施校】

- 人による自律的なキャリア開発の時代が来ている。それに対応するためには高校、大学を通じてアクティブラーナーを育て自ら行動できる人間を育てることが肝要だ。[新潟県/県立/普通]
- 将来の生き方まで含めた指導が必要だから。[鹿児島県/私立/普通]

■学校現場で浸透するかどうかは未知数

【キャリア教育実施校】

- キャリア教育が広汎に及び過ぎて、焦点を掴みにくく、多くの試行錯誤を要するから。[宮城県/県立/普通]
- 成果が漠然としている。キャリア教育の推進→学習意欲の向上→・・・その先にあるものは結局大学への進学数。ここにキャリア教育の意味を見出しがち。[北海道/道立/普通]
- 教師自身の経験が生徒へ伝わる情報であることがほとんどであるため、偏りが生じる可能性がある。教師の知識や経験が、圧倒的に不足している。[鹿児島県/県立/専門]

【キャリア教育非実施校】

- 学校現場で部署ごとで考える傾向が強く、トータルでの変化を得意としない。現在の生徒指導、進学指導、就職指導、模試担当までいると、コンセンサスを得ながらやっていくのが難しいと思う。[奈良県/私立/普通]
- 教科指導とうまく結び付けられないと、浸透されるか難しいかも。[沖縄県/県立/普通]
- 学校現場だけでなく家庭や地域社会の関わり方もキャリア形成に大きく影響があると思われるため。[長崎県/県立/専門]

■提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ

【キャリア教育実施校】

- 学習指導要領の改定で内容が増えている上にインターンシップの推進や大学入試の多様化など対応しなければならぬものが増えているので。[栃木県/県立/普通]
- キャリア教育は幅が広いため教員が全てを担うのは大変である。専門のキャリアティーチャーやカウンセラー、アドバイザー、チューターなど社会全体とかがかりながら実施することが大切だと思います。[兵庫県/市立/普通]

【キャリア教育非実施校】

- 本校のように、就職する生徒が多岐にわたり、かつ200名を超える中で、1人ひとりを見つめて指導する限界を感じている。[北海道/道立/専門]
- 以前より校務が多忙になっている状況で、学校全体として取組んだとしても、一部の教員に負担が大きくなると思う。[埼玉県/県立/専門]

■進路指導や職業教育と「キャリア教育」の違いがわからず主旨が見えない

【キャリア教育実施校】

- 学校教育のそれぞれの活動が将来「自立をして生きていくために必要な能力や態度を育てる教育」であり広い意味で従来の学校の活動と何ら変わらないと思う。[佐賀県/県立/普通科]
- 進学校においてはキャリア教育→進路意識の向上→学習意欲の向上→進路実績の向上が狙いでありいわゆる出口指導の発展形でしかないのではないかという気がする。[宮城県/県立/普通]
- 従来の進路指導は、キャリア教育と呼ばれる内容とそれほど大差なく実施されてきた。[青森県/県立/総合]
- 特に専門高校では両者の違いを現実的にどこで線引きできるか、多くの教員が分からないままである。[岩手県/県立/専門]

【キャリア教育非実施校】

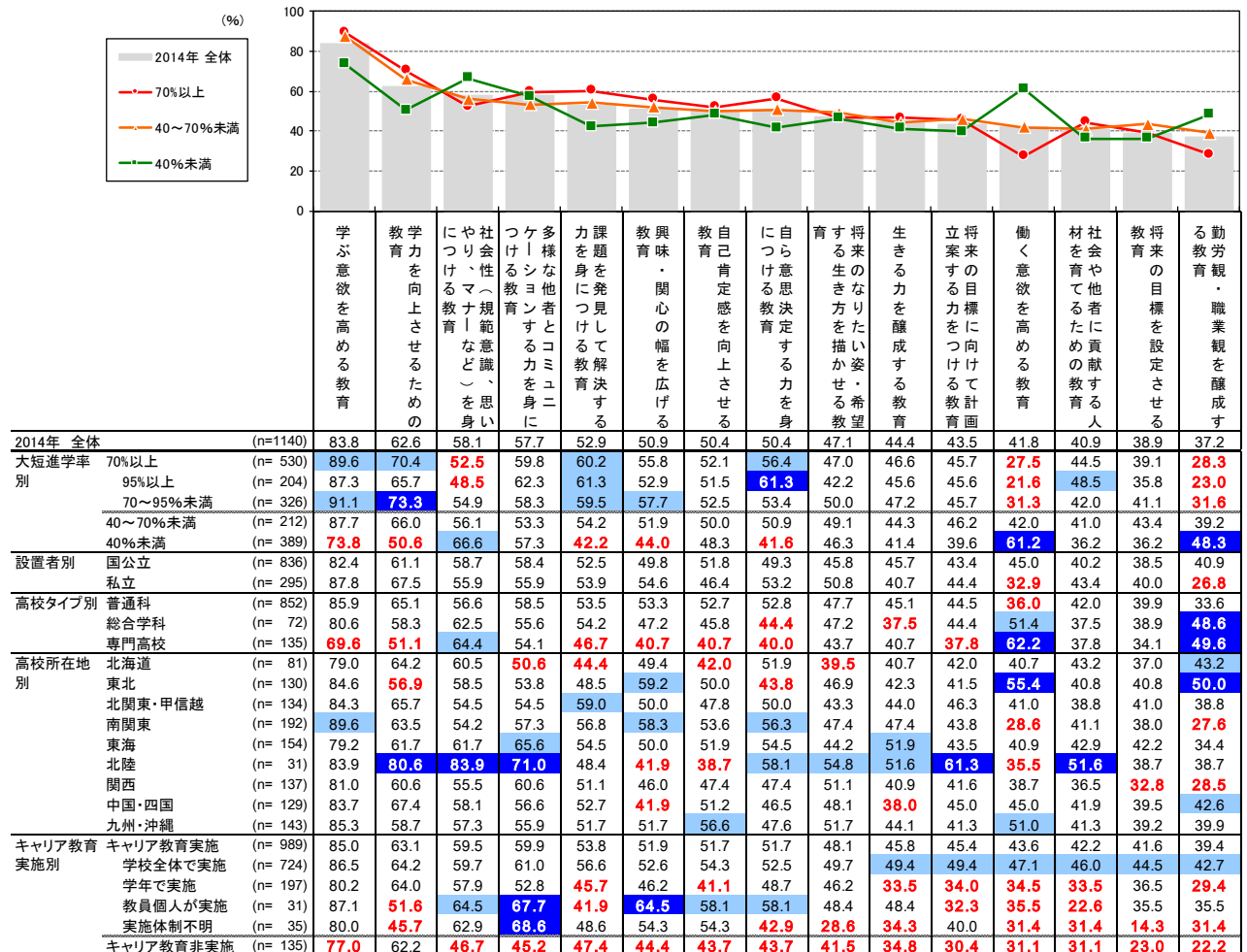
- 従来の進路授業の枠組でなげいけいのか、何が問題なのかは釈然としない。「上」の方針がコロコロ変わるので宙に浮いた状態になっているのではないか。[大阪府/府立/普通]
- ほぼ100%上級学校に進学する本校において、社会の一員として役割を果たすのは、4年後である。本人がどのような職業に就きたいか？で大学を選んでいる生徒より、何が勉強したいか？で大学を選んでいる現在、「キャリア教育」は大学に任せたい！[兵庫県/県立/普通]
- 進路指導(進学、就職)はもちろん授業、学校行事も含めて全てが「在り方、生き方」の指導だと考えているので、「キャリア教育」を改めて行う意義が感じられない。[福岡県/県立/普通]

5) 今後注力していきたい教育

■ 今後は「学ぶ意欲を高める教育」「学力を向上させるための教育」に対する注力が優先される。

- 調査対象全員に、今後注力していきたい教育をすべて選んでもらった。
トップは「学ぶ意欲を高める教育」(84%)が突出。2位～4位は拮抗しており、「学力を向上させるための教育」(63%)、「社会性を身につける教育」「多様な他者とコミュニケーションする力を身につける教育」(いずれも58%)。以下、「課題を発見して解決する力を身につける教育」(53%)、「興味・関心の幅を広げる教育」(51%)など続く。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「課題を発見して解決する力を身につける教育」「自ら意思決定する力を身につける教育」「グローバルに活躍できる人材を育てるための教育」「難易度の高い学校を目指すための教育」が高い。
・ 上記4項目いずれも進学率95%以上校で最も高い。
反対に進学率が低い高校ほど、「社会性を身につける教育」「働く意欲を高める教育」「勤労観・職業観を醸成する教育」「将来つきたいと思う職業を見つける教育」「資格取得を促進する教育」など、就職準備に関する教育の意向が高い。
- 設置者別にみると、上位項目:「学ぶ意欲を高める教育」「学力を向上させるための教育」は私立が国公立よりも相対的に高い。
・ 国公立は「自己肯定感を向上させる教育」「生きる力を醸成する教育」「働く意欲を高める教育」「勤労観・職業観を醸成する教育」などが私立に比べ高い。

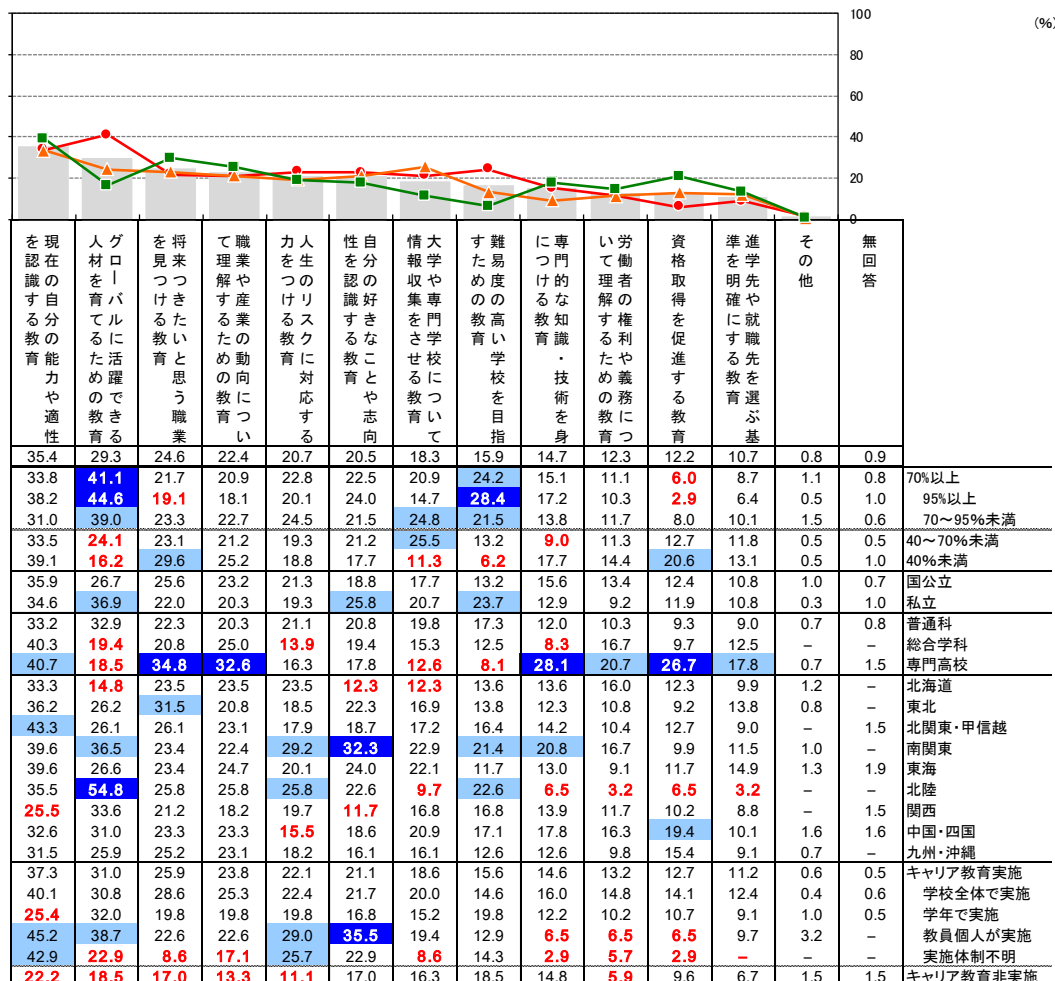
■ 今後注力していきたい教育: すべて (全体/複数回答)



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

- 高校タイプ別にみると、上位項目：「学ぶ意欲を高める教育」「学力を向上させるための教育」は普通科で最も高い。
総合学科・専門高校では「社会性を身につける教育」「働く意欲を高める教育」「勤労観・職業観を醸成する教育」「現在の自分の能力や適性を認識する教育」などが普通科に比べ高い。
- キャリア教育実施別にみると、学校全体で実施校キャリア教育実施校は「生きる力を醸成する教育」「将来の目標に向けて計画立案する力をつける教育」「働く意欲を高める教育」「社会や他者に貢献する人材を育てるための教育」「将来の目標を設定させるための教育」「勤労観・職業観を醸成する教育」が他実施校・キャリア教育非実施校に比べ高い。
キャリア教育の観点に即し、生徒の将来を見据えた教育への意欲がうかがえる。



6) キャリア教育の推進を難しくしている要因

■「教員の負担の大きさ」が突出。

■教員の業務負担の増大がキャリア教育推進を阻害している。

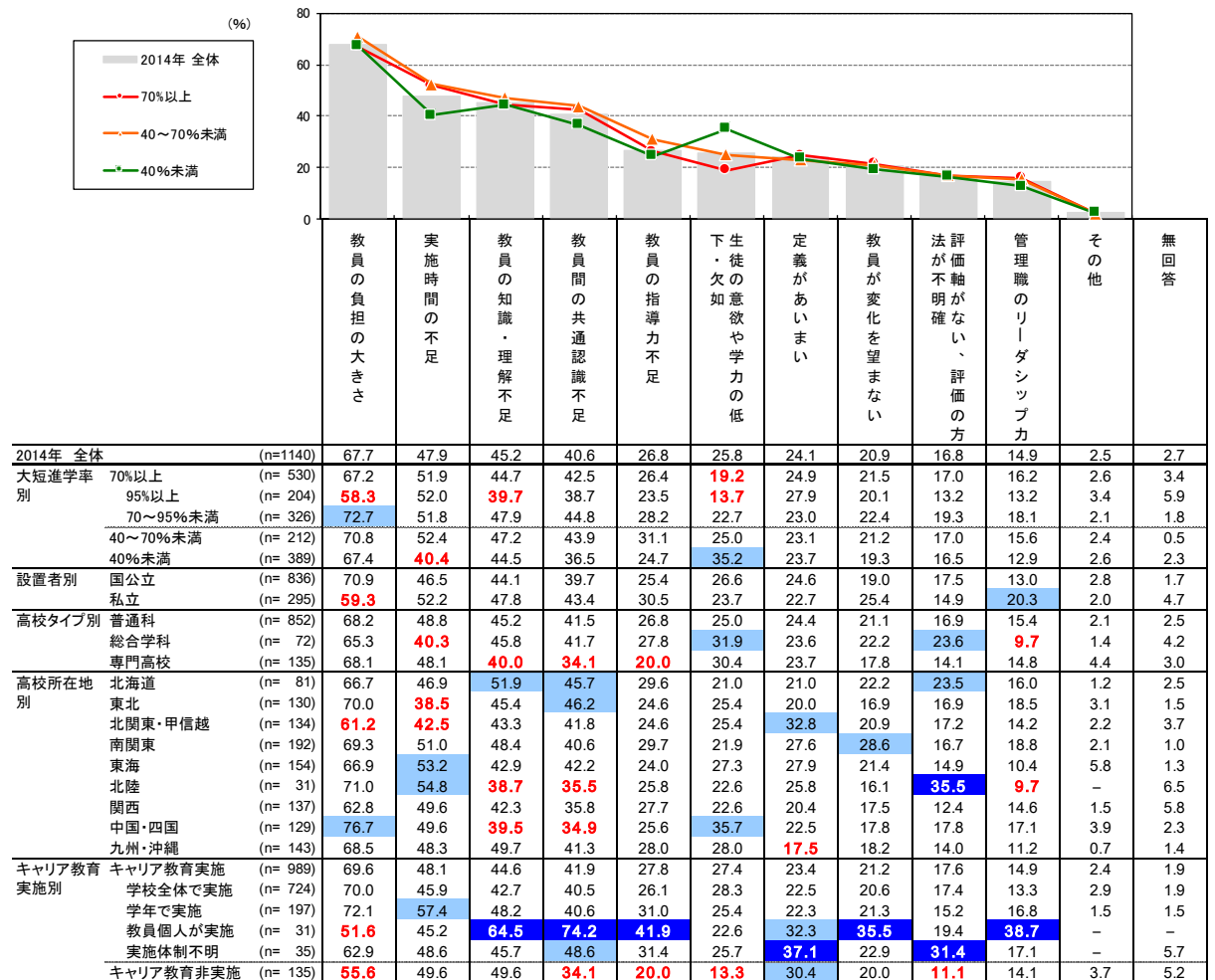
- キャリア教育実施校・非実施校の両方に、自校でキャリア教育を進めていくにあたり「難しくしている」と思われる要因をすべて選んでもらった。

トップは「教員の負担の大きさ」(68%)が突出。前述のキャリア教育に対する考え方でも「教員の負担は相当大きくなりそうだ」という不安が上位に挙げたが、教員の業務負担の増大は、キャリア教育推進の阻害要因としてトップに捉えられている。以下「実施時間の不足」(48%)、「教員の知識・理解不足」(45%)、「教員間の共通認識不足」(41%)が続く。

- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「教員の負担の大きさ」が突出。進学率70%以上校・40～70%未満校は「実施時間の不足」、40%未満校は「生徒の意欲や学力の低下・欠如」がそれぞれ相対的に高い。

- キャリア教育実施別にみると、学校全体で実施校・学年で実施校でのトップは「教員の負担の大きさ」が7割。一方、教員個人が実施校では「教員間の共通認識不足」(74%)がトップである他、「教員の知識・理解不足」「教員の指導力不足」「管理職のリーダーシップ力」「教員が変化を望まない」が他層に比べ特に高く、教員間の理解・共通認識の不足がキャリア教育への組織的な取り組みを阻んでいると認識していることがうかがえる。

■キャリア教育を難しくしている要因：すべて（全体・複数回答）



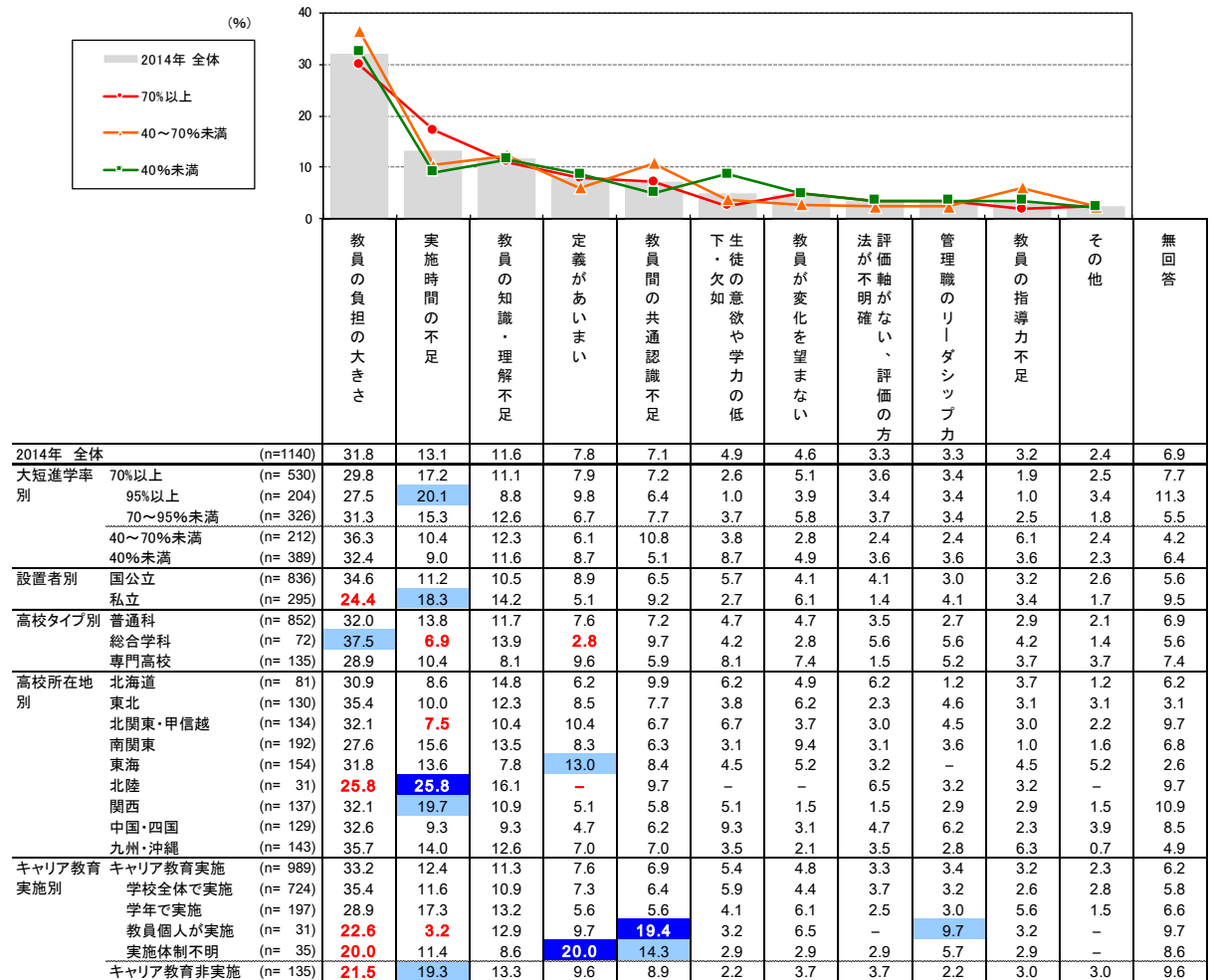
※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

Q15.01

- 前頁の阻害要因の中から「最もあてはまる」ものをひとつ選んでもらった。
 最多は「教員の負担の大きさ」(32%)が突出。
 以下、「実施時間の不足」(13%)、「教員の知識・理解不足」(12%)が続く。

■キャリア教育を難しくしている要因：最も（全体／単一回答）



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q15.SQ1.01

※「2014年全体」降順ソート

【フリーコメント⑨】キャリア教育の推進を難しくしている最大要因:そう思う理由

■教員の負担の大きさ

【キャリア教育実施校】

- 通常の授業の準備、部活動、進路面談、放課後講習などに加えて、効果があるかどうかの評価軸がないものに力を入れる余裕がない。[北海道/私立/普通]
- 計画にみあった実施のための詳細な準備や、事後検討のための時間が追いついていない。[広島県/県立/普通]
- 個々の学校だけでは十分対応できない問題も多い。県レベルでの配慮もいただけるとありがたいと思う。仕事が増しているから人手も増やして欲しい。[愛知県/県立/専門]
- 今していることが、既に負担が多い。学校がすべき事、家庭や社会がすべき事、またその協力などを決めないと、その多くが学校の範囲とされてしまう感がある。[愛知県/県立/普通]

【キャリア教育非実施校】

- 現行の教育現場での多忙さの中でさらに仕事が増えることで教員の負担が増えるので。[千葉県/私立/普通]
- 教員数が不足している。1人で複数の公務分掌を兼任している。[沖縄県/県立/専門]

■実施時間の不足

【キャリア教育実施校】

- 実施には時間がかなりやらせたいこと、やりたいことが多くカリキュラムではこれ以上深めていくのは厳しい。[東京都/私立/普通]
- 通常授業での実施となると年間プログラムが計画しにくい点と、長期休暇での実施となると他の講習、合宿などとの日程調整が難しい点。又、企業とのつながりについて、相談窓口の少なさが難しくしていると思われる。時間的な制約が多い点が大変難しくしている。[東京都/私立/普通]
- 特定の時間のみの実施となっており継続した取り組みが持続できない状況にあるため。[福島県/県立/総合]
- 限られた時間での実施は企業にとっても生徒にとっても中途半端になっている。[愛媛県/県立/専門]

【キャリア教育非実施校】

- キャリア教育は非常に大切だと思う。しかしながら大学進学をめざす中で十分な時間がとれないのが現実である。[京都府/私立/普通]
- 教育課程をこなすだけで時間がいっぱい。”総合の時間”などを使い、「キャリア教育」を進める手もあるが…教員の負担が増え過ぎる。そもそも今までなかった事を教えるためには、かなりの努力を要する。[兵庫県/県立/普通]

■教員の知識・理解不足

【キャリア教育実施校】

- 教員が社会の変化に対応していない。学校はいつまでも同じことを教える場になってしまっている。社会変化と周囲のニーズを理解させないと、意識は変わらず、旧態依然となってしまうだろう。[岡山県/県立/普通]
- 教育委員会レベルでも「職業(感)教育」のみと捉えている様子があり、それでは大多数の学校現場では、前向きな姿勢が出てこないと思う。[富山県/県立/普通]
- 教員間のコミュニケーション不足。温度差が大きい。やれる教員がやれば良いという形式が多い。無関心な教員もいる。[神奈川県/私立/普通]

■教員の知識・理解不足

【キャリア教育非実施校】

- 私は民間企業にいたので感じるが、大学を終わってすぐ学校の現場にいる先生方は、企業や産業についての認識が甘い。教員志望であれば教育現場に来るのが当然であるし、非常に難しい問題と思う。[青森県/県立/普通]

【キャリア教育非実施校】

- 現状で何が不足しているのか、何が必要なのか、それがキャリア教育というものとどうつながるのか、検討されていない。[東京都/私立/普通]
- 教科指導との関連性が難しいのではないかな。[沖縄県/県立/普通]

■定義があいまい

【キャリア教育実施校】

- 今まで実施してきた教育内容を包含する形で、キャリア教育という言葉が使われ始めた。今さらキャリア教育と文科省は大騒ぎしているが、具体的に何をすればキャリア教育なのか、具体像が見えない。[青森県/県立/総合]

【キャリア教育非実施校】

- 取り立てて「キャリア教育」と位置付けずとも、日常の授業やHR、進路指導等の積み重ねがあれば十分だと思う。[神奈川県/県立/普通]
- 言葉だけが先走り、生徒、教員、保護者、またそれ以外の方々(小・中の先生など)、みな捉え方がバラバラのような気がします。[岩手県/私立/普通]

■教員間の共通認識不足

【キャリア教育実施校】

- ベテランの教員の古い考え方と、現在進めようとしているキャリア教育、指導方針との温度差。今後取り入れたいライフプランニング的な要素に対する不勉強など。[静岡県/私立/普通]
- キャリア教育の必要性を認識する前に教員になった世代がまだ過半を占めているから。[奈良県/県立/普通]
- キャリア教育が特定の時間に限定して行われるものだと考える教員が多いように思われるため。[岡山県/県立/普通]
- 毎年の人事異動の中で、マニュアルだけでは分からないところを継承していくことが難しく感じるため。[島根県/県立/総合]

【キャリア教育非実施校】

- 教員一人一人が抱えている業務があまりに多岐にわたり多く、教員一人一人の価値観や考えが大なり小なり様々なので、共通認識を持つことが難しくなっている現状があるから。[大阪府/私立/普通]
- 教員がそれぞれの問題意識を持って、様々な取り組みを行っているが、キャリア教育を行うことで、系統立った取り組みができる事が理解されていない。[北海道/村立/その他]
- 方向性が見えてないのでマンパワーをかけにくい。[愛媛県/私立/普通]

7) 生徒に将来必要とされる社会人基礎力と生徒が現在持っている社会人基礎力

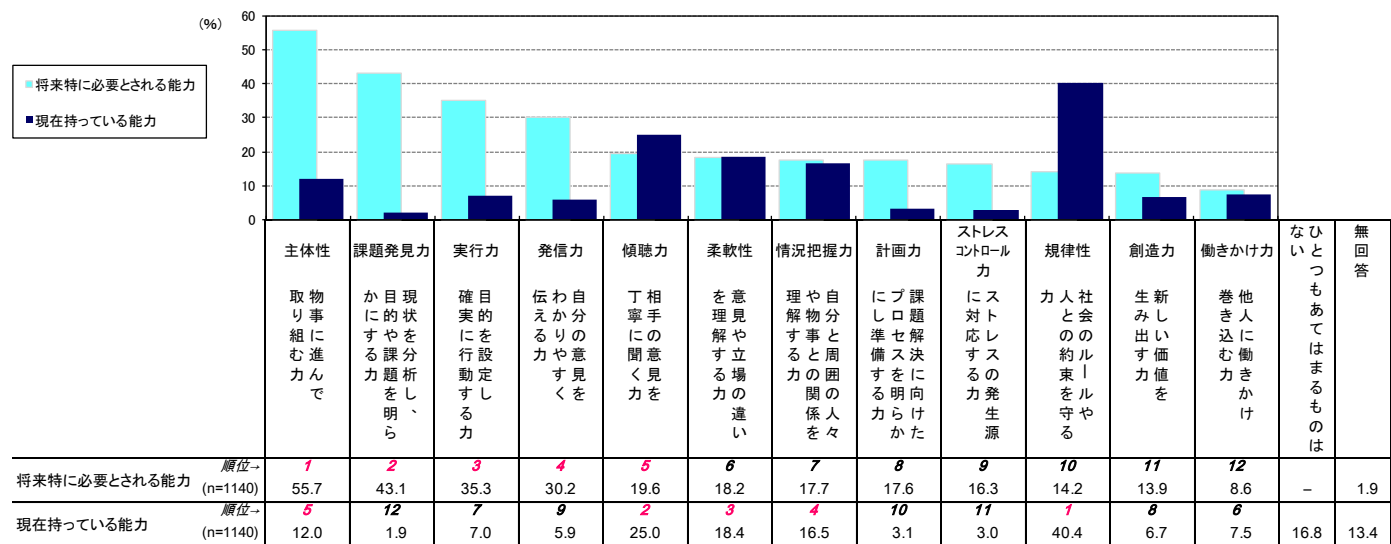
■将来必要な能力は「主体性」(56%)、「課題発見力」(43%)、「実行力」(35%)。

■現在持っている能力は「規律性」(40%)、「傾聴力」(25%)、「柔軟性」(18%)。

■生徒に将来必要な能力は、現在はいずれもまだ備わっていないという認識。

- 調査対象全員に、経済産業省で定義されている『社会人基礎力』:12の能力要素のうち、生徒にとって「将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」を、それぞれ3つまで選んでもらった。
- 生徒に将来必要な能力は、「主体性:物事に進んで取り組む力」(56%)がトップ。以下、「課題発見力:現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」(43%)、「実行力:目的を設定し確実に行動する力」(35%)、「発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力」(30%)、「傾聴力:相手の意見を丁寧に聞く力」(20%)が続く。
- 生徒が現在持っている能力は、「規律性:社会のルールや人との約束を守る力」(40%)が突出。以下、「傾聴力:相手の意見を丁寧に聞く力」(25%)、「柔軟性:意見や立場の違いを理解する力」(18%)、「状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力」(17%)、「主体性:物事に進んで取り組む力」(12%)が続く。
- 将来の必要な能力と現在持っている能力とのスコア差をみると、「主体性」「課題発見力」は将来の必要性は高いが現在の達成度は低い(いずれもスコア差は40ポイント以上)。この他、「実行力」「発信力」「計画力」「ストレスコントロール力」も将来必要とされるスコアを下回る。
 - ・「将来必要」と「現在持っている」とのスコア差がおおむね一致しているのは、「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」の3能力。

■将来特に必要とされる・生徒が現在持っている社会人基礎力（全体／各3つまで回答）



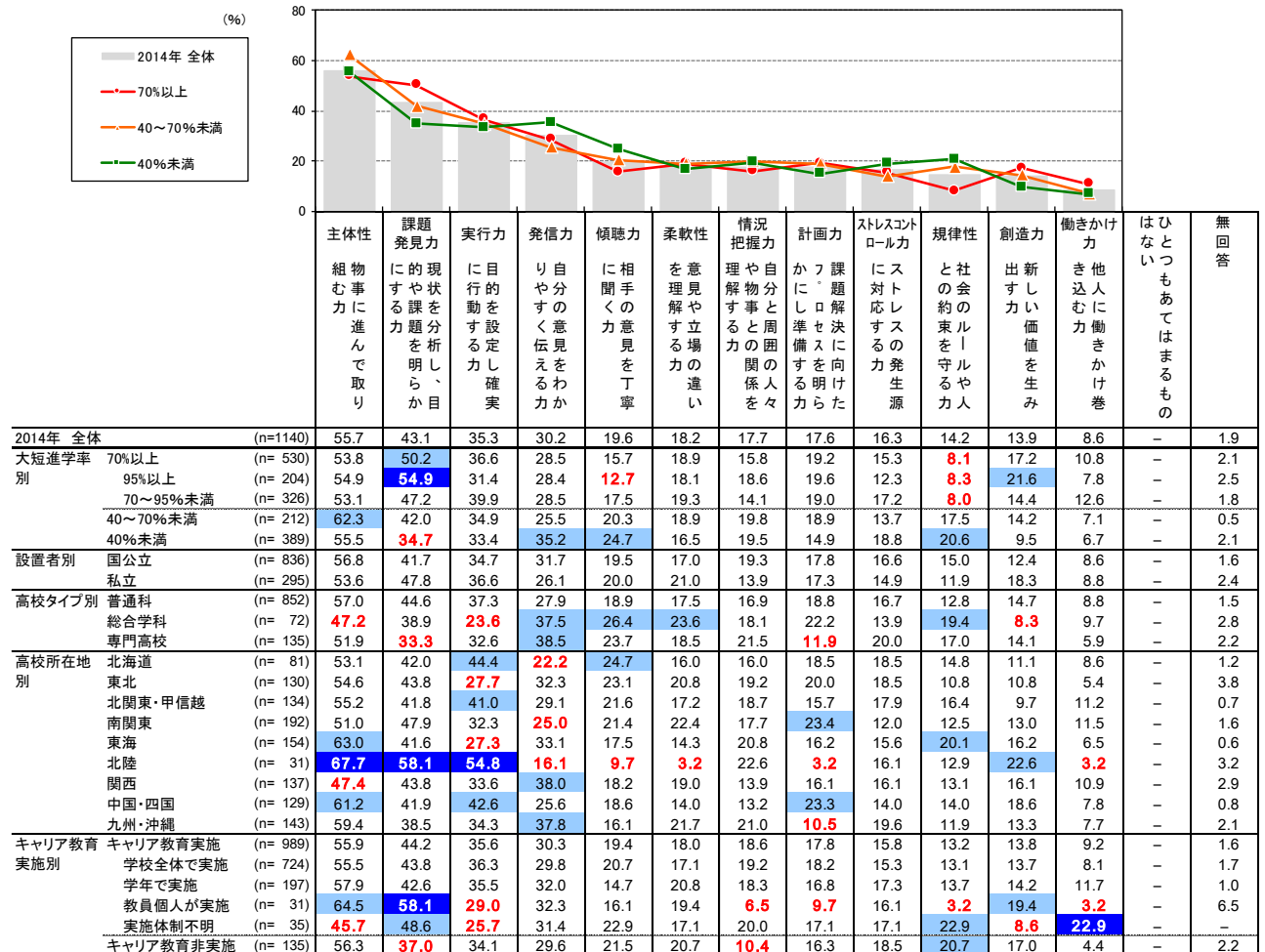
※「必要とされる社会人基礎力」降順ソート

Q16_01

将来特に必要とされる社会人基礎力

- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「主体性」。
進学率が高い高校ほど「課題発見力」の必要度が高い。反対に進学率が低い高校ほど「傾聴力」「規律性」の必要度が相対的に高い。
- ・この他、40%未満校は「発信力」「ストレスコントロール力」の必要度が他層に比べ相対的に高い。
- 設置者別で顕著な差異はみられない。
国公立では「発信力」「情況把握力」、私立では「課題発見力」「創造力」がそれぞれ相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、上位の「主体性」「課題発見力」「実行力」はいずれも普通科が他学科に比べ高い。総合学科・専門高校は「発信力」が普通科に比べ高い。
- キャリア教育実施別にみると、学校全体・学年・教員個人いずれの実施体制でもトップは「主体性」。2位以下の順位に大きな差異はないが、キャリア教育実施校では「課題発見力」「情況把握力」、キャリア教育非実施校は「規律性」がそれぞれ相対的に高くなっている。

■特に必要とされる社会人基礎力（全体／3つまで回答）



※「2014年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

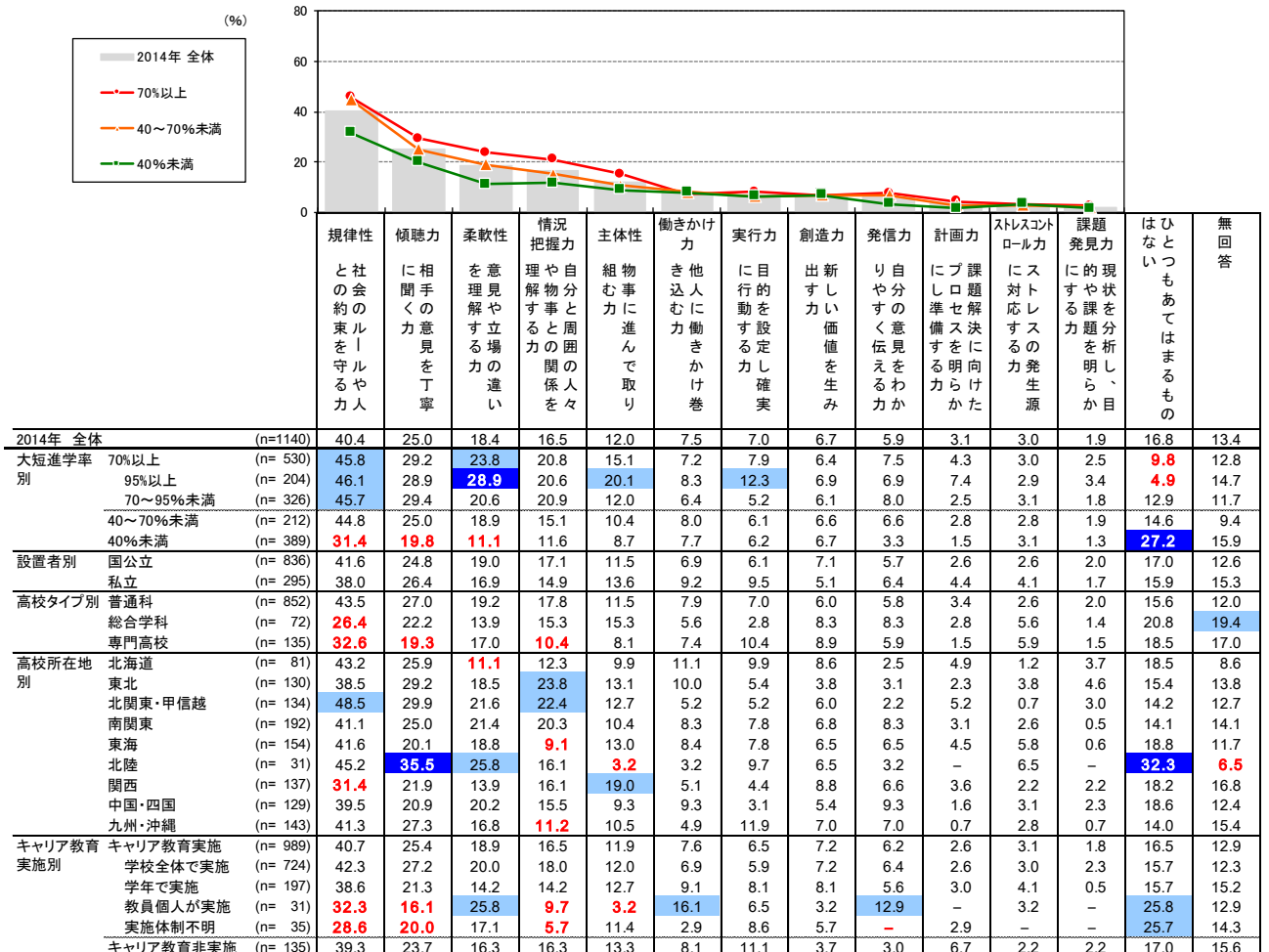
※「2014年全体」降順ソート

Q16.02

現在持っている社会人基礎力

- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「規律性」。
現在持っている能力の上位:「規律性」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「主体性」はいずれも、進学率が高い高校ほど持っているという認識が高い。
・「規律性」をみると、70%以上校・40～70%未満校は4割強であるのに対し、40%未満校(31%)は10ポイント以上下回る。
- 設置者別・高校タイプ別・キャリア教育実施別にみて、顕著な差異はみられない。

■生徒が現在持っている社会人基礎力（全体／3つまで回答）



※「2014年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以下低い

※「2014年全体」降順ソート

第Ⅲ部 授業改善の取り組み

1. アクティブラーニング型授業など一斉講義型ではない授業への取り組み

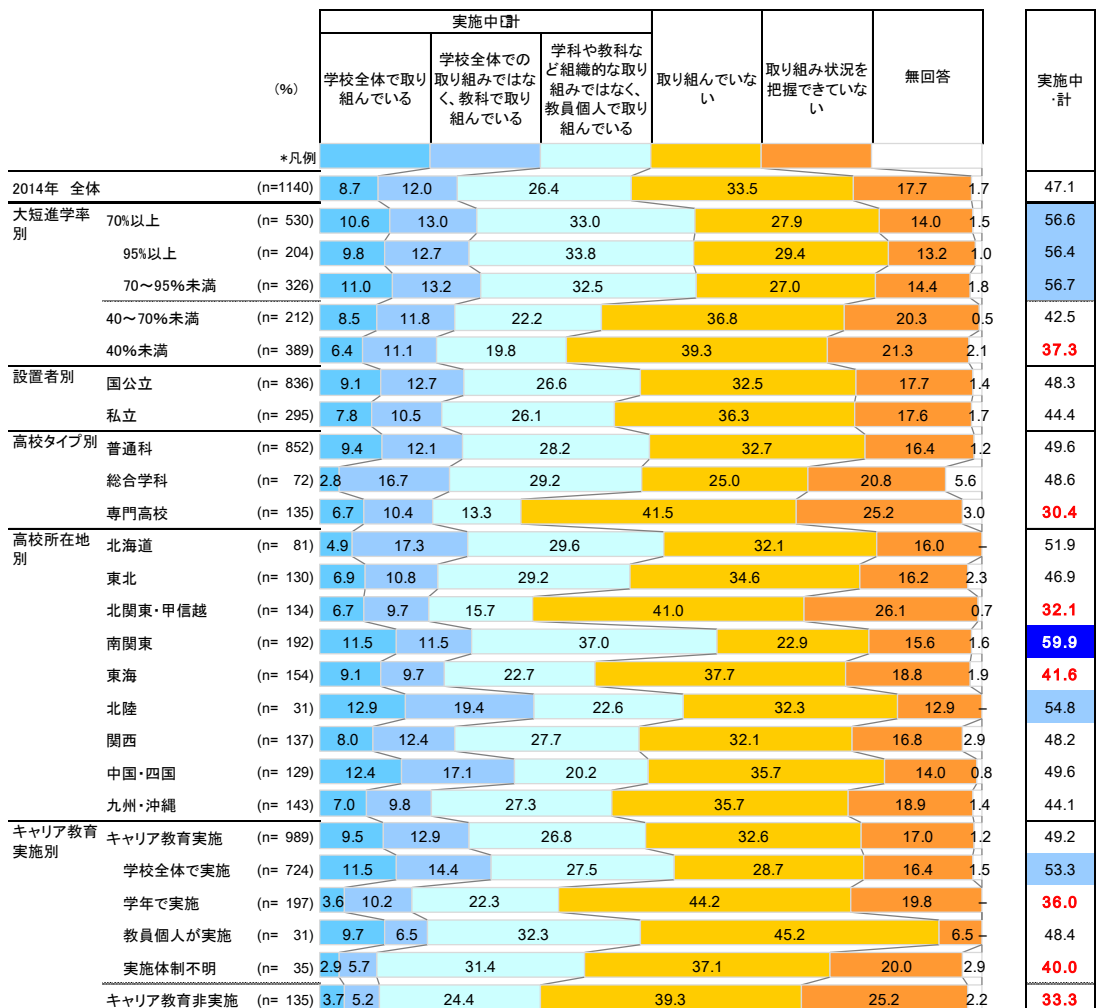
1) 一斉講義型ではない授業改善の実施状況

■全体の47%が授業改善を実施中。

■取り組み方の最多は「教員個人で取り組んでいる」。組織・体系的な取り組みはまだ少ない。

- アクティブラーニング型授業といった一斉講義型ではない授業への転換など、授業改善の取り組み状況をたずねた。調査対象校の47%が改善を「実施中」。その内訳は、「学科や教科など組織的な取り組みではなく、教員個人で取り組んでいる」(26%)が最多。次いで「学校全体での取り組みではなく、教科で取り組んでいる」(12%)、「学校全体で取り組んでいる」(9%)。学校全体・教科といった組織・体系的な取り組みは少ない。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど実施率は高い。いずれも取り組み方は「教員個人で取り組んでいる」が最多。
- 設置者別にみると、実施率は国公立(48%)・私立(44%)とも4割を超える。
- 高校タイプ別にみると、普通科(50%)・総合学科(49%)での実施率が専門高校(30%)を上回る。
- 高校所在地別にみると、実施率が高いのは南関東(60%)、北陸(55%)。反対に実施率が低いのは、北関東・甲信越(32%)、東海(42%)。
- キャリア教育実施別にみると、キャリア教育実施校における授業改善の実施率は49%、非実施校(33%)を上回る。特に、学校全体で実施校では「学校全体で取り組んでいる」「教科で取り組んでいる」割合が最も高く、キャリア教育に連動し、授業改善も組織的に取り組み始めている状況がうかがえる。

■アクティブラーニングなど授業改善の実施（全体／単一回答）



※「2014年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以下低い

Q17_01

【フリーコメント⑩】授業改善の具体的な取り組み内容

■授業科目・内容

英語・外国語

- 交換留学制度は以前からある(韓国、ドイツ、オーストラリア)。LHRなどを利用し、国際的視野を広げるような講演会などを企画している。クラスによっては、英語による理科の授業を実施している。長期休暇を利用し、(ネイティブ)ホームステイを伴った短期の語学研修、またJICAに協力してもらい、開発途上国への短期研修などを実施している。[山梨県/私立/普通]
- 英語スピーキングコンテストなど、参加型の行事を導入している。[京都府/私立/普通]

専門科目・実技・演習・創作活動

- 実習や課題研究など、週に6時間は一斉講義型でない授業を行っている。[島根県/県立/その他]
- 少人数授業の中での演習取り組みを多用。遠隔授業(教員は他校からカメラに向かって)。地元産食材を活用した食品開発・実習授業。[北海道/道立/普通]

■指導法・ツール

グループワーク・グループ学習

- 少人数グループをつくりグループ内で説明し合える環境を整えて問題演習が単に正解を知るだけにとどまらないように努めている。解答がグループ内で分かれたときは説得(自分の解をグループ内に納得させる)できるかどうかポイントを置いている。[奈良県/県立/普通]
- 総合的な学習の時間ではグループワークを積極的に取り入れた学習活動をしている。また何人かの教員がグループワークや視聴覚教材、インターネット上にある教材などを活用した指導を行っている。[北海道/道立/普通]
- 日本史や英語、国語の一部の教員による意識的試み。数学の一部の教員によるグループワークの問題演習やジグソー法を取り入れた授業。[東京都/私立/普通]

プレゼンテーション・発表

- 「総合的な学習の時間」や「社会と情報」など、プレゼンソフトを利用した最終発表を前提とした課題については、進路先研究や現代社会における問題点などをテーマとして発表機会を設けている。[東京都/私立/普通]
- 授業内の活動として成果物(ポスター)を作成し相互評価の材料として発表を行うなど。[静岡県/県立/普通]
- 地歴公民や国語におけるプレゼンテーション能力の向上の学習。[山口県/県立/普通]

グループディスカッション・討論・ディベート

- 授業中に立って話し合いをさせ授業の内容について発表させている。グループで話し合い教え合いを大事にしている。[北海道/道立/普通]
- GSC国際クラスにて、高2の英語でゼミ形式の授業を行っている。少人数のグループで授業を行い、ディスカッションや発表を中心に「異文化コミュニケーション」のセミナーを行っている。(高3ではそれをリサーチペーパーとして仕上げる)また高1のGSCの総合学習の時間に、大学などと連携し「異文化コミュニケーション」をテーマに、ワークショップ、ディスカッションをメインとした授業を行っている。[京都/私立/普通]

課題研究・探求活動・課題解決型学習

- 1年生では地域産業等の身近な産業から世論を知り、2年生では自己を探究し3年生ではこれまでの取り組みをまとめ進路等に関係する内容で課題研究に取り組んでいる。[北海道/道立/総合]
- 地域活性化のため地元大学と連携し、商店街等でフィールドワークを行い、課題発見、ディスカッション等を実施。地理授業では、グループでの「教え合い授業」を実施。[高知県/私立/普通]

■取り組み・実施体制

校内研修(講師招聘・研究授業)の実施

- 教員が年1回以上、授業公開して、互いに批評し合う。職員会議等で事例発表をする。[岩手県/県立/普通]
- 授業力向上研修会の定期開催。先進校の先生による講習会。[神奈川県/市立/普通]

教員個人による取り組み

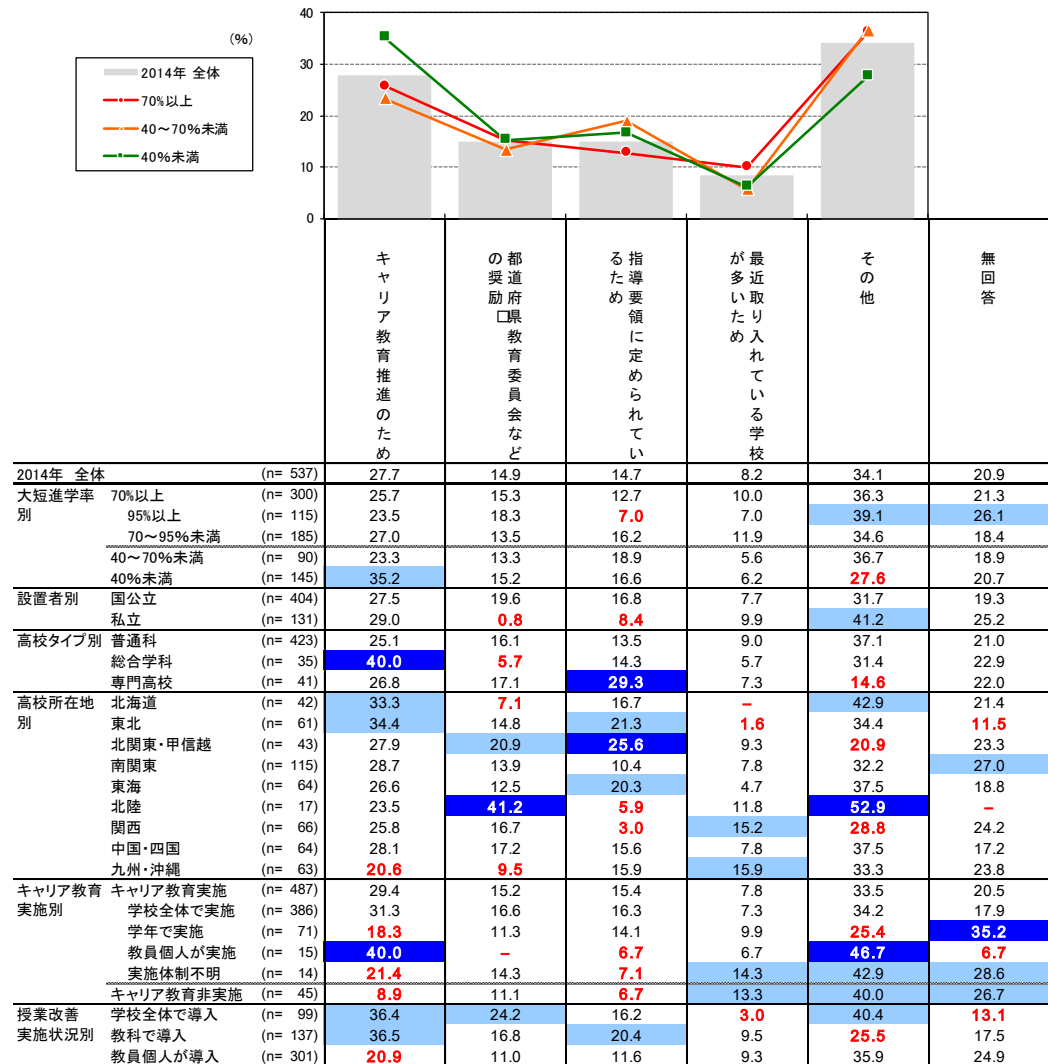
- 若手の先生を中心に、グループワークによる授業展開とか、実体験としての理解を深める授業等。[東京都/都立/普通]
- 英・数・国などの教科で、有志がグループ学習・アクティブラーニング型の授業を、模索しながら展開している。[宮城県/私立/普通]

2) 授業改善に取り組む理由

■「キャリア教育推進のため」授業改善に取り組んでいる。

- 授業改善実施校に、授業改善の実施に取り組む理由をすべて選んでもらった。
トップは「キャリア教育推進のため」(28%)。次いで「都道府県教育委員会などの奨励」「指導要領に定められているため」(いずれも15%)。
- 大短進学率別にみると、「キャリア教育推進のため」は進学率40%未満校で突出。この他、70%以上校は「最近取り入れている学校が多いため」、40～70%未満校・40%未満校は「指導要領に定められているため」が相対的に高い。
- 設置者別にみると、いずれも「キャリア教育推進のため」がトップ。国公立では以下「都道府県教育委員会などの奨励」「指導要領に定められているため」が理由として挙がるが、「キャリア教育推進のため」のみ突出している。
- 高校タイプ別にみると、普通科・総合学科は「キャリア教育推進のため」がトップ。専門高校では「指導要領に定められているため」がトップ、僅差で「キャリア教育推進のため」が続く。
- キャリア教育実施別にみると、キャリア教育実施校のトップは「キャリア教育推進のため」(29%)。キャリア教育非実施校のトップは「最近取り入れている学校が多いため」(13%)。

■授業改善の実施に取り組む理由（授業改善実施校／複数回答）



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q17_SQ2_01

※「2014年全体」降順ソート

【フリーコメント⑪】授業改善に取り組む理由:その他

- 「その他」回答が授業改善実施校の34%と多いため、自由回答の内容を分類した。
- 多く挙げたのは、【生徒】「生徒の学力向上のため」「生徒のため」「生徒の学習意欲・やる気を引き出すため」など生徒への効果を期待する理由や、【授業内容】「指導力の向上・わかる授業のため」「一斉講義型の限界から」など現状改善への意欲的な態度などがうかがえる。

■生徒

生徒の学力向上のため

- 授業改善は生徒の学びを深めるために行うのだと思います。[東京都/都立/総合]
- 真の意味での学力をつけるため(学ぶ力、社会人基礎力も含めて)。[静岡県/私立/普通]

生徒のためになるから

- 人を育てるために必要な方法だから。[北海道/道立/その他]

生徒の学習意欲・やる気を引きだすため

- 生徒が面白い！もっと学びたいという意欲喚起できるようにするため。[東京都/都立/普通]
- 一斉授業だけだと生徒に興味や感心を持たせることができない。[青森県/県立/総合]

生徒に将来必要な能力を身につけさせるため

- これからの世の中で必要とするスキルを身につけさせる為には、アクティブが最良と考え、取り組んでいる。[埼玉県/私立/普通]

■授業内容

指導力の向上・わかる授業のため

- 本校の生徒の良さを活用し立体的な授業を展開するため。[埼玉県/県立/普通]
- 生徒にとってわかる授業を提供するため。[高知県/県立/普通]

■学校

学校の方針・管理職の指導による

- 教務を中心として、研究授業をする目標を設定されているため、[福島県/県立/総合]
- 自校の教育目標実現のため。[東京都/都立/普通]

■授業改善に取り組む理由「その他」 （授業改善実施校／「その他」自由回答を分類）

(%)

	2014年 全体 (n=537) %	大短進学率別					授業改善実施状況別			
		70% 以上 (n=300) %	95% 以上 (n=115) %	70～95% 未満 (n=185) %	40～70% 未満 (n= 90) %	40% 未満 (n=145) %	学校 全体で 導入 (n= 99) %	教科で 導入 (n=137) %	教員 個人が 導入 (n=301) %	
生徒	生徒の学力向上のため	7.1	7.7	6.1	8.6	10.0	4.1	7.1	5.8	7.6
	生徒のためになるから	3.5	3.0	3.5	2.7	3.3	4.8	3.0	2.9	4.0
	生徒の学習意欲・やる気を引き出すため	3.0	2.3	-	3.8	2.2	4.1	2.0	2.2	3.7
	生徒に将来必要な能力を身につけさせるため	2.4	2.3	4.3	1.1	5.6	0.7	4.0	2.9	1.7
	生徒に主体的な学び・活動を促すため	2.2	2.7	4.3	1.6	1.1	2.1	-	2.2	3.0
	生徒の実態・変化に対応するため	0.9	1.3	-	2.2	-	0.7	1.0	0.7	1.0
	生徒の満足度・充実感向上のため	0.4	0.3	-	0.5	-	0.7	1.0	-	0.3
授業内容	指導力の向上・わかる授業のため	3.9	3.7	2.6	4.3	2.2	5.5	6.1	2.2	4.0
	一斉講義型の限界から	1.1	1.0	1.7	0.5	-	1.4	-	-	2.0
	グローバル化社会に適應するため	0.2	-	-	-	1.1	-	-	0.7	-
	ICTの導入による	0.2	0.3	-	0.5	-	-	-	0.7	-
教師	教師の自発的関心から	0.6	1.0	0.9	1.1	-	-	-	-	1.0
	教師自身のためになるから	0.4	0.3	0.9	-	-	0.7	-	0.7	0.3
	研修を受けたから	0.2	0.3	-	0.5	-	-	-	-	0.3
学校	学校の方針・管理職の指導による	2.0	2.7	2.6	2.7	1.1	1.4	4.0	2.2	1.3
	SSH・SGHの指定による	0.6	1.0	2.6	-	-	-	2.0	0.7	-
	以前から実施している	0.4	0.3	-	0.5	1.1	-	1.0	-	0.3
	中学校へのアピールのため	0.2	0.3	-	0.5	-	-	-	-	0.3
評価	当然・必要だから	1.3	1.3	2.6	0.5	2.2	0.7	-	2.9	1.0
	効果的だから	1.1	1.3	3.5	-	2.2	-	-	1.5	1.3
	現状打破のため	0.6	0.7	0.9	0.5	-	0.7	-	0.7	0.7
わからない	0.9	1.3	0.9	1.6	-	0.7	3.0	-	0.7	
「その他」不明	3.4	4.0	3.5	4.3	5.6	0.7	6.1	0.7	3.7	

2. 社会のグローバル化を意識した教育への取り組み

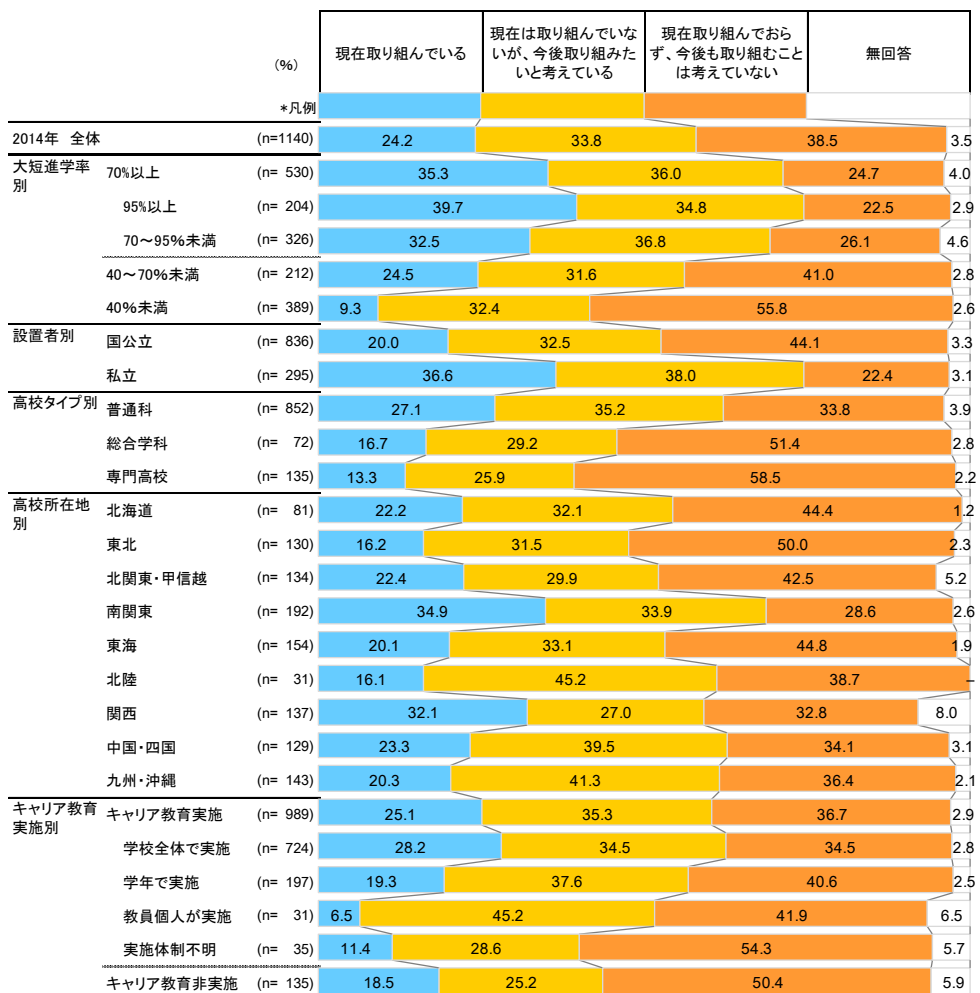
1) グローバル社会を意識した教育の実施状況

■全体の24%が「現在取り組んでいる」。

■その他高校の意向は、「今後取り組みたい」「今後もし取り組むことはない」に分かれる。

- 今後進むと予測される社会のグローバル化を意識した教育に取り組んでいるかたずねた。
調査対象校の24%がグローバル化を意識した教育に「現在取り組んでいる」。過半数が未着手であるが、「今後は取り組みたいと考えている」(34%)、「今後もし取り組むことはない」と、意向はほぼ二分。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど実施率は高い。
- 設置者別にみると、私立の実施率は37%。国公立(20%)を10ポイント以上上回る。
- 高校タイプ別にみると、普通科(27%)での実施率が総合学科(17%)・専門高校(13%)を上回る。
- 高校所在地別にみると、実施率が高いのは南関東(35%)、関西(32%)。反対に実施率が低いのは、東北、北陸(いずれも16%)。
- キャリア教育実施別にみると、キャリア教育実施校における実施率は25%、非実施校(19%)を上回る。
学校全体で実施校での実施率が最多。

■グローバル社会を意識した教育の取り組み（全体／単一回答）



Q19.01

【フリーコメント⑫】グローバル社会を意識した教育の具体的内容

■現在取り組んでいる内容

海外留学、海外修学旅行

- 海外の学生を本校に招き、意見交換し、多様な考え方を身につけさせること。海外へ研修旅行などで行かせ、視野を広げさせること。[北海道/私立/普通]
- 各種留学(短期、1年など)の他、米国大学におけるグローバル人材プログラムに取り組みます。[大阪府/私立/普通]
- 1年留学、海外修学旅行、海外語学研修、英検取得。[大阪府/私立/普通]

外国人との交流、海外からの留学生受け入れ

- 講演会の実施。外国から修学旅行団などの受け入れ。ホームルーム活動での取組など。[広島県/市立/総合]
- 英語力、国語力を向上させ海外に赴任する可能性や外国人の人達と働く、学ぶ可能性を教える。海外修学旅行の実施、[東京都/都立/専門]
- 本校では中国、韓国、ベトナムなどの留学生やその他在日外国人の子弟を多数受け入れている。[千葉県/私立/普通]

英語力・表現力の向上、国際情勢の理解

- 英語力の向上。国際社会の知識。他国の文化や習慣を身につけ、理解する。[青森県/県立/専門]
- 中1～高2まで一斉に“GTEC for STUDENTS”を行い、英語力の推移を見て指導している。また、英語の重要性、グローバル社会の環境を理解させるガイダンスを行っている。[大阪府/市立/総合]
- 科学英語の強化。英語によるプレゼンテーション実践。[茨城県/私立/普通]
- 国際経済、国際政治を中心に新聞等の話題を提供し意識づけを行うよう取り組んでいる。[鹿児島県/市立/専門]
- 国語表現での自分の意見を根拠をもとに発信する力。[山口県/県立/総合]

■現在は取り組んでいないが、今後取り組みたい内容

海外機関・国内外の地域との学外連携の強化

- 海外の各種機関、国内の各地域などと連携し、校内をグローバル＆ローカルの環境に整えたい。[神奈川県/私立/普通]
- アメリカンスクールの生徒達との交流を深めるような事ができないか？幼稚園のこども達と、遊びの中で英語を使う取組みをやってみたい。[東京都/都立/普通]
- キャリア教育はグローバル教育にもつながると思っている。地域の姉妹都市関連行事への参加などを進めていきたい。[秋田県/県立/普通]
- 地元の観光地を英語で案内できる取組みを始め、国際観光都市への対応。[岐阜県/県立/普通]

英語の強化、授業改善

- 英語科と連携して、英語をツールとして何ができるかを考えていきたい。[奈良県/私立/普通]
- 英語をもっとコミュニケーションに学び、実用能力を向上させる。アクティブラーニング型の授業を取り入れる。[秋田県/県立/普通]
- 国際バカロレア認定校。グローバル化を見据えて授業改革の一つとしてICT教育の推進・創造力、論理力、表現力に焦点をあてた授業の見直し。外国人(英語圏)教員の確保。[埼玉県/私立/普通]
- 学校全体としてのグローバル教育の意味付け→行事・教科活動への落とし込み→体系化。英語教育の改善。[静岡県/私立/普通]
- ネットを用いて他の学校などとの交流を深めて行く。関わる相手を学校から他のものへと広げて行く。[愛媛県/県立/普通]

既存カリキュラムの中での取り組み

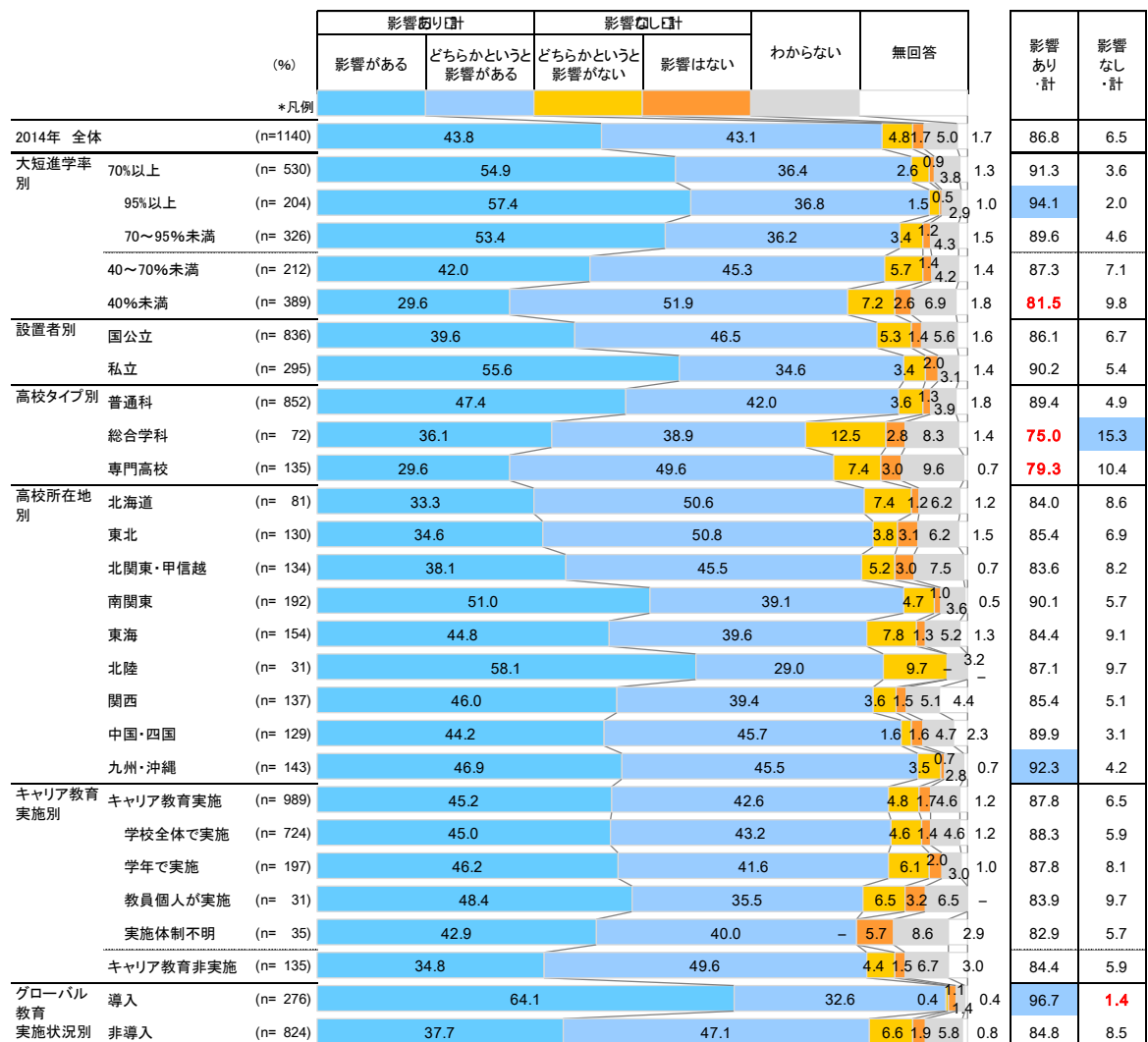
- SSM、SGHの対象校でなければそれに向けた予算も付かず、従来のカリキュラムを大きく変革することは難しい。意識付けという無形のものしかないと思う。進学後にそういった方向に進めるだけの学力を保障してやりたい。[奈良県/県立/普通]
- 語学も必要であるが、そもそもの発想として世界を視野に入れて考えられる発想力の育成の為、コラム読みなどで自分の考えを表現させたい。[東京都/私立/普通]

2) 社会のグローバル化の高校教育への影響度

■グローバル化は高校教育に「影響があると思う」は87%。

- グローバル化は高校教育に影響があると思うか、5段階評価でたずねた。
調査対象校の44%が「影響がある」と回答。「どちらかというど影響がある」を合わせると、87%が「影響あり」と考えている。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「影響あり」の認識は高い。
・「影響がある」の割合も進学率上位校ほど高く、グローバル化の影響をより切実に捉えている。
- 設置者別にみると、「影響あり」は私立(90%)、国公立(86%)いずれも過半数。
- 高校タイプ別にみると、「影響あり」は普通科(89%)で最も高く、総合学科(75%)・専門高校(79%)を上回る。
- 高校所在地別にみると、「影響あり」が高いのは九州・沖縄(92%)、南関東(90%)。
この他地域でも、「影響あり」の認識は8割を超える。
- キャリア教育実施別にみると、「影響あり」の認識はキャリア教育実施校(88%)、非実施校(84%)いずれも同程度。
- グローバル教育実施状況別にみると、実施校における「影響あり」の認識はほぼ全校に浸透(97%)。

■グローバル化の高校教育への影響（全体／単一回答）



※「2014年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / 5pt以上低い

Q18_01

3. ICTを使った教育(授業)への取り組み

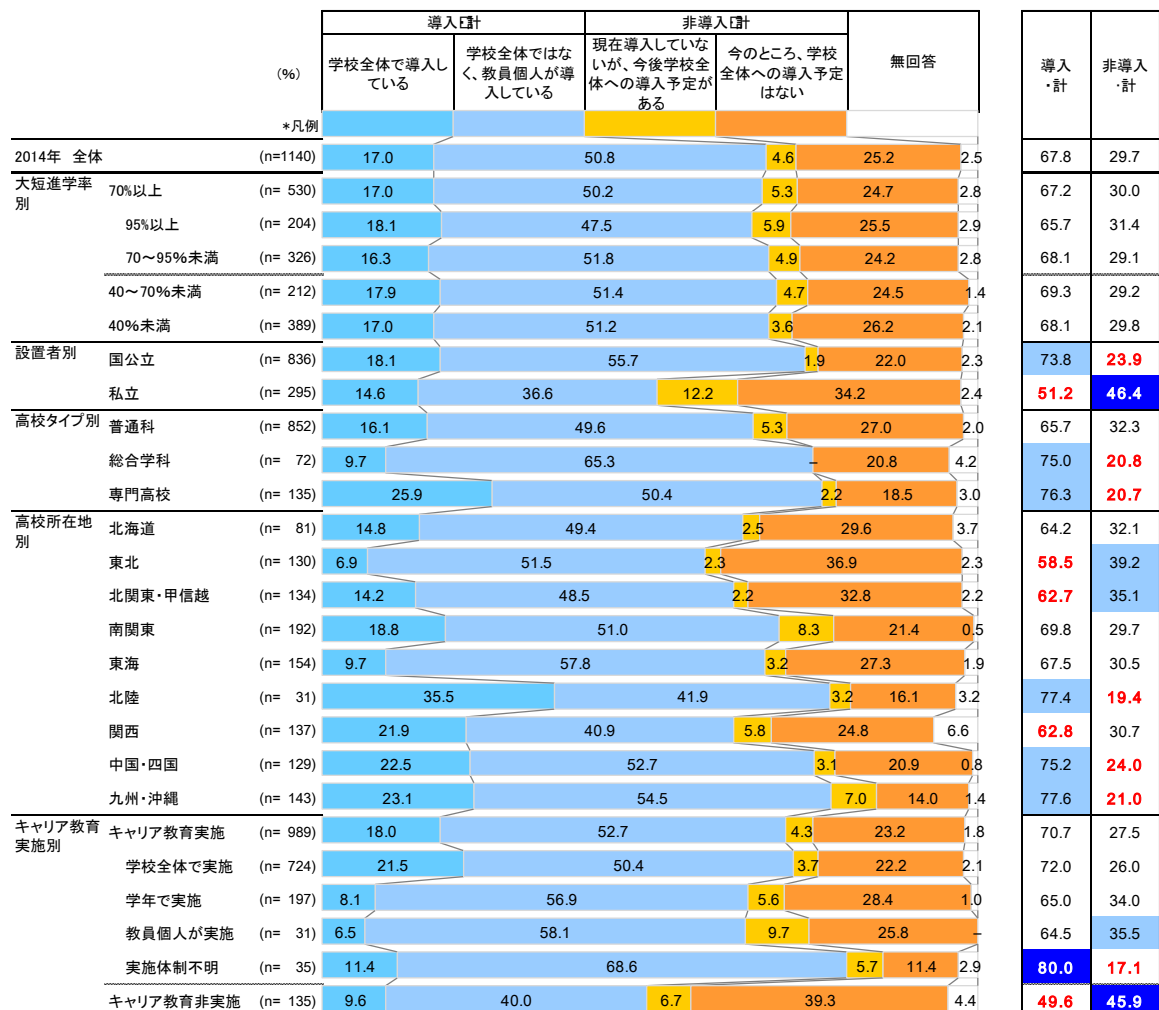
1) ICTを使った教育(授業)の導入状況

■全体の68%がICTを使った教育を実施中。

■取り組み方の最多は「教員個人が導入している」。学校全体での導入はまだ少ない。

- ICTを使った授業の実施状況をたずねた。
調査対象校の68%がICTを「導入」。その内訳は、「学校全体ではなく、教員個人が導入している」(51%)が最多。「学校全体で導入している」は17%。
- 大短進学率別による導入状況の差異はみられない。
- 設置者別にみると、導入率は国公立(74%)が私立(51%)を上回る。
- 高校タイプ別にみると、総合学科(75%)・専門高校(76%)での導入率が普通科(66%)を上回る。
・専門高校は「学校全体で導入している」の割合が最も高い(26%)。
- 高校所在地別にみると、導入率が高いのは九州・沖縄(78%)、北陸(77%)、中国・四国(75%)。反対に導入率が低いのは、東北(59%)、北関東・甲信越、関西(いずれも63%)。
- キャリア教育実施別にみると、キャリア教育実施校における導入率は71%、非実施校(50%)を上回る。
特に、学校全体で実施校では「学校全体で導入している」割合が最も高い。

■ICTを使った教育(授業)の導入 (全体／単一回答)



※「2014年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

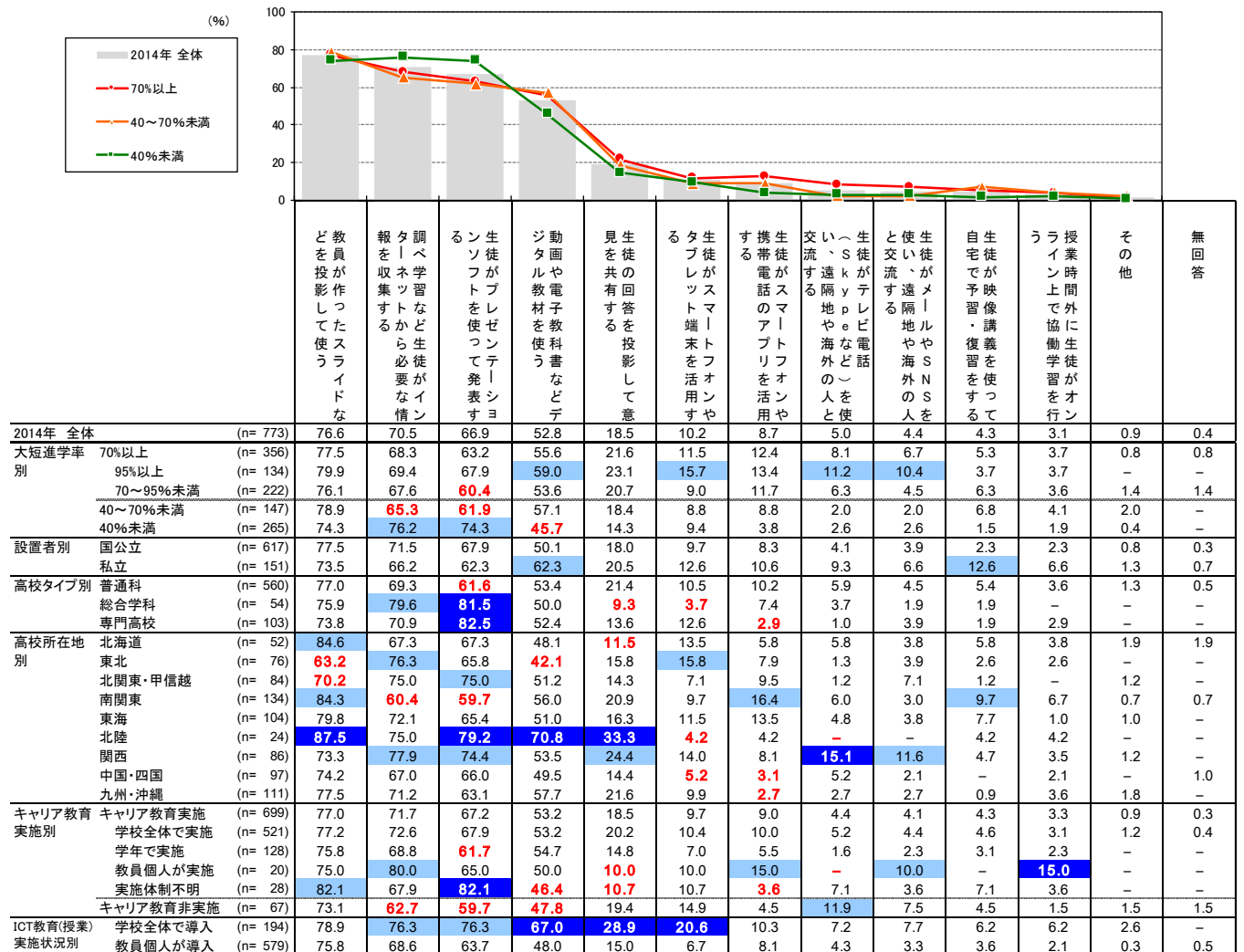
Q20.01

2) ICTを使った教育(授業)の取り組み内容

■「教員が作ったスライドなどを投影」「調べ学習などインターネットから情報収集」「生徒がプレゼンテーションソフトを使って発表」など、生徒自身がインターネットやデジタル機器を用いる授業が中心。

- ICT導入校に具体的な授業内容をすべて選んでもらったところ、トップは「教員が作ったスライドなどを投影して使う」(77%)。次いで「調べ学習など生徒がインターネットから必要な情報を収集する」(71%)、「生徒がプレゼンテーションソフトを使って発表する」(67%)、「動画や電子教科書などデジタル教材を使う」(53%)。
- 大短進学率別にみると、「教員が作ったスライドなどを投影して使う」の実施率はいずれも同程度。「調べ学習など生徒がインターネットから必要な情報を収集する」「生徒がプレゼンテーションソフトを使って発表する」の実施は、進学率40%未満校で相対的に高い。反対に「動画や電子教科書などデジタル教材を使う」は70%以上校・40～70%未満校での実施が相対的に高い。
- 設置者別にみると、いずれもトップは「教員が作ったスライドなどを投影して使う」。国公立は「調べ学習など生徒がインターネットから必要な情報を収集する」「生徒がプレゼンテーションソフトを使って発表する」、私立は「動画や電子教科書などデジタル教材を使う」「生徒が映像講義を使って自宅で予習・復習をする」がそれぞれ相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「教員が作ったスライドなどを投影して使う」、総合学科・専門高校は「生徒がプレゼンテーションソフトを使って発表する」がそれぞれトップ。
- ICT教育実施状況別にみると、学校全体で導入している学校は全項目が高く、実施手法が幅広い。

■ICTを使った教育(授業)の取り組み内容 (ICTを学校全体・教員個人で導入／複数回答)



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

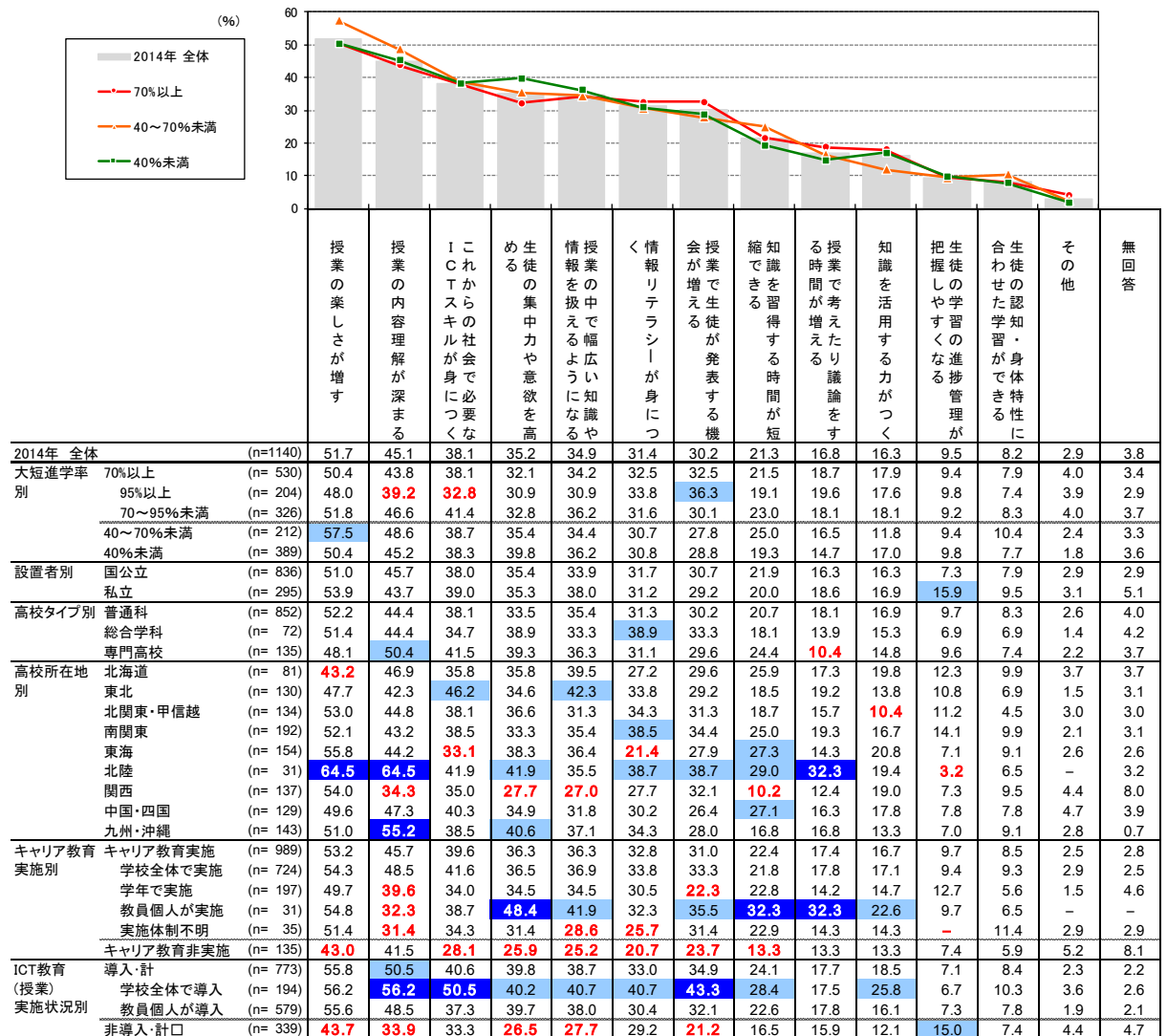
Q21.01

3) ICTを使った教育(授業)に期待する効果

■「授業の楽しさが増す」「授業の内容理解が深まる」→生徒の学習意欲・理解の向上を期待。

- ICT非導入校も含む全員に、生徒の学習場面でのICT活用によりどのような効果が期待されるか、すべて選んでもらった。トップは「授業の楽しさが増す」(52%)。2位は「授業の内容理解が深まる」(45%)。生徒の学習意欲・理解の向上を期待が上位。以下、「これからの社会に必要なICTスキルが身につく」(38%)、「生徒の集中力や意欲を高める」「授業の中で幅広い知識や情報を扱えるようになる」(いずれも35%)が続く。
- 大短進学率別にみると、いずれも「授業の楽しさが増す」「授業の内容理解が深まる」が上位。進学率70%以上校は「授業で生徒が発表する機会が増える」、40～70%未満校は「授業の楽しさが増す」「授業の内容理解が深まる」「知識を習得する時間が短縮できる」、40%未満校は「生徒の集中力や意欲を高める」が高い。
- 設置者別にみると、「生徒の学習の進捗管理が把握しやすくなる」は、私立の期待が国公立に比べ高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科・総合学科は「授業の楽しさが増す」、専門高校は「授業の内容理解が深まる」がトップ。
- ICT教育実施状況別にみると、学校全体で導入している学校は相対的に高い項目が多く、期待する効果が幅広い。非導入校の期待は全体に低いが、「生徒の学習の進捗管理が把握しやすくなる」は導入校よりも期待。

■ICTを使った教育(授業)に期待する効果 (全体/複数回答)



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

Q23.01

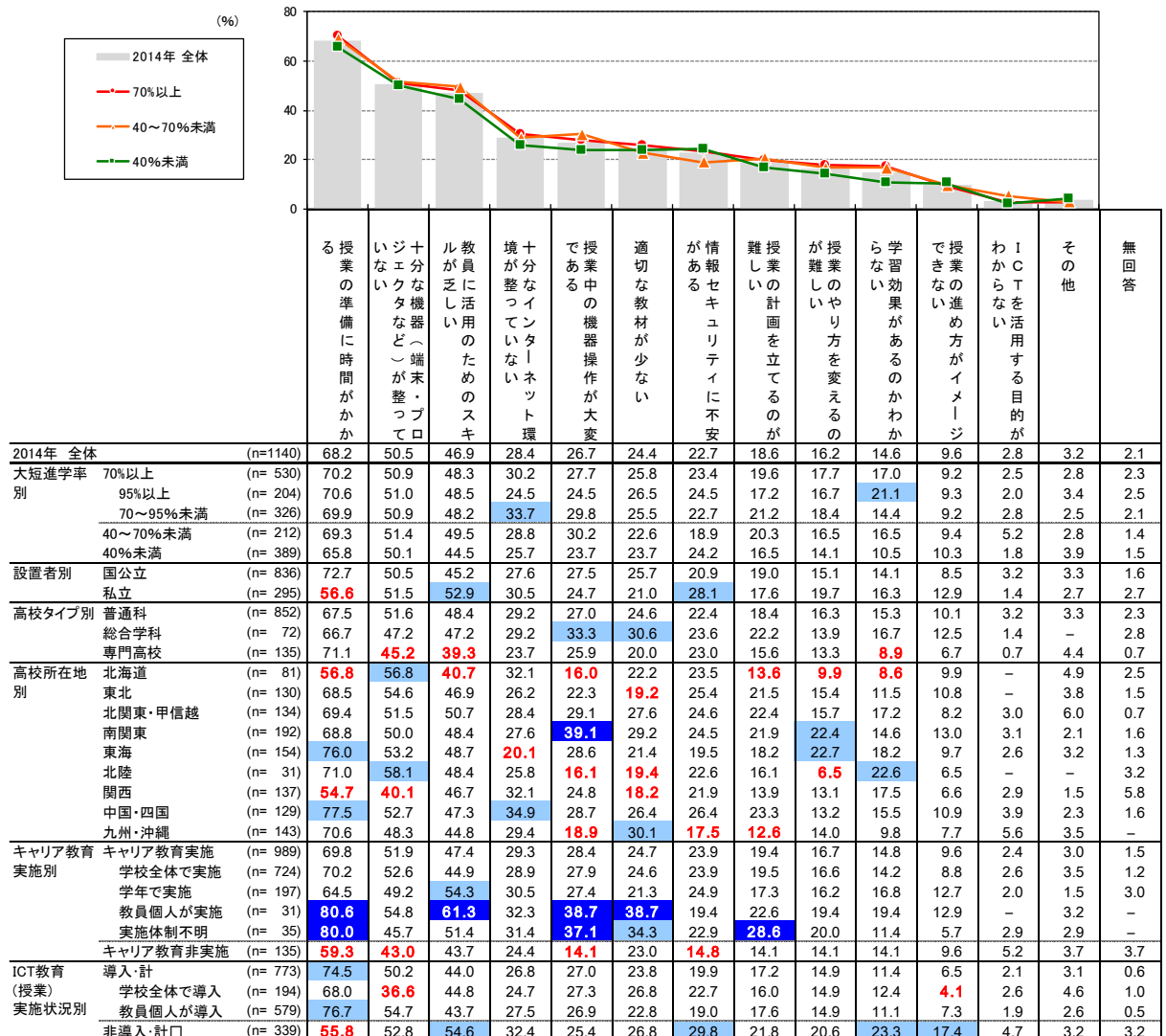
4) ICTを使った教育(授業)導入の課題

■「授業の準備に時間がかかる」が課題として突出。

■非導入校にとっては、「教員のスキル」「情報セキュリティ」が導入のハードルとなっている。

- ICT非導入校も含む全員に、ICTを授業で活用するにあたって課題とすることはなにか、すべて選んでもらった。トップは「授業の準備に時間がかかる」(68%)が突出。2位は「十分な機器が整っていない」(51%)、3位は「教員に活用のためのスキルが乏しい」(47%)。以下、「十分なインターネット環境が整っていない」(28%)、「授業中の機器操作が大変である」(27%)が続く。
- 設置者別にみると、国公立は「授業の準備に時間がかかる」、私立は「教員に活用のためのスキルが乏しい」「情報セキュリティに不安がある」がそれぞれ相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「十分な機器が整っていない」、総合学科は「授業中の機器操作が大変である」「適切な教材が少ない」がそれぞれ他学科に比べ高い。また、普通科・総合学科は「教員に活用のためのスキルが乏しい」が専門校に比べ高く、機器の整備や操作・活用のスキルへの不安が強い。専門高校はトップの「授業の準備に時間がかかる」が課題として突出、その他項目は相対的に低い。
- ICT教育実施状況別にみると、ICT導入校は「授業の準備に時間がかかる」が突出。非導入校は、「教員に活用のためのスキルが乏しい」「情報セキュリティに不安がある」「学習効果があるのかわからない」「授業の進め方がイメージできない」が相対的に高く、教員のスキル・情報セキュリティへの不安や効果への疑問が強い。

■ICTを使った教育(授業)の課題 (全体/複数回答)



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2014年全体」降順ソート

Q23.01

4. 反転授業への取り組み

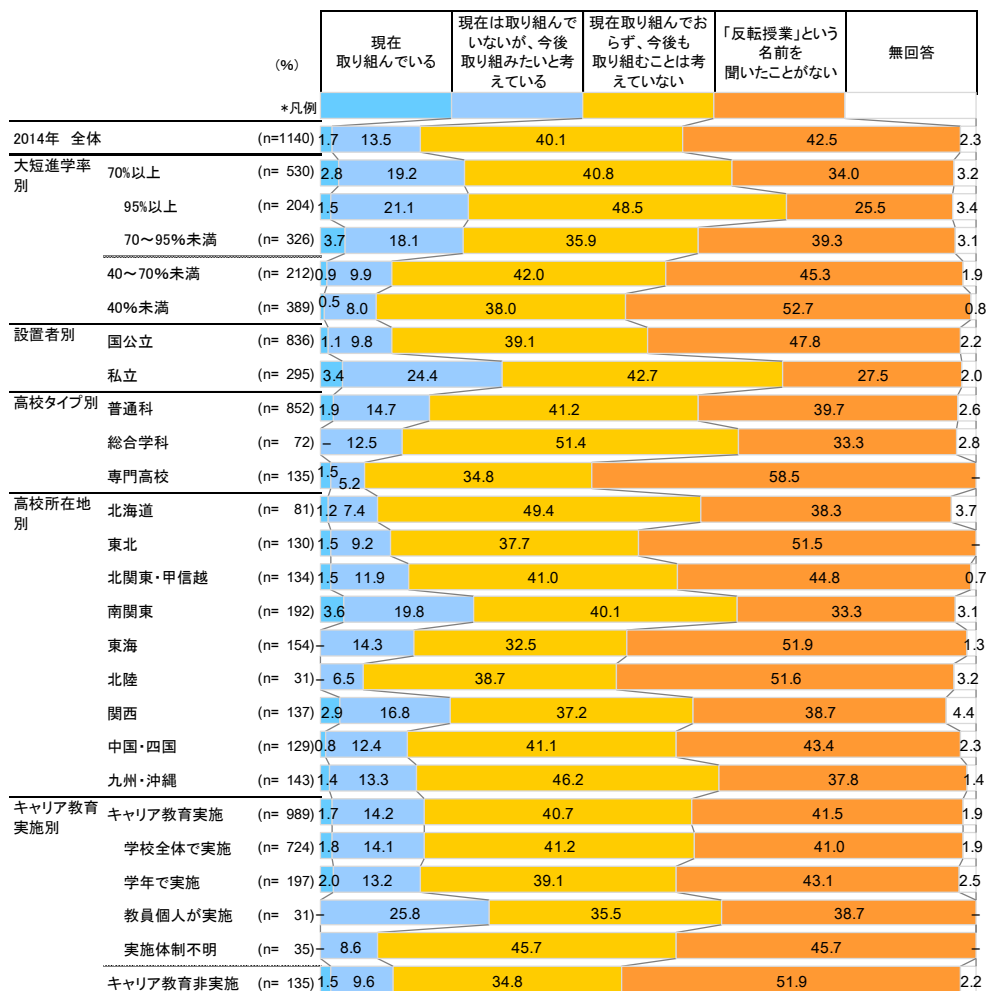
反転授業の実施状況

■全体の2%が「現在取り組んでいる」。

■43%が「『反転授業』という言葉聞いたことがない」。

- 最後に、現在反転授業に取り組んでいるかをたずねた。
調査対象校の2%が「現在取り組んでいる」。ほとんどが未着手であるが、「『反転授業』という名前を聞いたことがない」(43%)が最多。
「今後も取り組むことは考えていない」(40%)が「現在は取り組んでいないが、今後取り組みたいと考えている」(14%)を上回る。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど実施率・取り組み意向いずれも高い。
- 設置者別にみると、実施率・取り組み意向いずれも私立が国公立に比べ高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科の実施率・取り組み意向が他学科に比べ高い。
- 高校所在地別にみると、南関東での実施率(4%)・取り組み意向(20%)が最多。次いで関西(実施率3%・取り組み意向17%)。
- キャリア教育実施別にみると、実施率・取り組み意向いずれもキャリア教育実施校(実施率2%・取り組み意向14%)が非実施校(実施率2%・取り組み意向10%)を上回る。

■反転授業の導入（全体／単一回答）



▼本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします▼

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研 キャリアガイダンス編集室
e-mail:career@r.recruit.co.jp

- ※ 出版・印刷物等へデータ記載する際には、“リクルート進学総研調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。
- ※ この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンスVol.406』(リクルート)にも掲載しています。